



# プラン作成編

# 目次

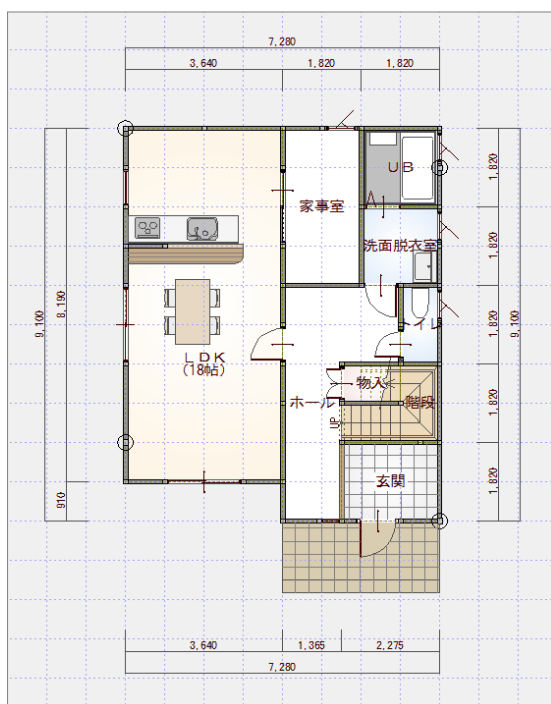
<b>1 プランの入力</b>	<b>3</b>	<b>4 立面図の作成</b>	<b>59</b>
作成するプラン	3	4-1 立面図の自動作成	59
1-1 新規物件の作成	4	4-2 作成条件の変更	60
1-2 部屋の入力	6	<b>5 平面図・立面図の印刷</b>	<b>61</b>
1-3 通し柱の入力	9	5-1 図面の配置	61
1-4 建具の入力	10	5-2 図面の印刷	67
1-5 階段の入力	14	[補足] 図面の属性変更ダイアログの設定項目	68
1-6 柱・壁・仕上の一括作成	16		
1-7 立体の確認	17		
1-8 柱壁の追加	18		
[補足] 一括作成の作成モード	20		
1-9 シンボルの入力	21		
1-10 部品の入力	22		
1-11 図面を仕上げる	25		
1-12 2階の入力	26		
1-13 屋根の入力・天井仕上の確認	32		
<b>2 敷地・道路・外構の入力</b>	<b>38</b>		
2-1 敷地の入力	38		
2-2 専用編集（敷地の移動）	41		
2-3 方位の入力	42		
2-4 敷地境界線の設定	43		
2-5 道路の入力	44		
2-6 斜線制限のチェック	45		
2-7 外構の入力	46		
<b>3 外観パースの作成</b>	<b>50</b>		
3-1 素材の変更	50		
3-2 視点の設定とカメラの登録	54		
3-3 背景・光源の設定	55		
3-4 作成イメージの確認	56		
3-5 画像の保存・印刷	57		

## 1

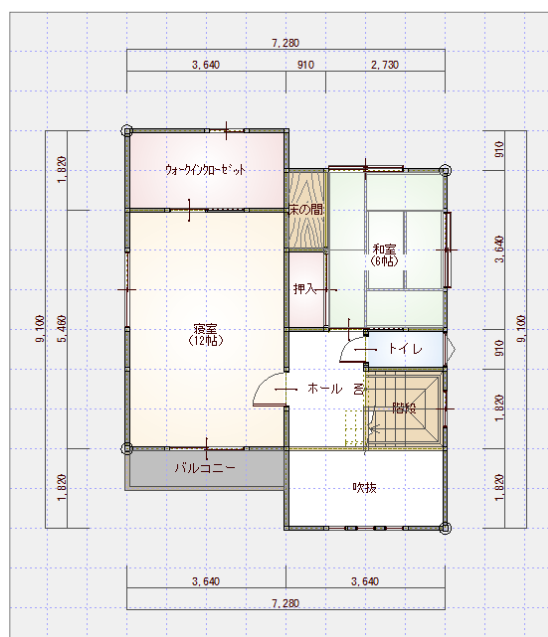
## プランの入力

部屋、建具、階段などのデータを入力し、部屋データから柱、壁や仕上、部屋寸法線を自動作成しましょう。さらに、シンボル、部品などを入力して図面を仕上げましょう。

## 作成するプラン



【1階 平面図】



【2階 平面図】



【外観パース】

# 1-1 新規物件の作成

構造や階数といった主な条件を設定し、平面図 1 階を開きましょう。

- ※ すでに図面ウィンドウを開いている場合は、「物件変更」をクリックして「物件選択」ダイアログに戻り、「新規」をクリックします。起動方法については、「基本操作編」P.2 を参照してください。

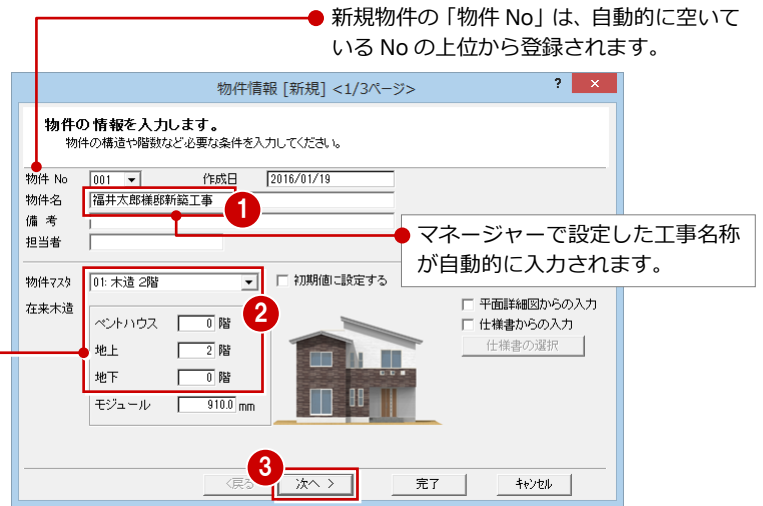


## 物件情報を入力する

「物件情報」ダイアログの<1/3 ページ>を設定しましょう。

- 物件名や構造、階数を設定します。
- 「次へ」をクリックします。

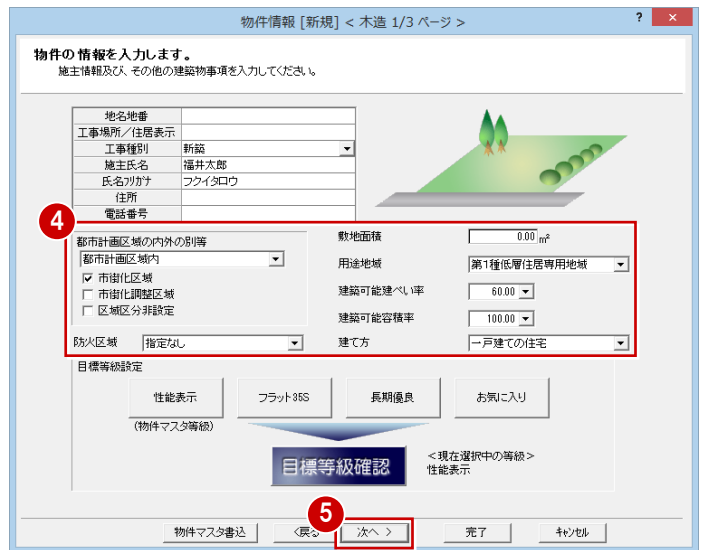
データ制限  
 入力範囲：4000m四方まで  
 階数：地下 10 階、地上 100 階、  
 ペントハウス 10 階まで



木造用の「物件情報」ダイアログが開きます。<木造 1/3 ページ>を設定しましょう。

- 用途地域や建ぺい率、容積率などを設定して、「次へ」をクリックします。

※ 敷地面積は、配置図の入力後に自動で取得できるため、ここで入力しておく必要はありません。

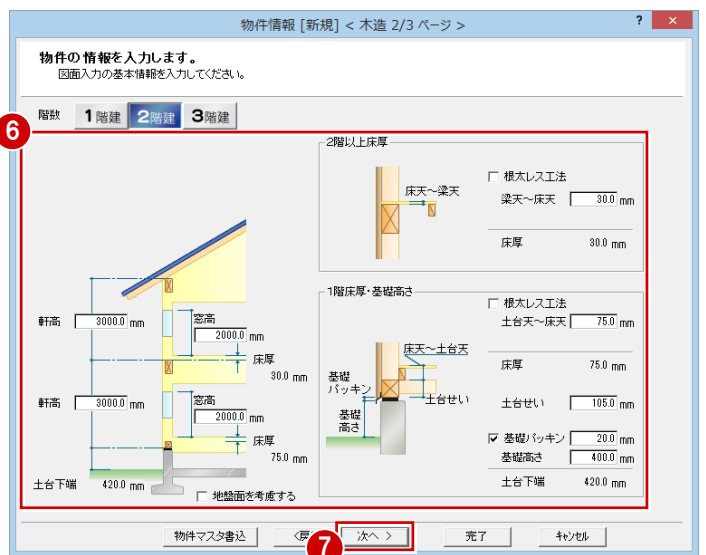


<木造 2/3 ページ>を設定しましょう。

- 基準高さを設定して、「次へ」をクリックします。

### 基準高さの連動先

基準高	基準高を参照する部材、自動描画など
GL	敷地高さ、ポーチ、犬走りの下端高の基準
基礎高	床下換気口の上端位置基準 断面図/矩計図の躯体自動時の基礎高さ
FL	部屋の床高の基準、たれ・腰壁の下端基準 内部階段の始点高・終点高の基準 建具の取付高(基準増減)の下端基準
窓高/階高	建具の取付高(基準増減)の上端基準
軒高	屋根の取付高(軒高基準)の増減 小屋裏換気口の上端高の基準



<木造 3/3 ページ>を設定しましょう。

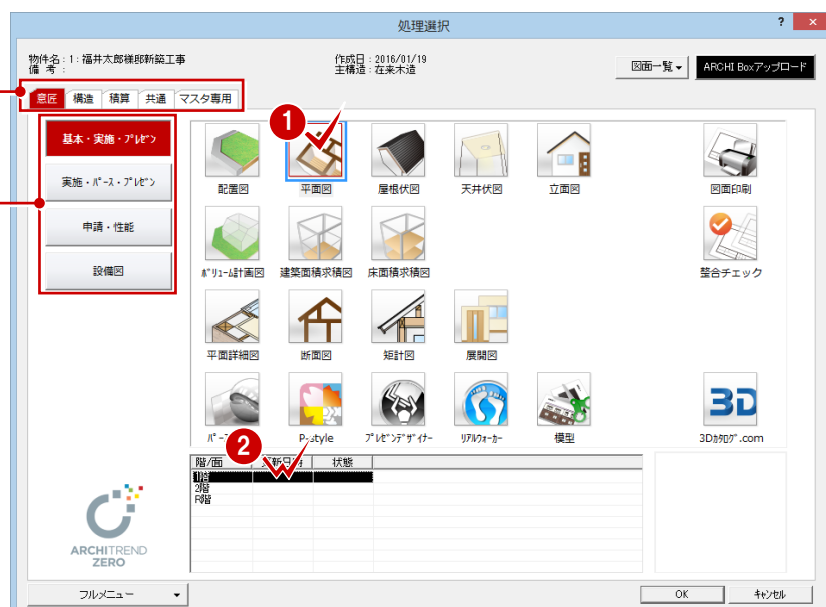
- 8 9 モジュール、柱サイズ、基礎・束タイプを設定して、「完了」をクリックします。



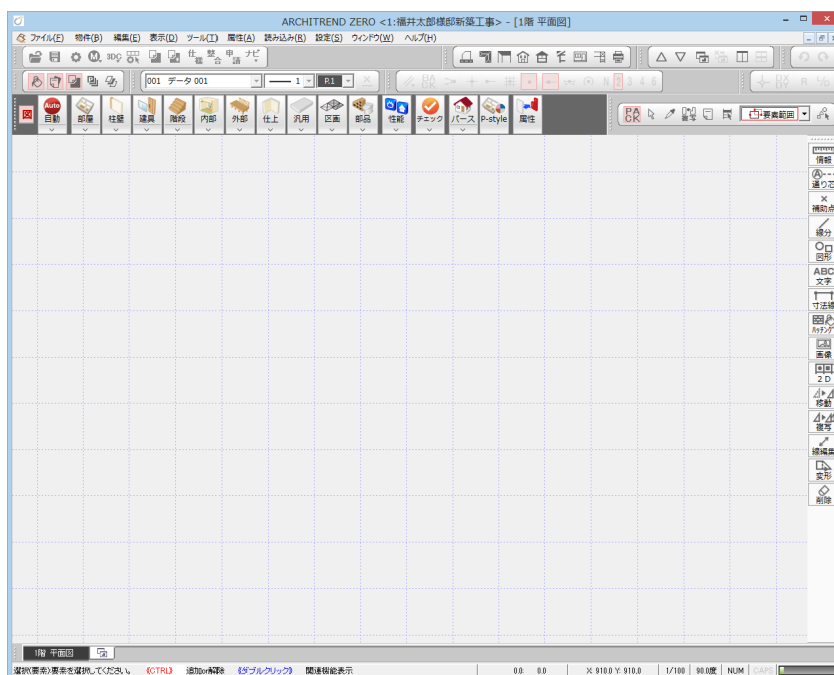
## 図面ウィンドウを開く

- 1 2 「平面図」をクリックして、「1階」をダブルクリックします。

タブやボタンの切り替えで、他のプログラムも表示されます。



1階平面図のウィンドウが開きます。



## 1-2 部屋の入力

1 階平面図に部屋を入力します。

部屋はすべてのデータの元になるため、必ず入力します。入力したい部屋名がない場合も、属性の近い部屋を選択して入力しましょう。

### 塗り潰しについて

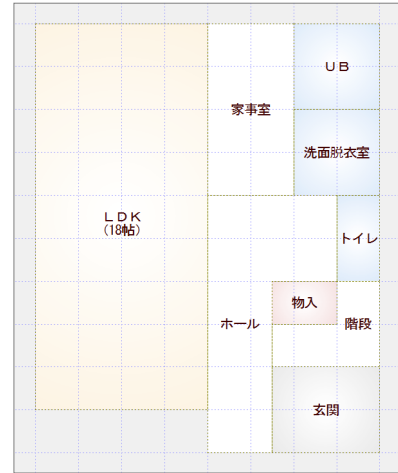
塗り潰す対象の部材や色は、「平面図 専用初期設定 (塗り潰し)」ダイアログで設定します。

※ 塗り潰しの表示・非表示は、ツールバーで切り替えます。



: 塗り潰し表示

: 塗り潰し非表示



### 矩形の部屋を入力する

- 1 「部屋」をクリックします。
- 2 入力方法が「矩形」であることを確認します。

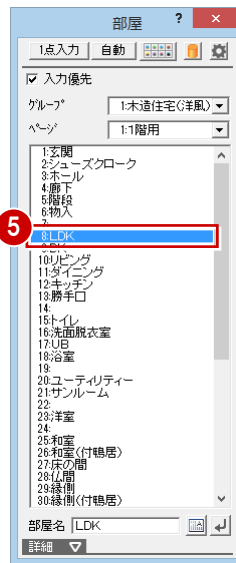


- 3 4 「グリッド」のみ ON、「グリッド分割」が「2」であることを確認します。



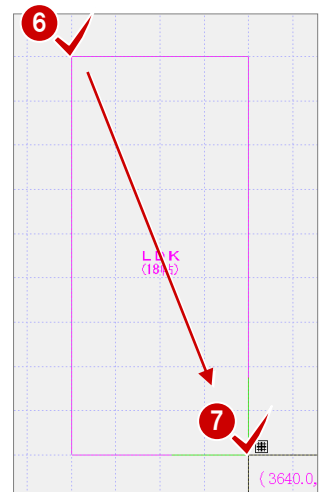
⇒ ピックモードについては、「基本操作編」P.4 参照

- 5 入力したい部屋 (「LDK」) を選びます。
- 6 7 部屋の始点 ⇒ 対角点をクリックします。

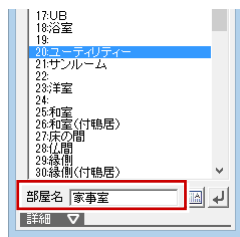


※ 以降の操作においても特に説明がない限り、「グリッド」のみ ON、「2 分割」を使用します。

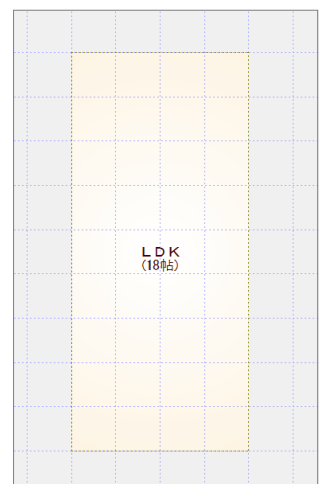
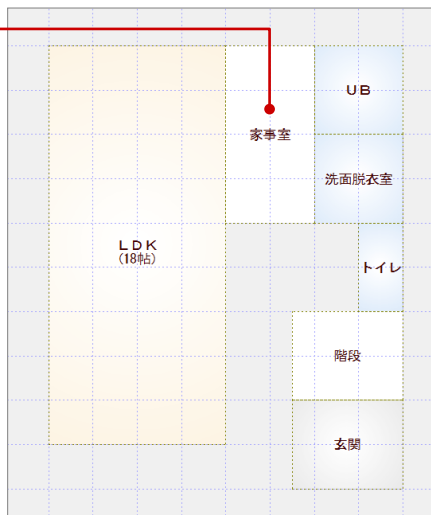
- 8 同様な操作で、「家事室」「UB」「洗面脱衣室」「トイレ」「階段」「玄関」を順に入力します。



「ユーティリティ」を選択して、部屋名を「家事室」に変更しています。

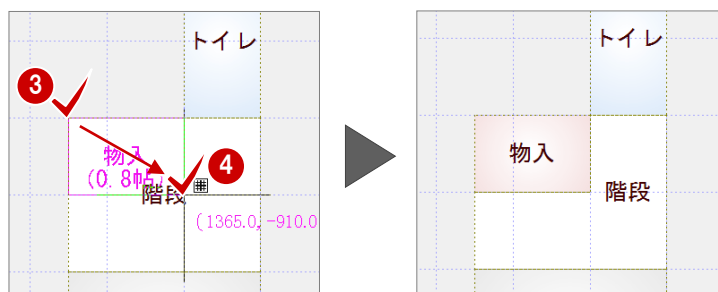
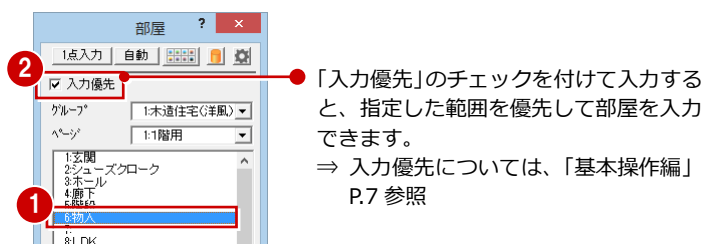


⇒ 多角形や一部 R の部屋入力については、「基本操作編」P.5 参照



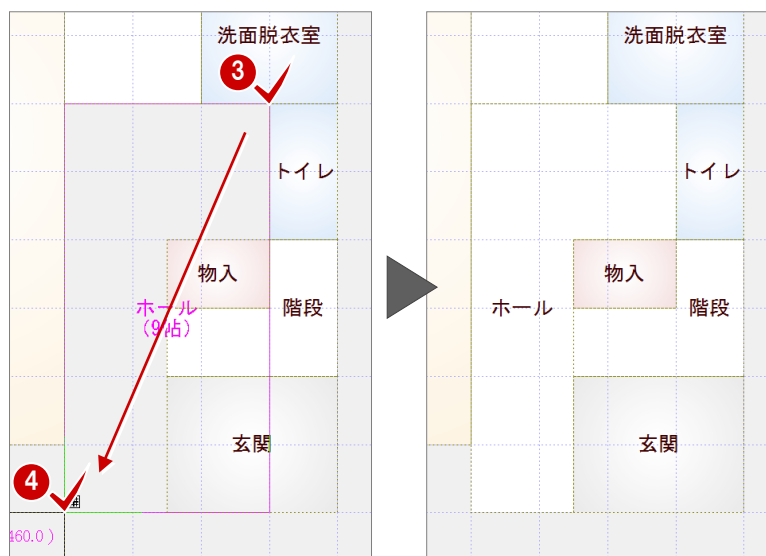
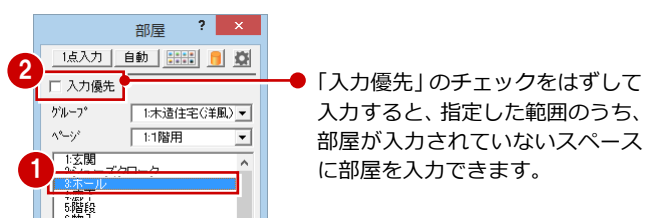
## 部屋を重ねて入力する

- ① 「物入」を選びます。
- ② 「入力優先」にチェックが付いていることを確認します。
- ③④ 右図のように、部屋の始点 ⇒ 対角点をクリックします。



## 空きスペースに部屋を入力する

- ① 「ホール」を選びます。
- ② 「入力優先」のチェックがはずれていることを確認します。
- ③④ ホール全体を囲むように、部屋の始点 ⇒ 対角点をクリックします。



### 入力優先の自動切り換えについて

初期状態では「ホール」「廊下」を選択すると、「入力優先」のチェックがはずれて、それ以外の部屋を選択すると、チェックが付くようになっています。  
自動切り換えは、「共通初期設定 (モード)」ダイアログの「ホール・廊下タイプの入力優先を OFF」で設定します。

## 座標を使った部屋入力

間くずれした部屋を入力するときは、座標入力で部屋のサイズを指定する方法を利用します。  
部屋を選び、始点をクリックしたあとに、「相対座標入力」を ON にします。「dx」「dy」に部屋サイズを入力して「OK」をクリックすると、指定したサイズの部屋を入力することができます。

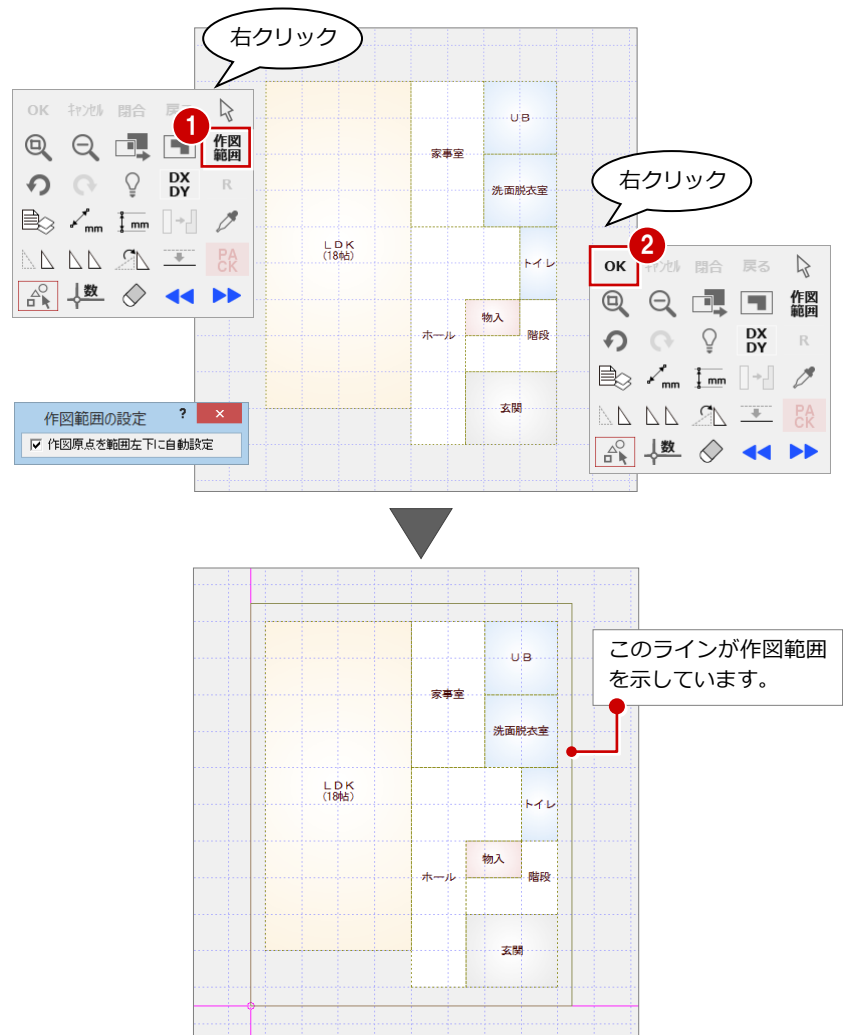


## 1 プランの入力

### 作図範囲を設定する

- 1 右クリックして、ポップアップメニューから「作図範囲」を選びます。
- 2 再度、右クリックして「OK」を選びます（Enter キーでも同様）。  
部屋全体が収まるように作図範囲が設定されます。

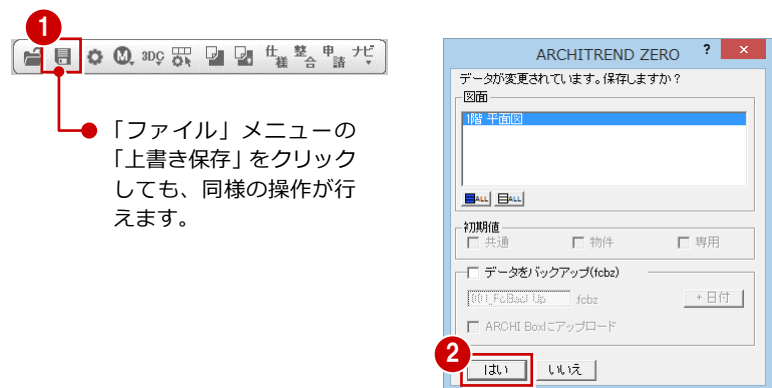
⇒ 作図範囲については、「基本操作編」P.9 参照



### データを保存する

- 1 ツールバーの「上書き保存」をクリックします。
- 2 保存する図面を確認して、「はい」をクリックします。

以降の操作においても、区切りの良いところで、データを保存するようにしましょう。





## 1-3 通し柱の入力

管柱や間仕切り壁・外壁などは一括作成機能を使って、まとめて配置します。  
通し柱の位置が決まっている場合は、一括作成の前に入力しておきます。

- ① 「柱壁」メニューから「柱」を選びます。



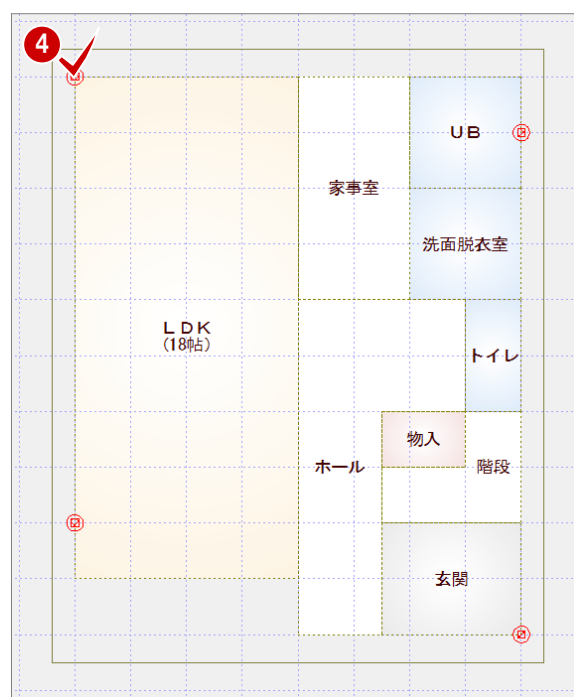
- ② 「通し柱」をクリックします。



- ③ 入力方法が「1点」であることを確認します。



- ④ 右図のように、通し柱を4か所に入力します。

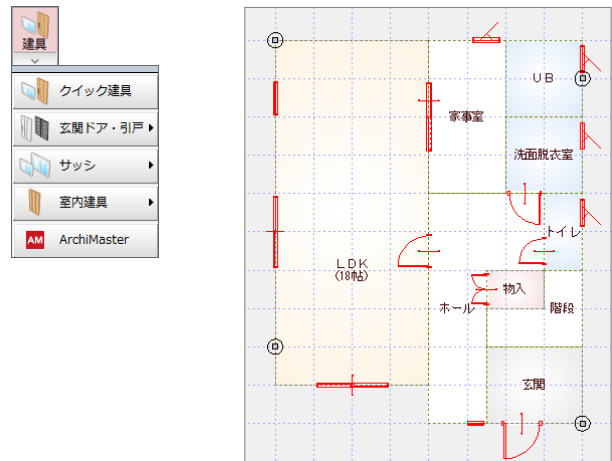


## 1-4 建具の入力

窓やドア、木製戸などの建具を入力しましょう。

建具の入力には、以下の2通りの方法があります。

- クイック建具入力を使用して、指定した部屋と幅に応じた建具を自動配置する方法  
⇒ 平面図 2 階の建具は、こちらの方法で入力します。
- 建具入力バーから入力したい建具を選んで、入力位置を指定する方法  
⇒ 平面図 1 階の建具は、こちらの方法で入力します。



### 建具メニューについて

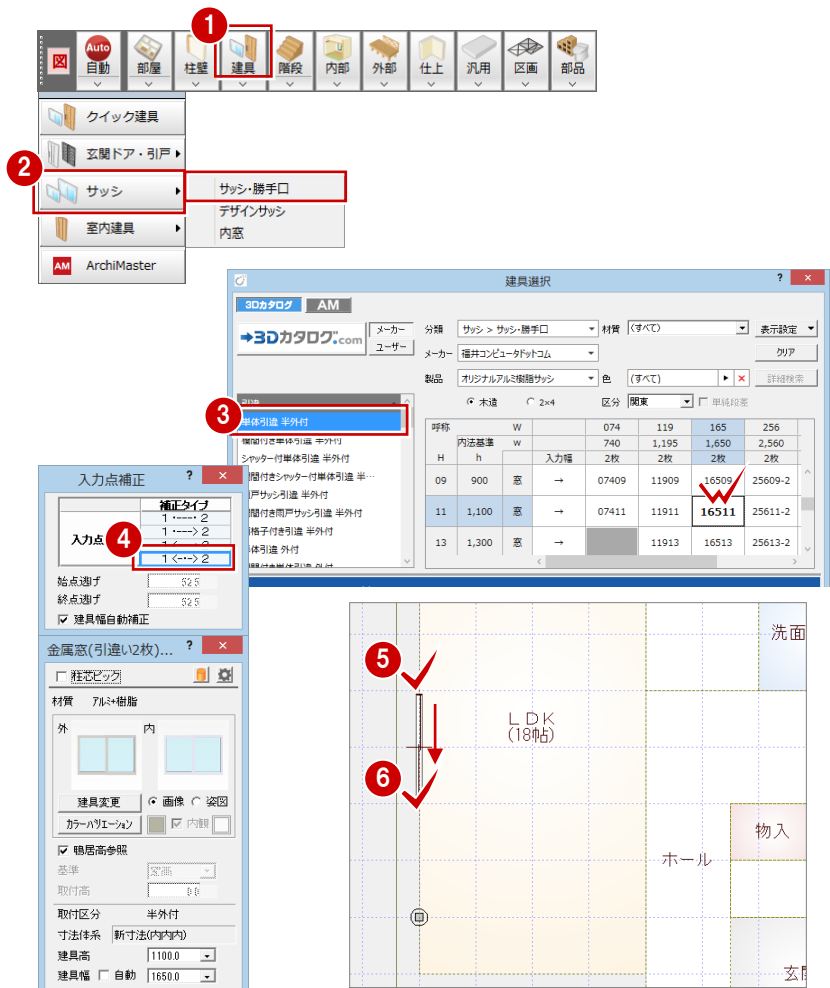
本書では3Dカタログの建材データを使用しています。表示される建具メニューが画面と異なる場合は、ツールバーの「建材マスターモード切替」が「3DC」になっているか確認してください。



### サッシを一覧から選んで入力する

サッシの入力が変わり、幅×高さの一覧よりサッシを選択するようになります。

- 1 「建具」をクリックします。
- 2 「サッシ」メニューから「サッシ・勝手口」を選びます。
- 3 一覧から「引違」の「単体引違 半外付」を選び、「w1650h1100」をダブルクリックして選択します。
- 4 「補正タイプ」が「1<--->2」であることを確認します。
- 5,6 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。



### サッシの幅×高さの一覧（マトリックス）について

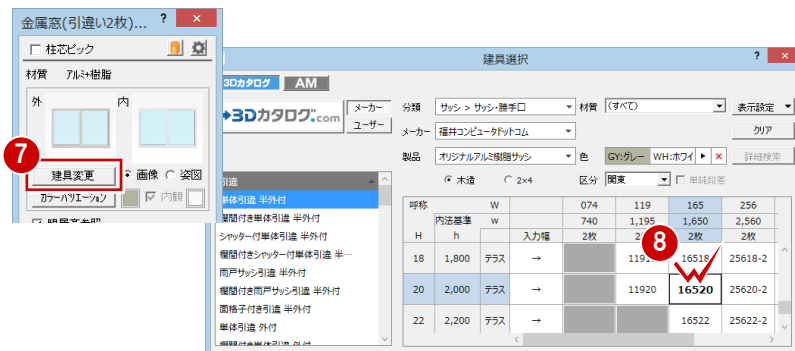
幅×高さの一覧（マトリックス）と同じようなマスターの作成は、ユーザー登録ではできません。メーカーの提供サッシのみになります。

### 補正タイプについて

- 1 ---> 2 : 始点逃げ、終点逃げを考慮した値で建具幅が決まります。建具選択時に選んだ建具幅は無効になります。
- 1 ---> 2 : 始点側に建具を寄せて入力します。始点逃げを考慮して、指定した建具幅の建具が配置されます。
- 1 <--- 2 : 終点側に建具を寄せて入力します。終点逃げを考慮して、指定した建具幅の建具が配置されます。
- 1 <---> 2 : 始点・終点の中央に、指定した建具幅の建具が配置されます。

7 「建具変更」をクリックします。

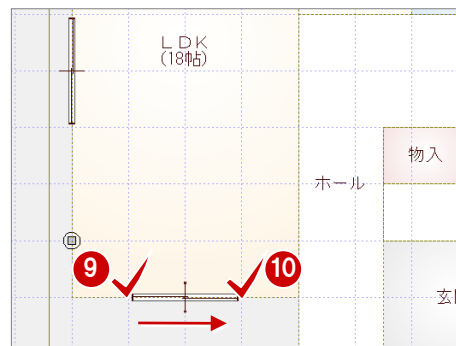
8 一覧から「w1650h2000」をダブルクリックして選択します。



9,10 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。

### 建具の入力方向について

外部建具の場合、入力方向に関係なく、部屋領域から判断して建物外部に建具の外側が向くように自動設定されます。  
内部建具の場合、始点 ⇒ 終点方向の右側が建具の内側になります。部屋の内部を中心に時計回りで入力してください。



### 縦すべり窓を入力する

家事室、UB、洗面脱衣室、トイレに入力しましょう。

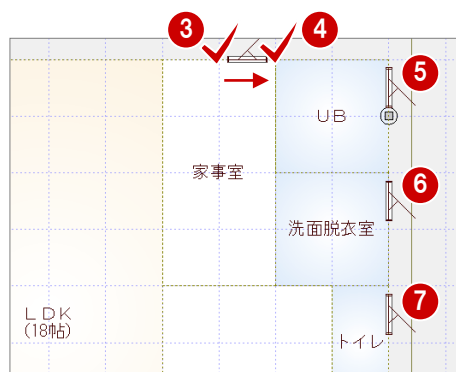
1 「建具変更」をクリックします。

2 一覧から「洋窓」の「縦すべり」を選び、「w600h700」をダブルクリックして選択します。



3,4 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。

5~7 同じ建具をUB、洗面脱衣室、トイレに入力します。



### 上げ下げ窓を入力する

LDK と玄関に入力しましょう。

1 「建具変更」をクリックします。

2 一覧から「洋窓」の「上げ下げ」を選び、「w740h900」をダブルクリックして選択します。



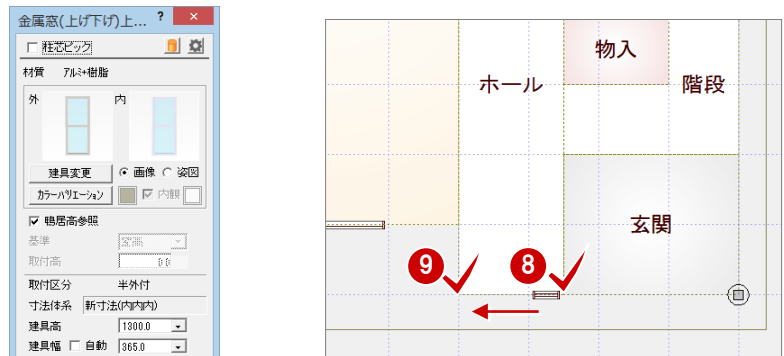
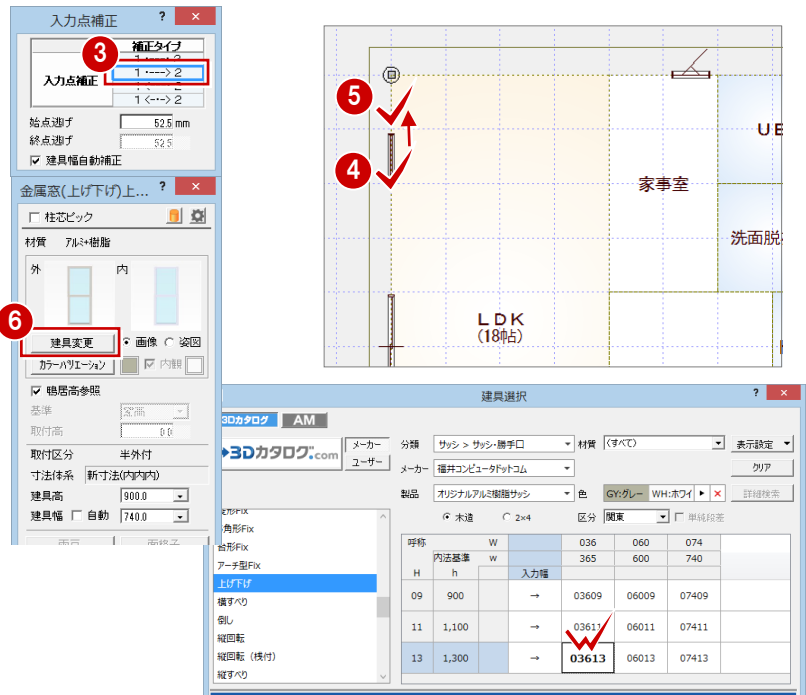
## 1 プランの入力

- ③ 「補正タイプ」を 1 → 2 に変更します。
- ④⑤ 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。
- ⑥ 「建具変更」をクリックします。
- ⑦ 一覧から「w360h1300」をダブルクリックして選択します。
- ⑧⑨ 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。

### 建具の取付基準について

窓の場合、初期値では鴨居高に合うように配置されます。取付高を指定して入力したいときは、「鴨居高参照」のチェックをはずして「基準」と「取付高」を変更します。

戸の場合、初期値では部屋床高に合うように配置されます。取付高を指定して入力したいときは、「部屋床高参照」のチェックをはずして「基準」と「取付高」を変更します。



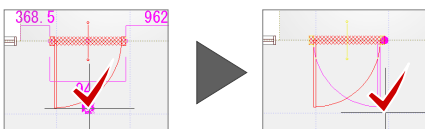
## サッシ以外の建具を入力する

### －玄関ドアを入力する－

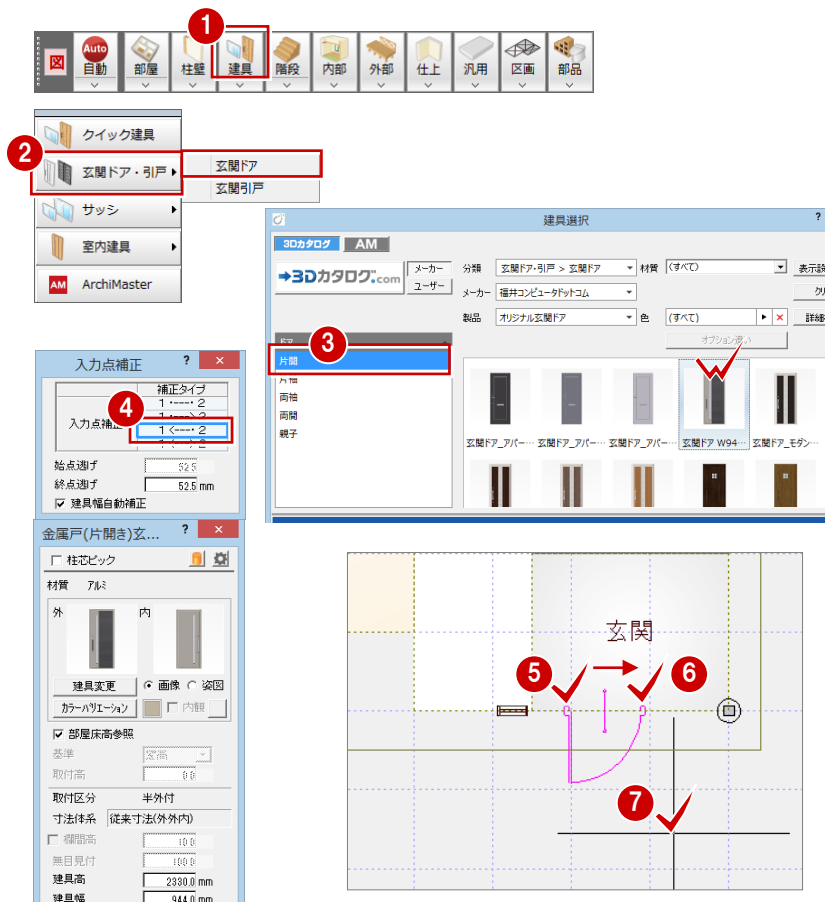
- ① 「建具」をクリックします。
- ② 「玄関ドア・引戸」メニューから「玄関ドア」を選びます。
- ③ 一覧から「片開」を選び、建具をダブルクリックして選択します。
- ④ 「補正タイプ」が 1 → 2 であることを確認します。
- ⑤～⑦ 扉の吊元側 ⇒ 取手側 ⇒ 開く方向の順にクリックします。

### 建具の開き方向を変更するには

選択データに表示されるトラッカー (○) をクリックして方向を指定すると、開き勝手を変更できます。

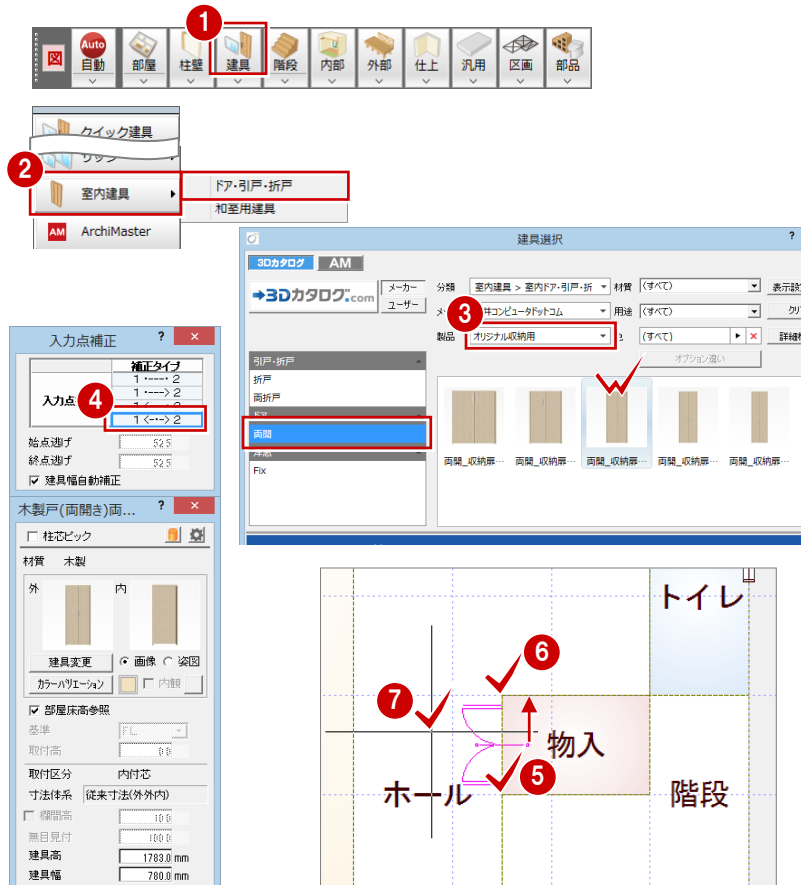


※ 「建具」メニューの「建具開き勝手変更」でも行えます。



－室内のドアを入力する－

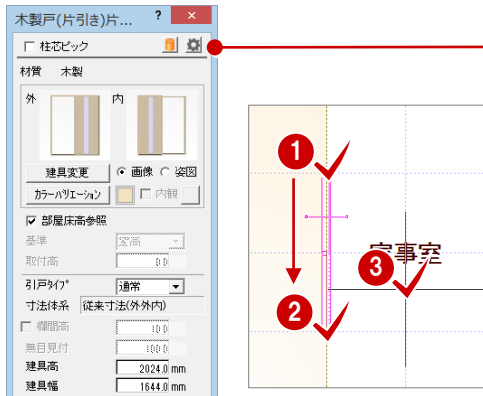
- ① 「建具」をクリックします。
- ② 「室内建具」メニューから「ドア・引戸・折戸」を選びます。
- ③ 一覧から「製品」を「オリジナル収納用」にして、「ドア」の「両開」を選び、建具をダブルクリックして選択します。
- ④ 「補正タイプ」が 1<--->2 であることを確認します。
- ⑤～⑦ 扉の始点 ⇒ 終点 ⇒ 開く方向の順にクリックします。



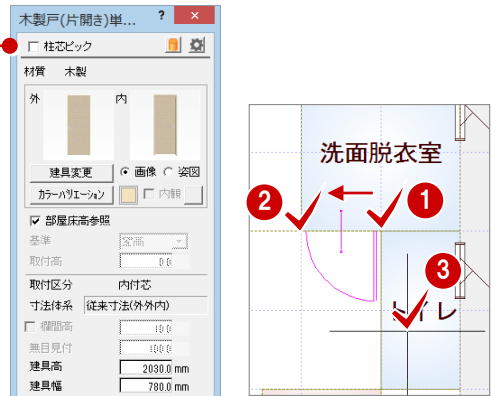
残りの建具を入力する

残りの室内建具を次図のように入力してみましょう。

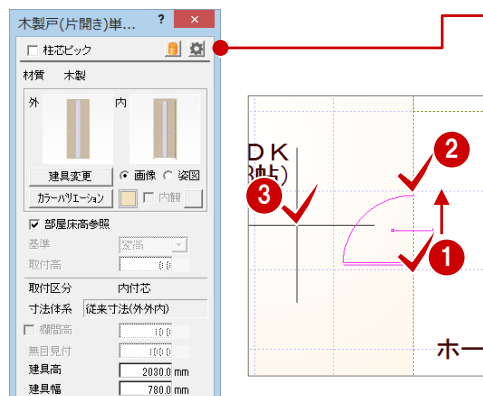
【室内建具－室内ドア・引戸・折戸】  
片引戸\_スリット W1644\_H2024



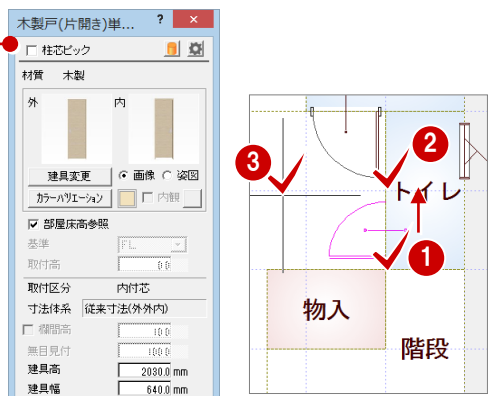
【室内建具－室内ドア・引戸・折戸】  
単体ドア\_木目縦 W780\_H2030



【室内建具－室内ドア・引戸・折戸】  
単体ドア\_スリット W780\_H2030



【室内建具－室内ドア・引戸・折戸】  
単体ドア\_トイレ\_木目縦 W640\_H2030

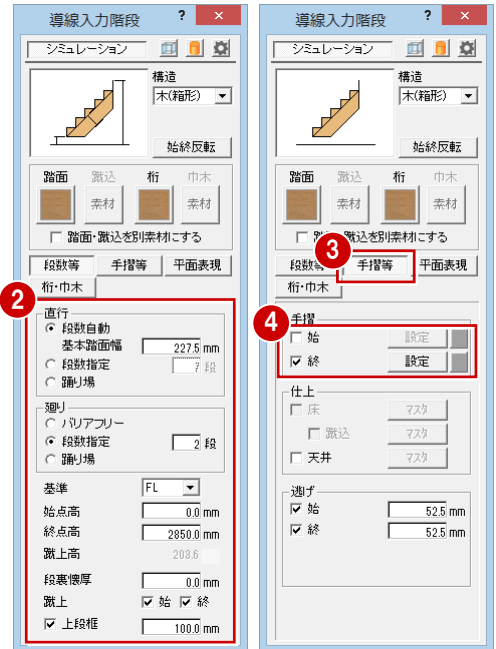


# 1-5 階段の入力

階段部屋に、手摺付き階段を入力してみましょう。

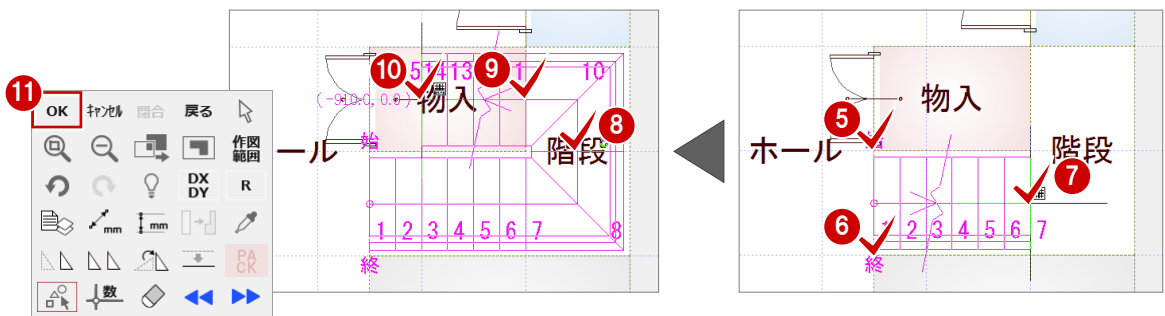
階段は一括作成の前に入力しておきます。そうすることで、一括作成にて階段下物入の壁がうまく納まるように自動処理されます。

- ① 「階段」をクリックします。
- ② 段数や高さなどを確認します。
- ③ 「手摺等」をクリックします。
- ④ ここでは、外側だけに手摺を付けるため、「始」のチェックをはずして、「終」のみ ON に変更します。

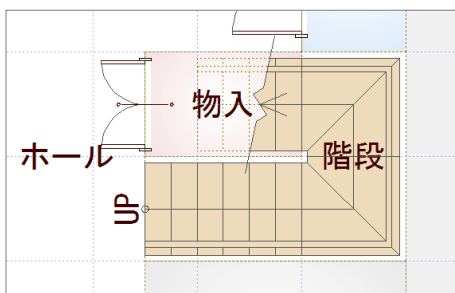


**直行階段の「段数自動」について**  
直行階段を「段数自動」に設定している場合は、「階段奥行 ÷ 基本踏面幅」を四捨五入して段数を自動計算しています。

- ⑤～⑦ 階段の内側 ⇒ 外側 ⇒ 直行階段の終点の順にクリックします。
- ⑧～⑩ 続けて、廻り階段の終点位置、直行階段の終点位置をクリックします。
- ⑪ 右クリックして「OK」を選びます。



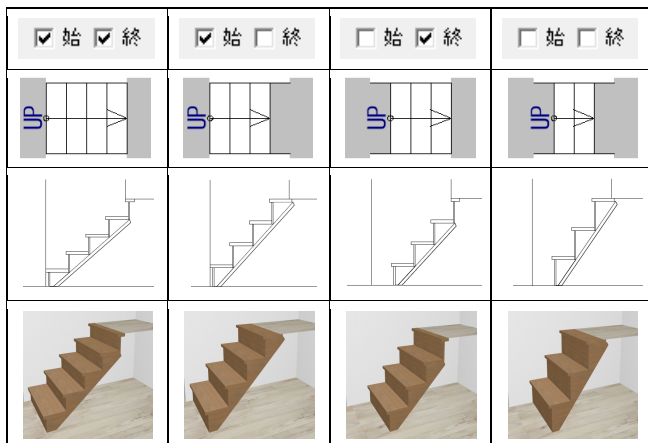
- ⑫ 立体モニタで形状を確認し、「OK」をクリックします。



● パースモニタと同様に、視点を調整できます。

### 蹴上の設定

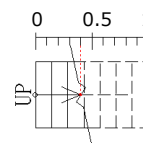
「蹴上」の「始」「終」の設定によって、踏面段数の表現が異なります。



### 切断線の設定

ダイアログの「平面表現」をクリックすると、導線や UP・DN 文字、切断線の設定ができます。

- 「切断線」の「位置」  
階段の開始位置を 0、終了位置を 1 として切断線の描画位置を設定



- 「切断線」の「方向」  
切断線の上方を、階段入力  
の始点 (1 点目) にするか終点 (2 点目) にするかを設定

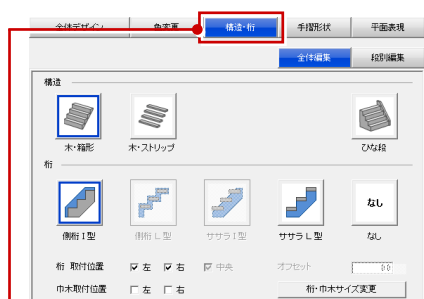


### 階段シミュレーション

階段シミュレーションでは以下のことができます。詳しい機能についてはヘルプを参照してください。



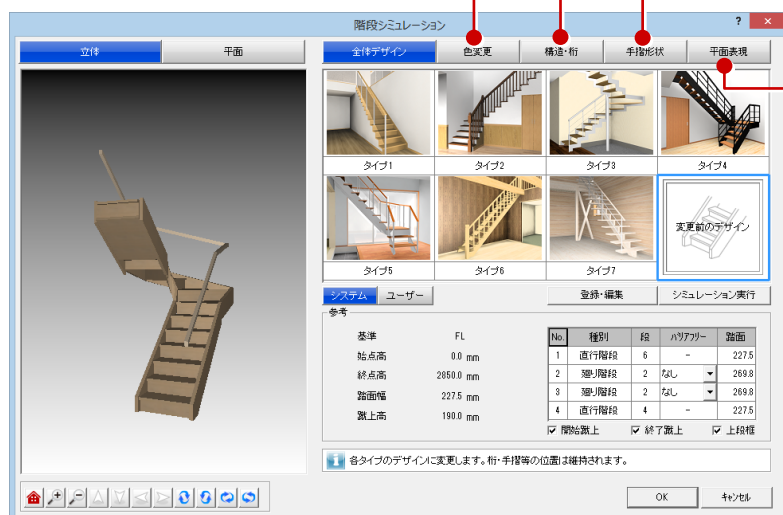
【色変更】  
階段や手摺の素材を設定します。



【構造・桁】  
階段の構造や桁の形状を設定します。  
全体または部分別に設定できます。



【手摺形状】  
手摺の形状を設定します。  
全体または部分別に設定できます。



【全体デザイン】  
タイプを選択してシミュレーションを実行すると、立体モニタで階段のいろいろなイメージを確認できます。また、蹴上の設定も可能です。



【平面表現】  
切断線の位置や導線などを設定します。

# 1-6 柱・壁・仕上の一括作成

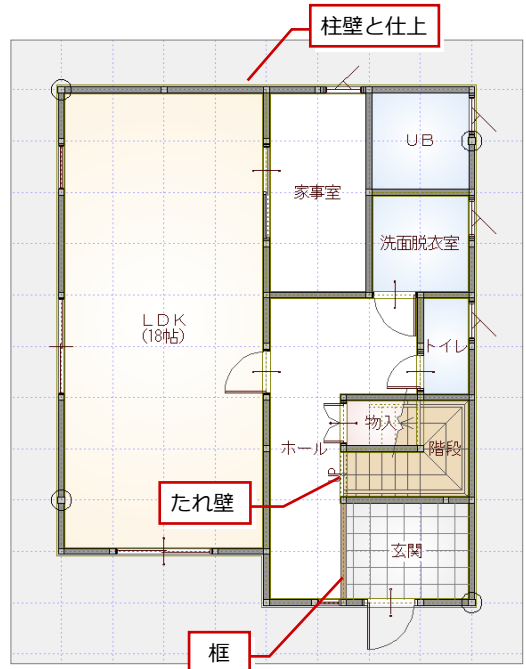
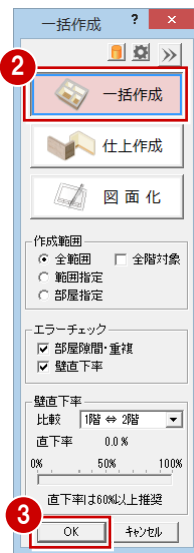
部屋データをもとに、管柱や壁、框などの部材、仕上を自動配置しましょう。

① 「自動」をクリックします。



②③ 「一括作成」が ON の状態であることを確認して、「OK」をクリックします。

部屋線の上に柱壁が配置され、仕上や框などの部材も同時に配置されます。



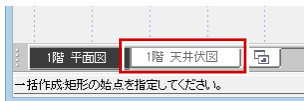
### 仕上のラインについて

処理が終了した直後には、配置された仕上のラインが表示されます。このラインは、他のコマンドを選んだ時点で非表示になります。

作業中、仕上の表示/非表示を切り替えるには、「表示」メニューの「仕上表示」を使用します。

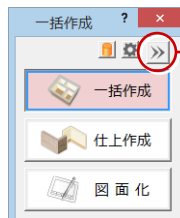
### 1階 天井伏図を開く

「一括作成」では天井仕上も配置するため、自動的に「1階 天井伏図」を開きます。



### 一括作成の詳細設定

「一括作成」ダイアログの >> をクリックすると、詳細画面が開きます。この画面で実行する処理項目を確認（または変更）できます。



>> をクリックすると、詳細画面が開きます。詳細画面を閉じるときは、再度 << をクリックします。

#### ■ 作成範囲

「全範囲」：全データを対象に一括処理します。「全階対象」にチェックを付けると、他階の平面図も併せて一括処理の対象になります。

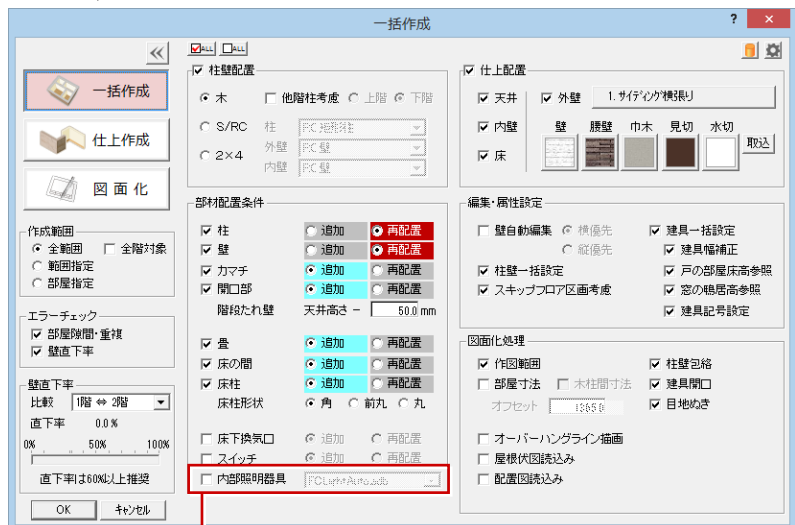
「範囲指定」：処理を行う範囲を指定します。「部屋指定」：指定した部屋のみ処理します。

#### ■ 部材配置条件

「追加」：「作成範囲」で指定した範囲内にある入力済みのデータはそのまま、重複しない箇所に追加のみ行います。

「再配置」：「作成範囲」で指定した範囲内にある既存データを削除して再配置します。

⇒ 作成モードについては、P.20 参照



「内部照明器具」が ON の場合、天井仕上の作成と同時に照明部品を自動配置します（初期値は OFF）。内観パースを作成する場合は ON にしておくといでしょう。

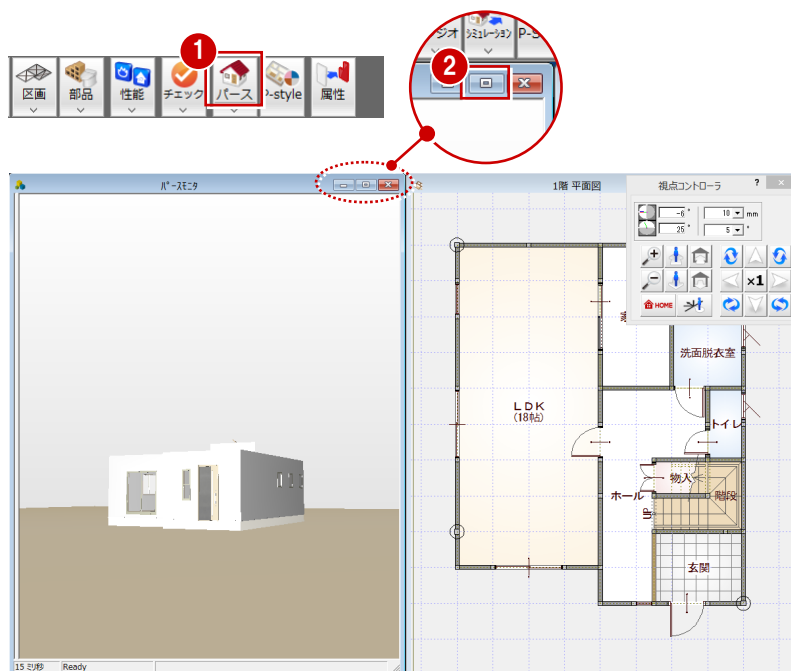


## 1-7 立体の確認

躯体・仕上を一括作成したら、パースモニタを開いて立体データを確認しましょう。

### パースモニタを起動する

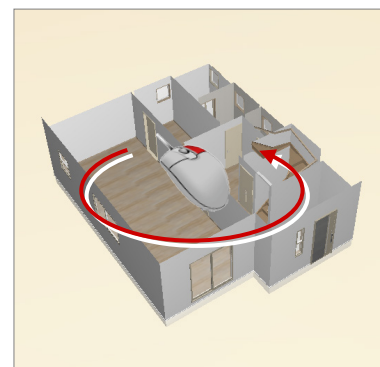
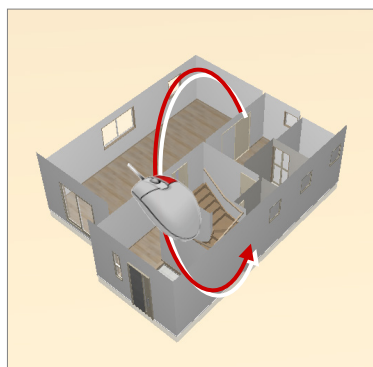
- 1 「パース」をクリックします。  
「パースモニタ」ウィンドウが開いて、立体データが作成されます。
- 2 「最大化」をクリックして、ウィンドウの表示を最大化します。



### 立体を確認する

「パースモニタ」ウィンドウ上で、ドラッグなどのマウス操作を使用して、視点位置を移動・回転したり、立体を拡大・縮小したりして、アングルを決めます。

⇒ 立体での画面操作、視点設定については、「基本操作編」P.17 参照



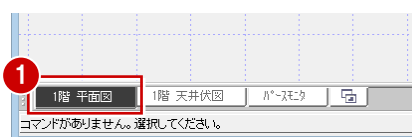
### 仮想地盤面について

配置図の敷地データがない場合に、パースモニタ上で仮想の地盤面の立体データが作成されます。仮想地盤面は、属性変更で高さや素材を変更でき、削除も可能です。

※ 本書では、今後、仮想地盤面を削除した状態の画面で操作を進めます。

### 1階 平面図に切り替える

- 1 立体を確認できたら、「1階 平面図」タブをクリックして、「1階 平面図」ウィンドウに切り替えておきましょう。

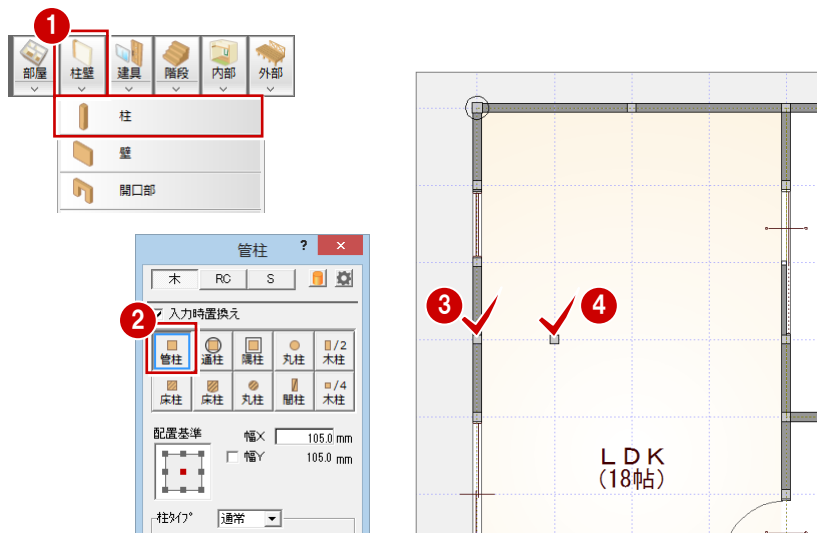


## 1-8 柱壁の追加

LDK 対面キッチンを作成するための、柱と壁を入力しましょう。

### 管柱を入力する

- ① 「柱壁」メニューから「柱」を選びます。
- ② 「管柱」をクリックします。
- ③④ 右図の位置に管柱を入力します。  
(入力方法：1点)

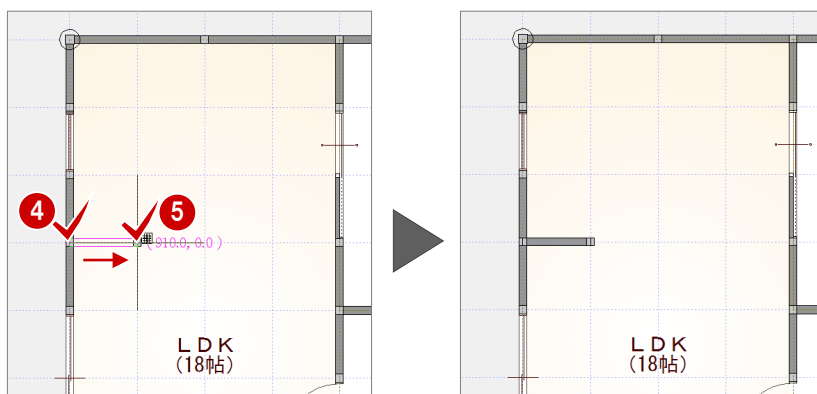


### 壁・腰壁を入力する

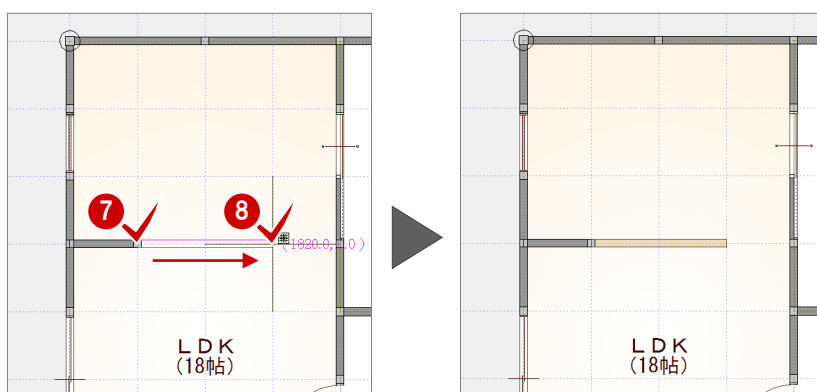
- ① 「柱壁」メニューから「壁」を選びます。
- ②③ 「大壁」がON、「壁タイプ」が「通常」であることを確認します。



- ④⑤ 壁の始点 ⇒ 終点をクリックします。



- ⑥ 「壁タイプ」を「腰」に変更します。
- ⑦⑧ 腰壁の始点 ⇒ 終点をクリックします。

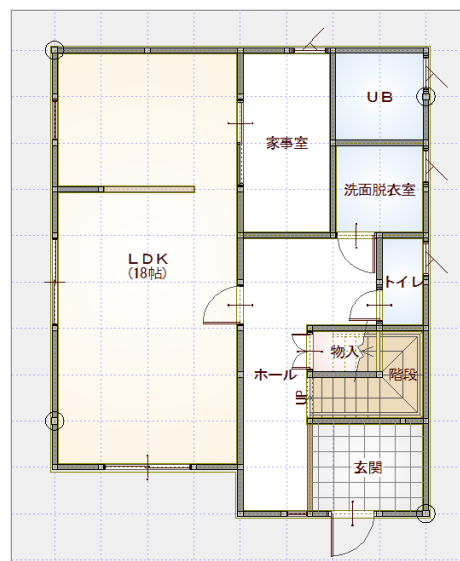
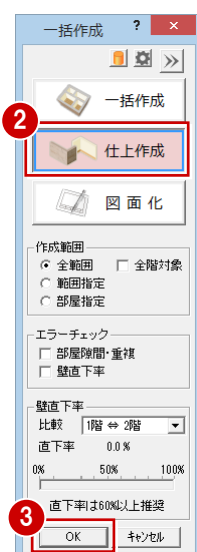


## 仕上を作成する

追加した柱壁の躯体まわりには仕上が作成されていない状態です。柱壁のまわりに仕上を作成しましょう。

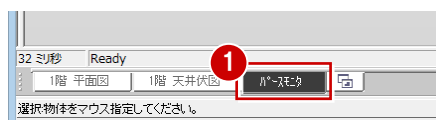
- ① 「自動」をクリックします。
- ② 「仕上作成」をクリックします。
- ③ 「OK」をクリックします。  
躯体に合わせて仕上が再配置されます。

⇒ 作成モードの概要については、次ページ参照



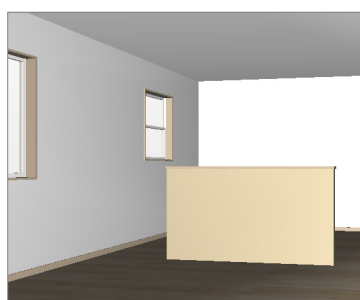
## 立体データを確認する

- ① 「パースモニタ」タブをクリックします。

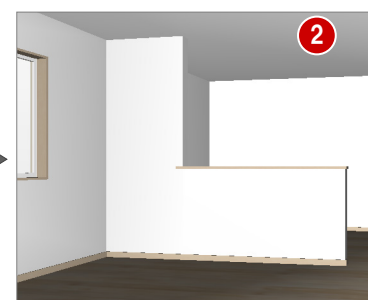


- ② 編集した間仕切り壁が見える位置に視点を変更し、立体データを確認してみましょう。

⇒ 内観の視点への変更方法については、「基本操作編」P.18 参照

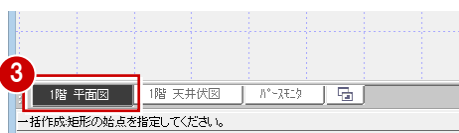


【仕上作成前のLDK】



【仕上作成後のLDK】

- ③ 立体データの確認ができれば、「1階 平面図」タブをクリックして、ウィンドウを切り替えておきましょう。



## 【補足】一括作成の作成モード

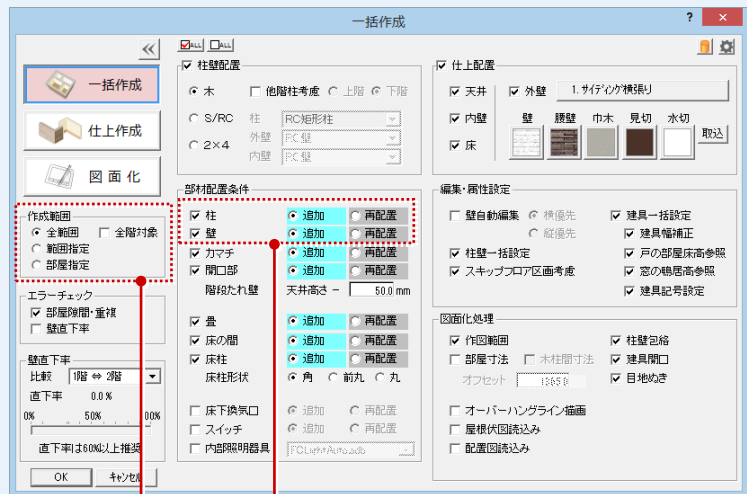
「一括作成」では、段階・目的に応じて、一括作成、仕上作成、図面化の3つの作成モードを用意しています。作成モードによって、詳細画面の各設定項目の初期値が異なります。必要に応じて、作成モードを切り替えて使用するとよいでしょう。

### ■ 「一括作成」

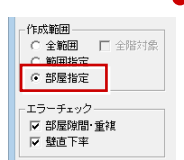
部屋・建具より柱、壁、仕上を自動配置し、図面を仕上げる場合に使用します。  
(柱壁の自動配置+仕上自動配置+図面の仕上処理)

#### ※ 実行するタイミング

- 部屋、建具、階段、そして一括作成では配置されない通し柱、たれ・腰壁を入力した後に実行します（おもに新規に平面図を作成して、最初の一括作成時はこのモードを使用）。
- 部屋領域を大幅に変更して柱壁の配置が変わる場合など、物件全体で柱壁、仕上を再配置したとき



一括作成後に、部屋を1つ追加、または1つの部屋領域と仕様を変更したという場合は、「部屋指定」を使うことで、指定した部屋だけに対して一括作成を実行できます。



袖壁などを手入力している場合など、すでに入力した柱壁を残したまま残りを一括作成したい場合には、「追加」のまま「一括作成」を実行します。すでに入力した柱壁をすべて削除して作成しなおしたい場合には、「再配置」に変更して「一括作成」を実行します。ただし、たれ・腰などの柱壁は削除されません。

### ■ 「仕上作成」

部屋仕様（属性の仕上情報）を参照して、柱壁がある位置に壁仕上・床仕上を自動作成する場合に使用します。同時に包絡、開口、目地ぬき処理も行います。  
(仕上自動配置+図面の仕上処理)

#### ※ 実行するタイミング

- 部屋属性で仕上情報を変更したため、仕上の再作成が必要なとき
- 壁の位置編集や追加・削除、柱壁の厚さなどを変更し、仕上の再作成が必要なとき
- 仕上を作成していないとき

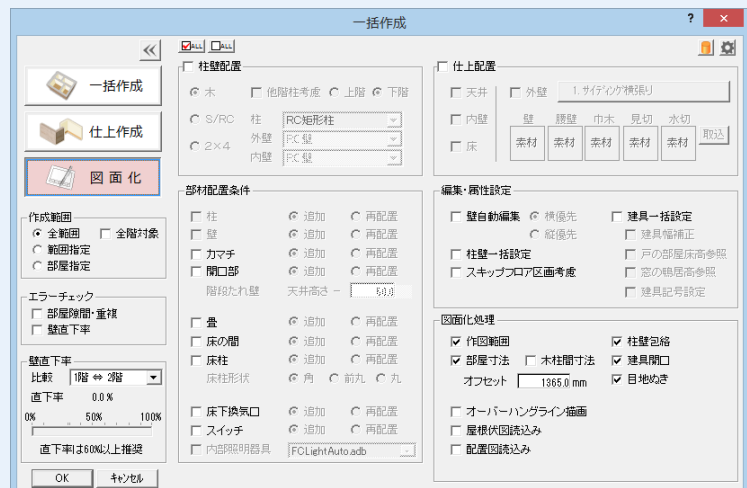


### ■ 「図面化」

図面の編集により、包絡や目地ぬき処理がされていない箇所が出てきます。その時にこれらの処理を行い、部屋寸法を自動作成して図面を仕上げる場合に使用します。  
(図面の仕上処理のみ)

#### ※ 実行するタイミング

- 図面を仕上げるとき
- 部品の削除や移動、ポーチなどの目地があるデータの属性変更で目地が復元されたとき



## 1-9 シンボルの入力

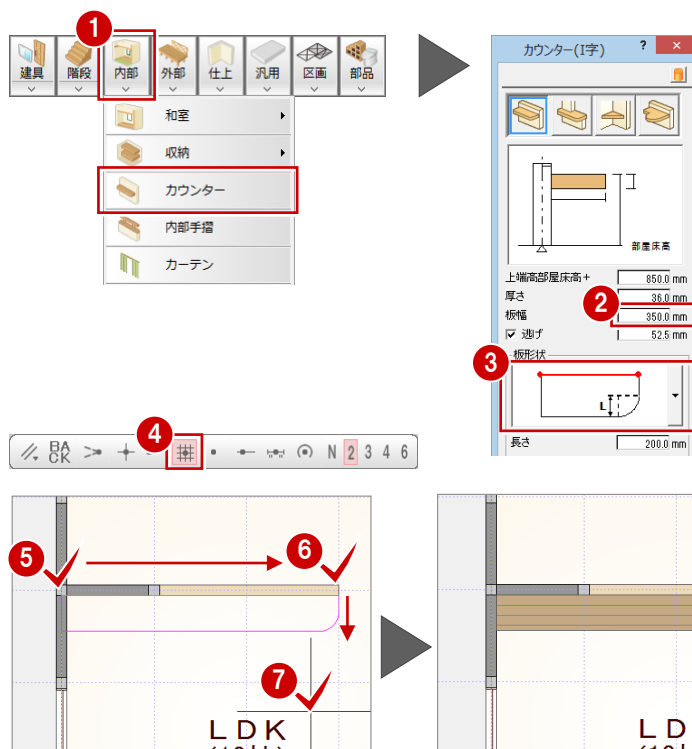
対面キッチン部分のカウンターや玄関ポーチを入力しましょう。

部屋の内部に配置するシンボルは「内部」メニュー、建物の外部に配置するシンボルは「外部」メニューに用意されています。

### カウンターを入力する

対面キッチン部分のカウンターを入力しましょう。

- 「内部」メニューから「カウンター」を選びます。
- 「板幅」を「350」、「板形状」を片方の角がRになっているタイプに変更します。
- 「グリッド」のみ ON の状態に変更します。
- カウンターの1点目 ⇒ 2点目 ⇒ 向きを順にクリックします。



### 玄関ポーチを入力する

外部シンボルのコマンドを使って、玄関部分に2段ポーチを入力してみましょう。

- 「外部」メニューから「ポーチ」の「ポーチ」を選びます。
- 「壁考慮」がON、段数が「2段」になっていることを確認します。

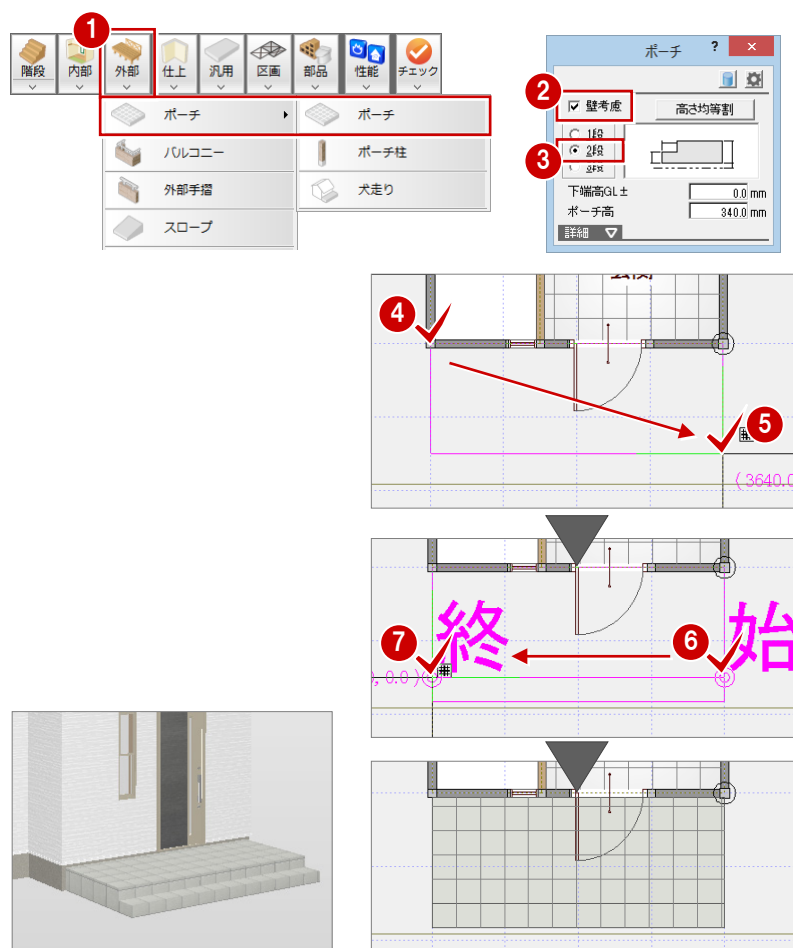
#### 壁考慮について

「壁考慮」にチェックを付けておくと、壁の内部に入り込んでシンボルを入力しても、自動的に外壁の外面に合わせて領域が調整されます。

- ポーチ（上段）の範囲を指定します。
  - 下段の開始位置 ⇒ 終了位置をクリックします。
- 2段の玄関ポーチが入力されます。

#### 下段の位置指定について（操作67）

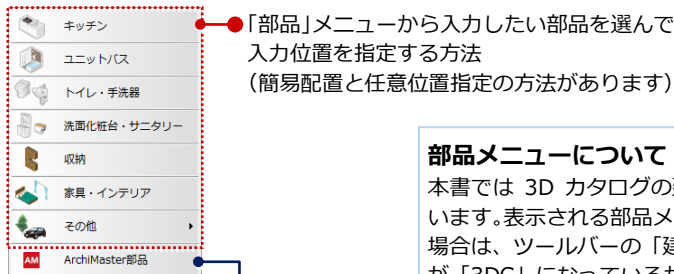
ポーチの下段は、始点から時計回りに入力します。ただし、始点をクリック後にマウスのホイールボタン（もしくは無変換キー）を押すと、回り方向を逆転できます。



# 1-10 部品の入力

システムキッチンやユニットバス、テーブルといった設備機器や家具などは「部品」メニューに用意されています。  
ここでは右図のように部品を入力しましょう。

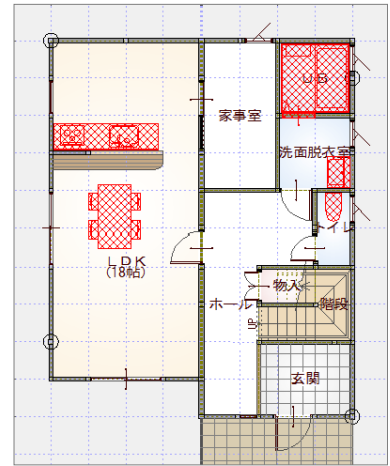
部品の入力には、以下の方法があります。



Archi Master 部品の一覧が表示され、選択して入力できます。

### 部品メニューについて

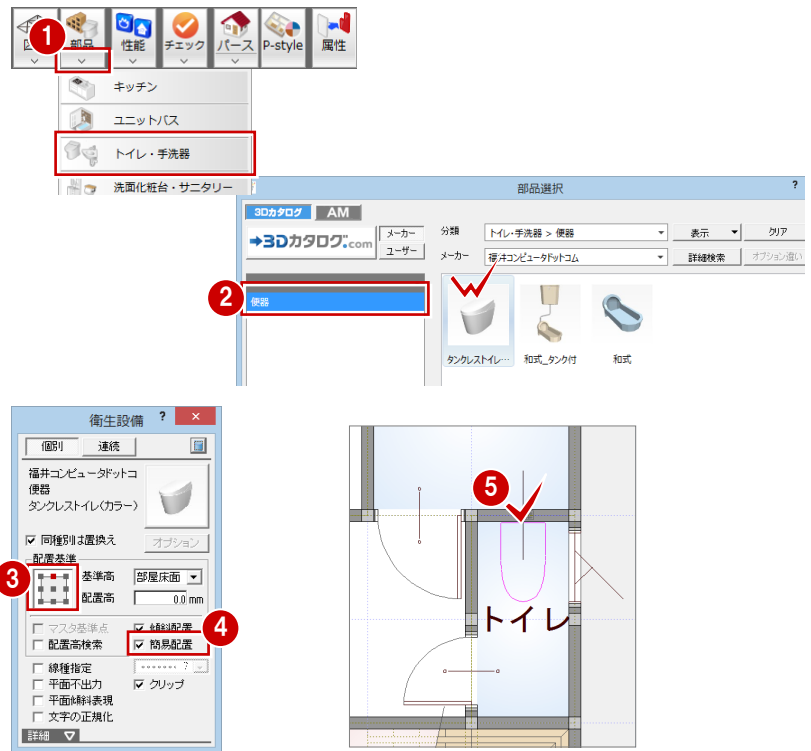
本書では 3D カタログの建材データを使用しています。表示される部品メニューが画面と異なる場合は、ツールバーの「建材マスターモード切替」が「3DC」になっているか確認してください。



## トイレに便器を入力する

簡易配置を使って、トイレに便器を入力しましょう。

- 「部品」メニューから「トイレ・手洗器」を選びます。
  - 一覧から「便器」の「タンクレストイレ (カラー)」をダブルクリックして選択します。
  - 「衛生設備」ダイアログの「配置基準」の「中央上」を ON にし、「簡易配置」を ON にします。
  - トイレの壁にカーソルを移動し、トイレが壁にぴったりついたら、クリックして配置します。
- ※ 入力したい位置にうまく部品が入らない場合は、「グリッド」を OFF にして入力してください。



### 配置基準について

部品ごとに基準点の情報を持っており、配置するときに基準位置を変更することによって、以下のように部品の向きが変わります。

【配置基準：左上】 【配置基準：右上】

### 簡易配置について

簡易配置を ON にすると、配置基準をもとに、部屋線に沿って部品が自動的に回転します。  
部屋の中央や隅コーナー部分に、壁仕上を考慮して（壁仕上厚分逃がした状態で）簡単に配置できます。

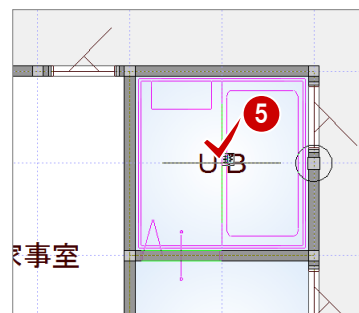
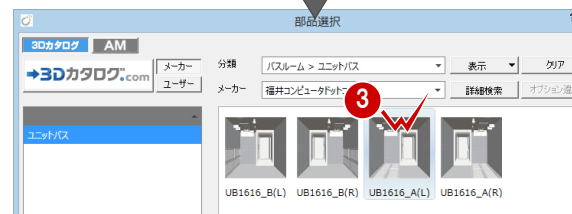
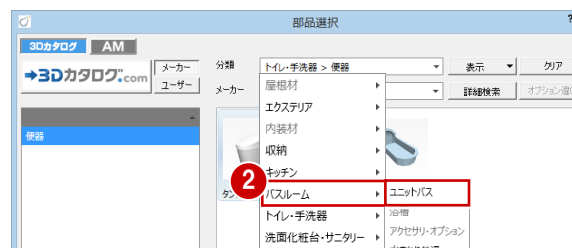
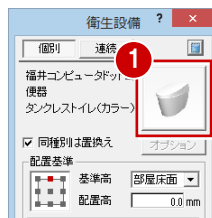
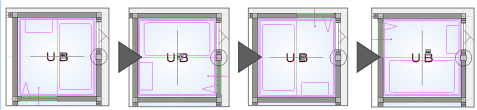
【配置基準が辺の場合】 【配置基準が角の場合】

## UB にユニットバスを入力する

- 1 アイテムの画像をクリックします。
- 2 「部品選択」ダイアログの「分類」から「バスルーム」の「ユニットバス」を選びます。
- 3 一覧から浴槽が右側にある「UB1616\_A(L)」をダブルクリックして選択します。
- 4 「衛生設備」ダイアログの「配置基準」の「中央」を ON にします。
- 5 UB 内でクリックして配置します。

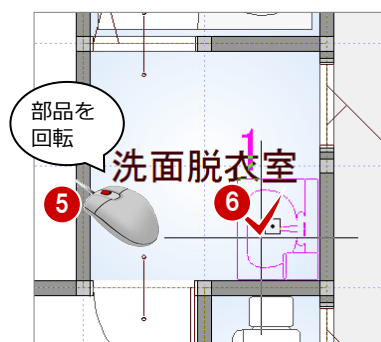
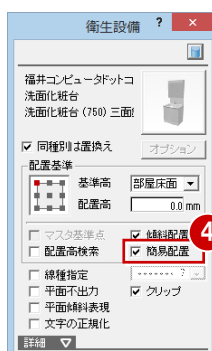
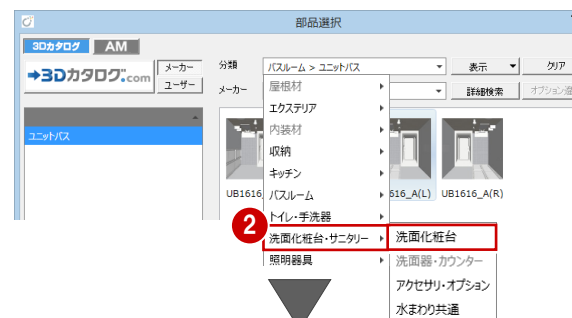
### 部品の向きを回転するには

マウスのホイールボタン（もしくは無変換キー）を押すと回転できます。



## 洗面化粧台を入力する

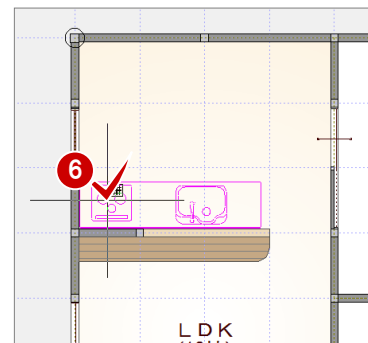
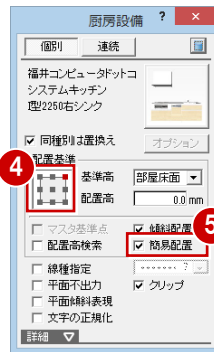
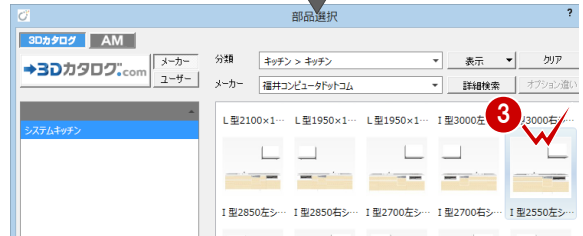
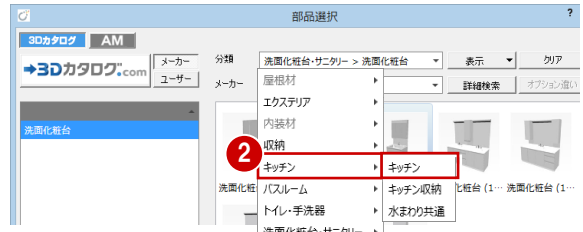
- 1 アイテムの画像をクリックします。
- 2 「部品選択」ダイアログの「分類」から「洗面化粧台・サニタリー」の「洗面化粧台」を選びます。
- 3 一覧から「洗面化粧台 (750) 三面鏡タイプ」をダブルクリックして選択します。
- 4 「簡易配置」が ON になっていることを確認します。
- 5 6 マウスホイールのボタン（もしくは無変換キー）を押して部品を回転させ、部品の配置位置をクリックします。



## 1 プランの入力

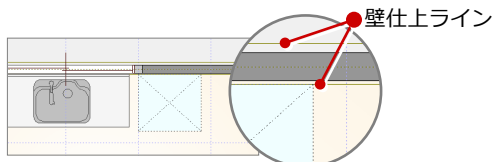
### LDKにシステムキッチンを入力する

- 1 アイテムの画像をクリックします。
- 2 「部品選択」ダイアログの「分類」から「キッチン」の「キッチン」を選びます。
- 3 一覧から「I型 2550 左シンク」をダブルクリックして選択します。
- 4 「厨房設備」ダイアログの「配置基準」の「右上」をONにします。
- 5 「簡易配置」がONになっていることを確認します。
- 6 右図のようにカーソルを移動し、システムキッチンがコーナーにぴったりついたら、クリックして配置します。



### 壁際の任意の位置に部品を入力する場合

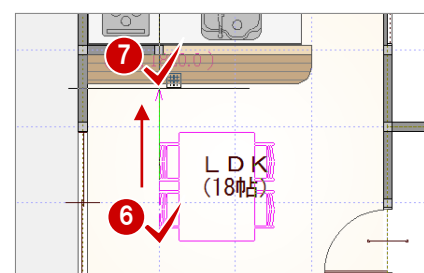
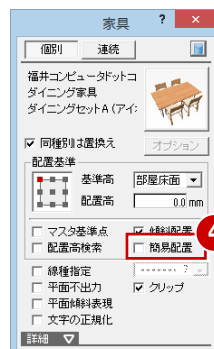
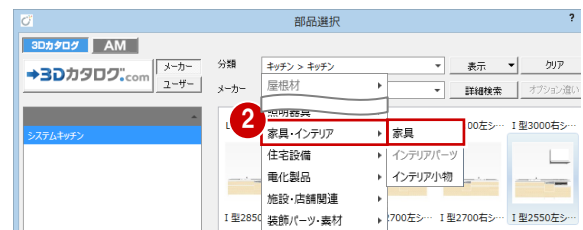
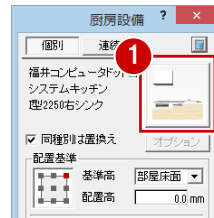
「簡易配置」をOFFにして壁際に部品を入力する場合は、「表示」メニューの「仕上表示」をクリックして壁仕上ラインを表示し、壁仕上ラインに沿って部品を入力します。壁に沿って入力すると、平面詳細図では壁仕上に食い込んだ状態になります。



### ダイニングテーブルを入力する

任意の位置にダイニングテーブルを入力しましょう。

- 1 アイテムの画像をクリックします。
- 2 「部品選択」ダイアログの「分類」から「家具・インテリア」の「家具」を選びます。
- 3 一覧から「ダイニング家具」の「ダイニングセット A (アイボリー)」をダブルクリックして選択します。
- 4 「家具」ダイアログの「簡易配置」をOFFにします。
- 5～7 入力方法を「1点方向」に変更し、ダイニング家具をLDKに配置します。



### 入力方法の切り替え

入力方法を「+1点」のまま、Shiftキーを押しながら入力することで、一時的に「1点方向」に切り替えることができます。

※ 1点目⑥をクリックした後にスペースキーを押すと、水平・垂直方向に次の点を指定できます。



## 1-11 図面を仕上げる

### 部屋名を移動する

ダイニングテーブルと重なっている部屋名を、見やすい位置に移動しましょう。

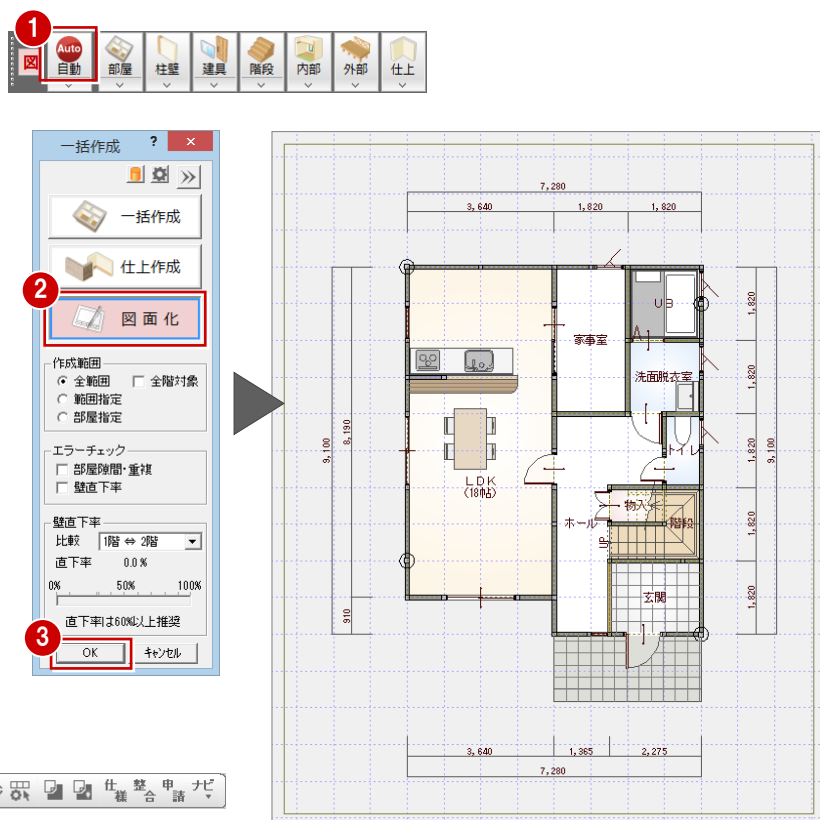
- 1 「部屋」メニューから「部屋名移動」を選びます。
- 2 部屋名（ここでは「LDK」）をクリックします。
- 3 「グリッド」のみ ON の状態にします。
- 4 部屋名の移動先をクリックします。



### 図面化を行う

1階平面図を図面化して、部屋寸法の入力、目地ぬき処理を行いましょう。

- 1 「自動」をクリックします。
- 2, 3 「図面化」をクリックして、「OK」をクリックします。  
部屋のまわりに寸法線が作成され、玄関戸部分が目地ぬき処理されます。
- 4 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。



#### 部屋寸法線について

「部屋」メニューの「部屋寸法」でも入力できます。

#### 目地ぬき処理について

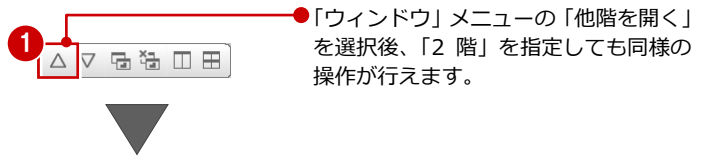
「ツール」メニューの「目地ぬき処理」でも目地ぬき処理を行えます。

# 1-12 2階の入力

1階平面図が入力できたら2階平面図を開いて、1階と同様な流れでデータを入力していきましょう。

## 作成階を変更する

- 1 「上階を開く」をクリックします。  
「2階 平面図」ウィンドウが開いて、1階平面図から作図範囲と階段、通し柱が複写されます。



## 2階に複写された階段について

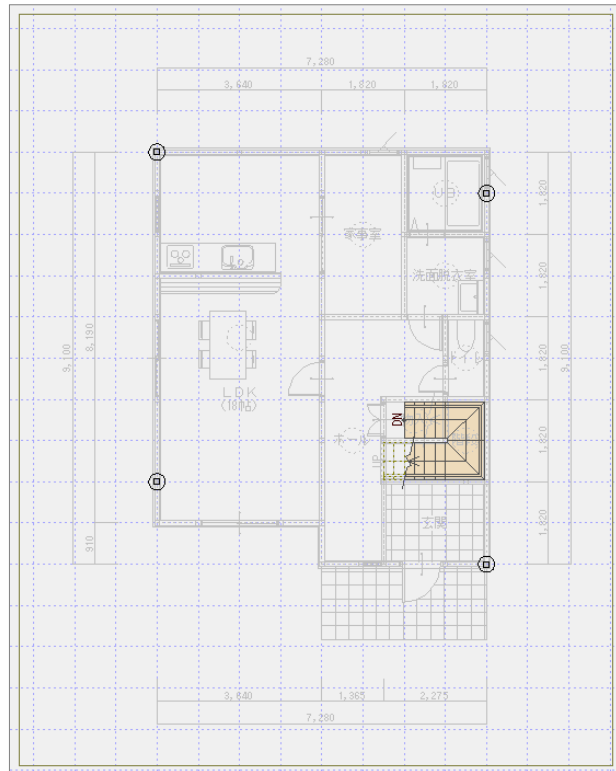
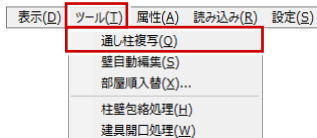
初めて2階平面図を開いたときは、1階で入力している階段が自動的に複写されます。この階段は導線が下向きで、立体は表現されないように属性も変更されています。

2階のデータを入力した後で1階の階段を変更した場合は、2階平面図で「階段」メニューから「階段階複写」を選んで、1階の階段を反映させます。



## 通し柱の複写について

初めて2階平面図を開いたときは、1階の通し柱が自動的に複写されます。  
2階のデータを入力した後で1階の通し柱を変更した場合は、2階平面図で「ツール」メニューから「通し柱複写」を選んで反映させます。

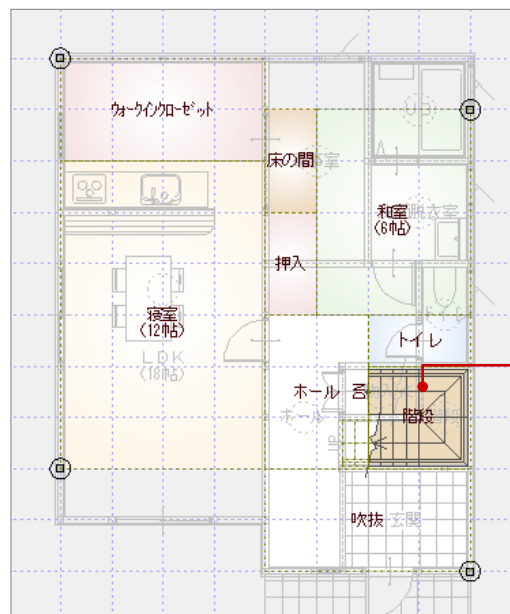


## 部屋を入力する

バック表示されている1階平面図を参考に、2階の間取りを入力しましょう。

- 1～3 「部屋」をクリックして、「階段」「吹抜」「トイレ」「ホール」「和室」「床の間」「押入」「寝室」「ウォークインクローゼット」を順に入力します。

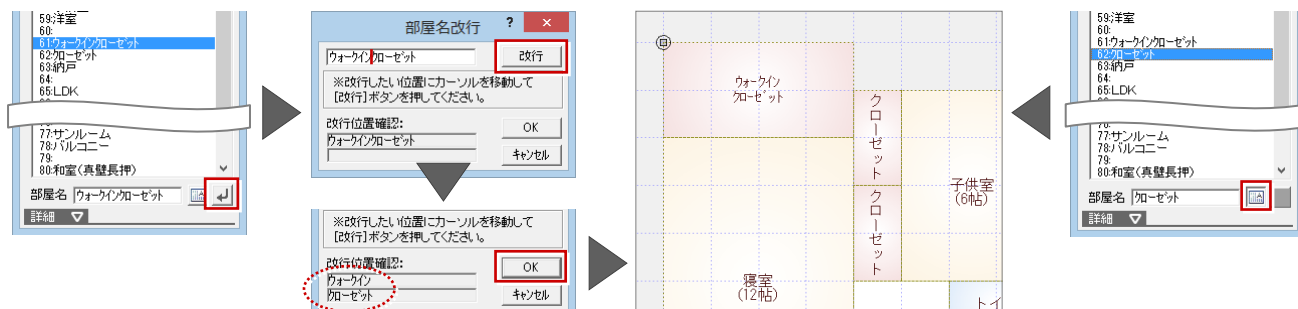
※「グリッド」のみON、「グリッド分割」が「2」で入力します（入力方法：矩形）。



階段も忘れずに、部屋を入力しましょう。

### 部屋名を改行するには

「ウォークインクローゼット」のように長い部屋名は、改行して2段表示にすることができます。部屋名を改行するには、「部屋」ダイアログで部屋を選んだ後に、「改行」をクリックして改行位置を指定します。



### 部屋名を縦書きにするには

「クローゼット」のように横幅の狭い領域に縦書きに部屋名を表示したい場合には、「部屋」ダイアログで部屋を選んだ後に、「縦書き」をONにします。

### バック図面を非表示に切り替える

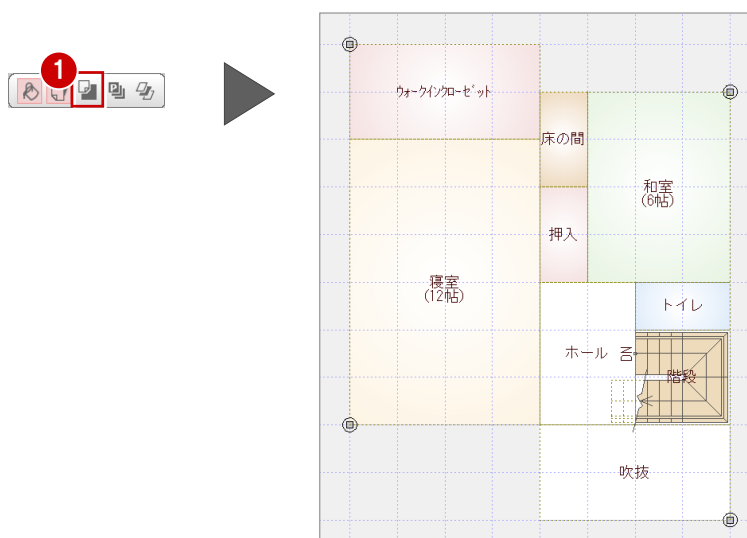
部屋の入力が終わったら、1階平面図のバック表示を消しておきましょう。

- 1 「バック図面表示切替」をOFFにします。  
1階のバック表示が消えます。

### バック図面を表示するには

もう一度バック図面を表示したいときは、「バック図面表示切替」をONにします。

⇒ バック図面の削除については、P.50 参照

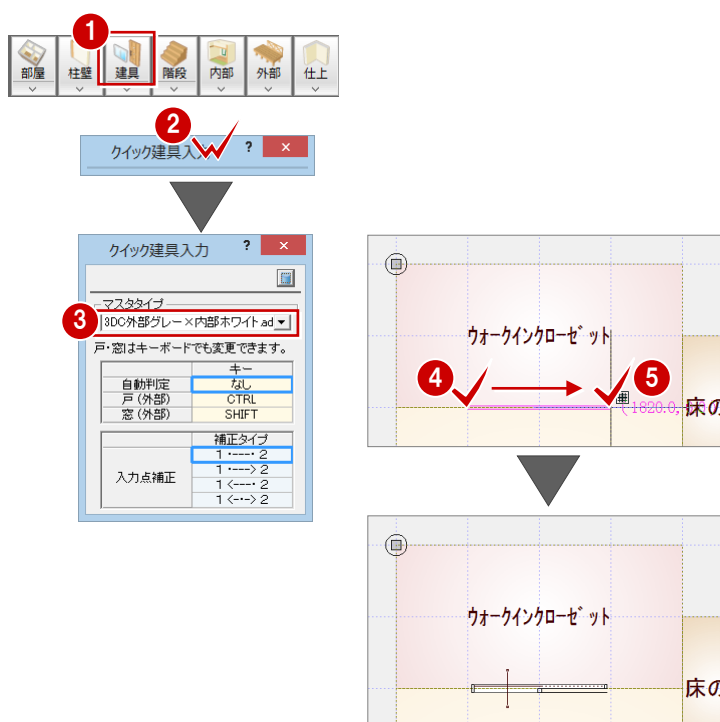


### 建具を入力する

クイック建具入力を使って、2階平面図に建具を入力しましょう。

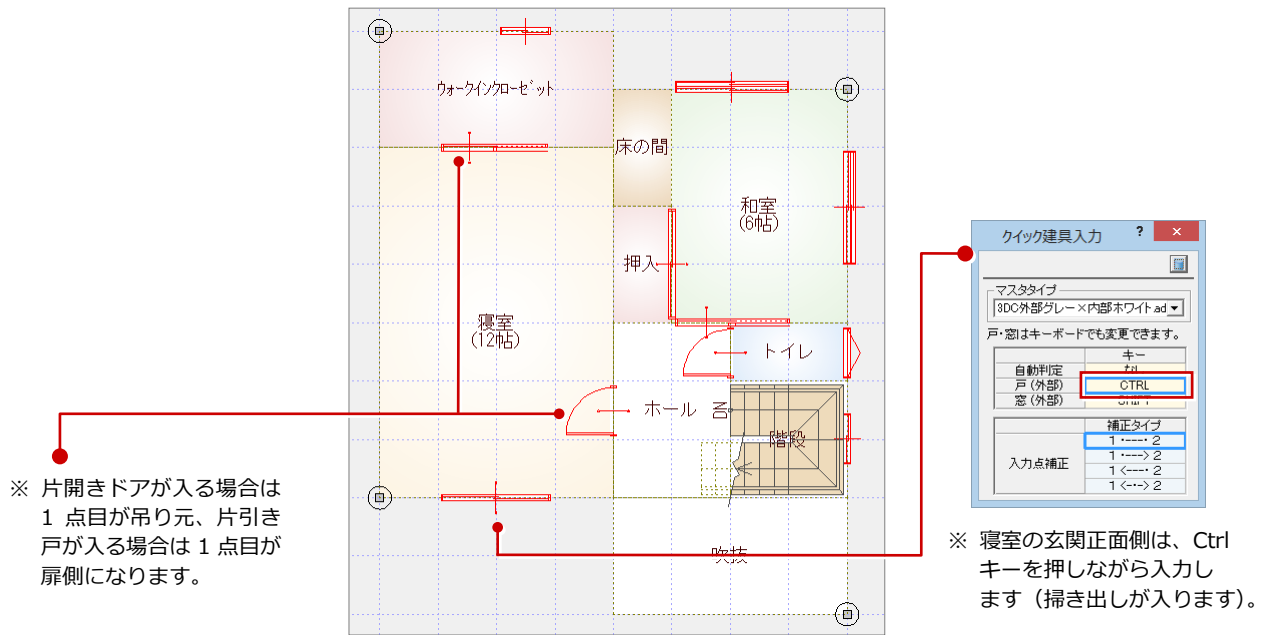
- 1 「建具」をクリックします。
- 2 「クイック建具入力」ダイアログが閉じた状態になっているので、タイトル部分をダブルクリックして開きます。
- 3 「マスタタイプ」が「3DC 外部グレー×内部ホワイト.adb」であることを確認します。
- 4 5 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。

⇒ クイック建具入力については、「基本操作編」P.6 参照



## 1 プランの入力

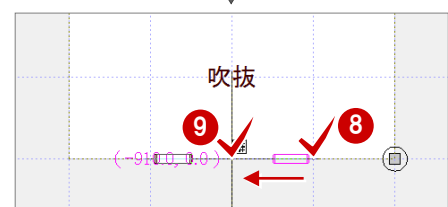
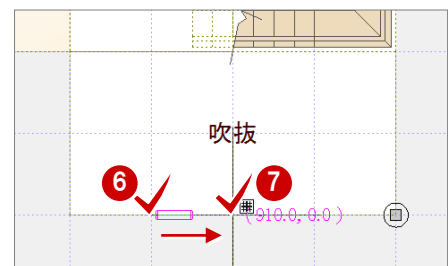
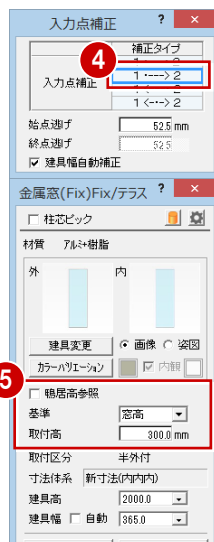
- ⑥ 同様な操作で、他の建具を入力します。



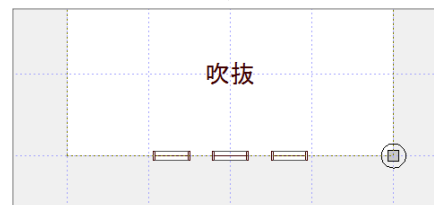
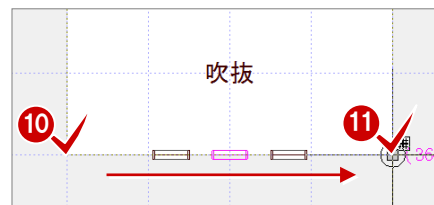
### 建具を選んで入力する

吹抜には、一間に3つの窓を入力してみましょう。入力したい建具を選んで、高めの位置に入力します。

- ① 「建具」をクリックします。
- ② 「サッシ」メニューから「サッシ・勝手口」を選びます。
- ③ 一覧から「洋窓」の「FIX」を選び、「w365h2000」をダブルクリックして選択します。
- ④ 「補正タイプ」を  $1 \leftrightarrow 2$  に変更します。
- ⑤ 「鴨居高参照」をOFFにして、「取付高」を「窓高+300」に設定します。
- ⑥⑦ 建具の始点 ⇒ 終点をクリックします。
- ⑧⑨ もう一か所は、入力方向を反対に入力します。



- ⑨～⑪ 中央の窓は、「補正タイプ」を  
1 ↔ 2 に変更して入力します。



### 柱・壁・仕上を一括作成する

2階平面図の部屋、建具データを入力できたら、躯体、仕上、シンボルを一括作成しましょう。

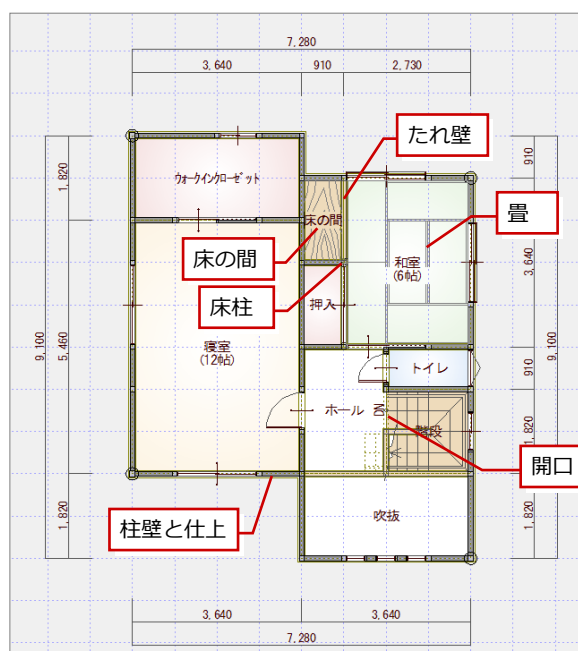
- ① 「自動」をクリックします。
- ② 「一括作成」がONであることを確認します。
- ③ をクリックします。
- ④ 「部屋寸法」のチェックを付けます。
- ⑤ 「OK」をクリックします。



躯体、仕上とともに、畳や床の間などのシンボル、寸法線が配置されます。

### 2階 天井伏図を開く

「一括作成」で天井仕上も配置されるため、自動的に「2階 天井伏図」が開いた状態になります。



## 1 プランの入力

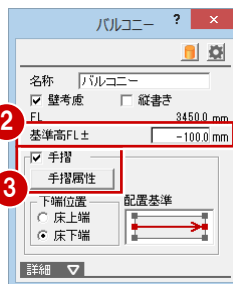
### バルコニーを入力する

外部シンボルを使って、寝室の南側にバルコニーを入力しましょう。

① 「外部」メニューから「バルコニー」を選びます。



② 「基準高」を「-100」に設定します。

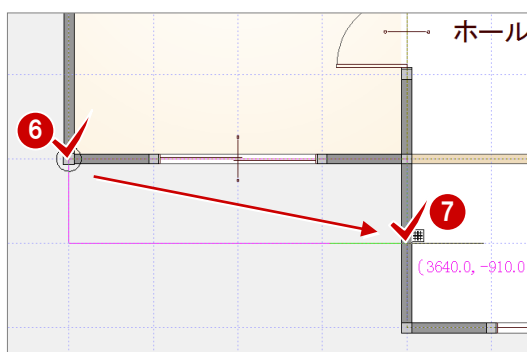


③ 「手摺」にチェックが付いていることを確認して、「手摺属性」をクリックします。

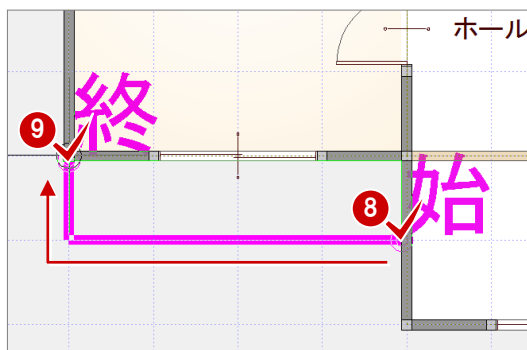


④⑤ 「(5) 手摺壁笠木」に変更して、「OK」をクリックします。

⑥⑦ バルコニーの範囲を指定します。  
(入力方法：矩形)

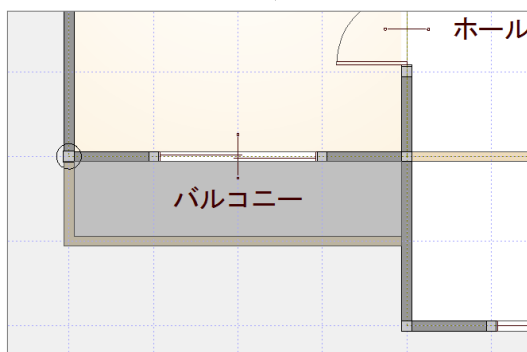


⑧⑨ 手摺の開始位置 ⇒ 終了位置をクリックします。



#### 手摺の位置指定について

手摺は、始点から時計回りに入力します。  
ただし、始点をクリック後にマウスのホイールボタン（もしくは無変換キー）を押すと、回り方向を逆転できます。

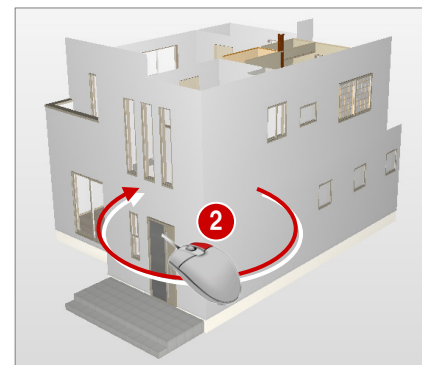
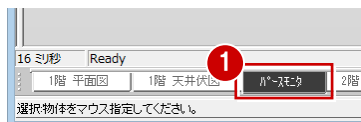


## 外観を確認する

パースモニタに切り替えて、外観を確認してみましょう。

- 1 「パースモニタ」タブをクリックします。
- 2 マウス操作を使って、外観を確認します。

※ 確認が終わったら、階段の建具が見える位置に視点を変更しておきましょう。



## 建具の取付高を変更する

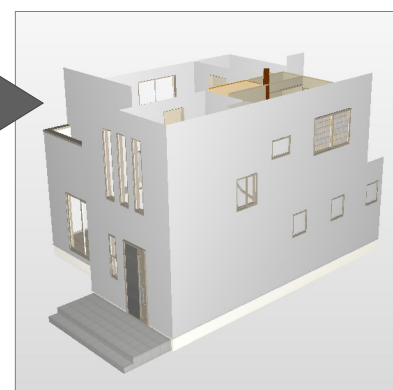
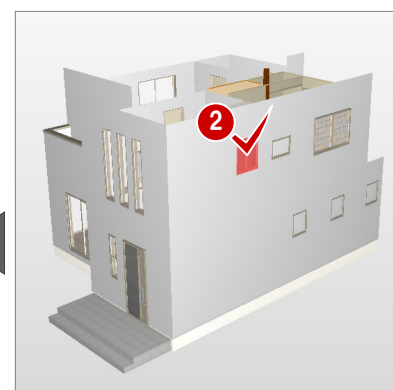
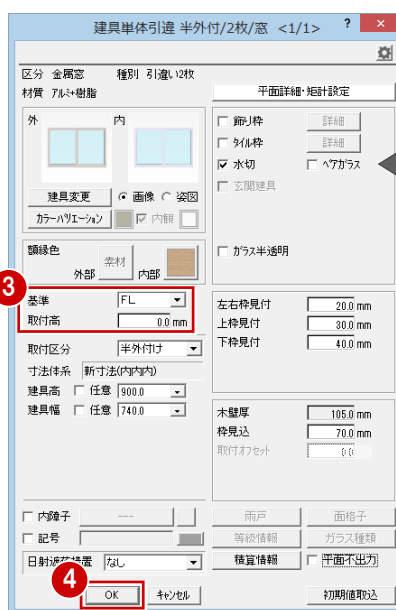
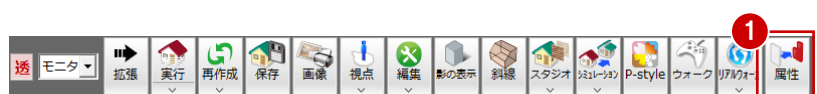
階段の2枚引違窓を選んで、取付高を変更しましょう。

- 1 「属性」をクリックします。
- 2 階段の2枚引違窓を選びます。

- 3 4 次のように建具の属性を変更して、「OK」をクリックします。

「基準」：FL  
「取付高」：0


2枚引違窓の取付高が変更されます。



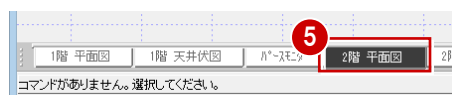
### 属性変更について

パースモニタ上でデータをダブルクリックしても、属性変更が可能です。

### データ選択時の選択表現

パースモニタ上でデータを選択したときの赤色表示は、背景の部分をクリックするか、 をクリックすることで解除できます。

- 5 「2階 平面図」タブをクリックして、ウィンドウを切り替えます。



- 6 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。



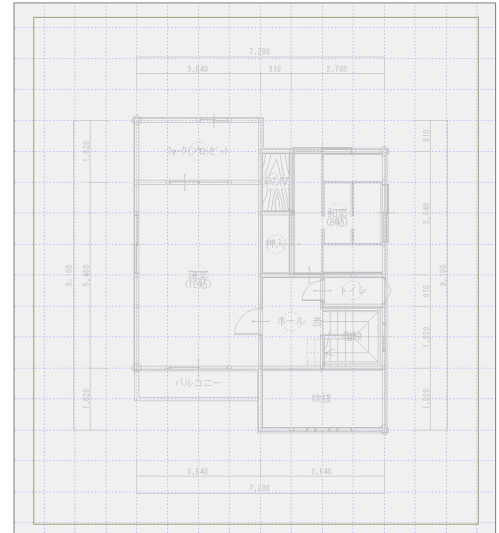
## 1-13 屋根の入力・天井仕上の確認

1階、2階平面図が入力できたら、屋根伏図で屋根を入力しましょう。

また、屋根伏図が入力できたら、天井伏図で内部と外部の天井仕上を確認しましょう。

### 2階 屋根伏図を開く

- 1 「屋根伏図」オープンをクリックします。  
「2階 屋根伏図」ウィンドウが開きます。



### 他の処理図面を開く

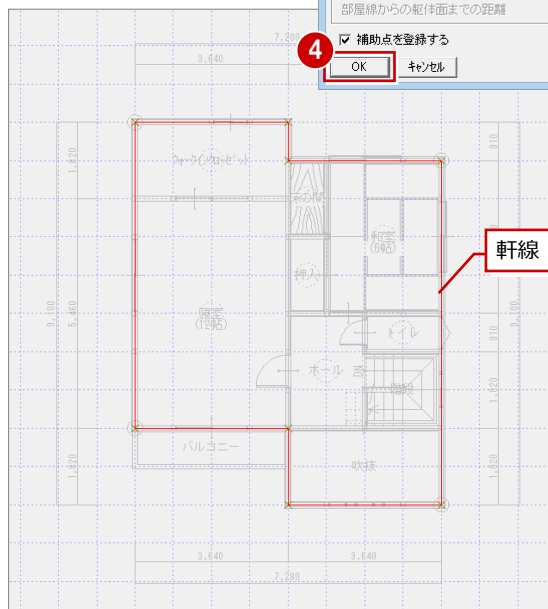
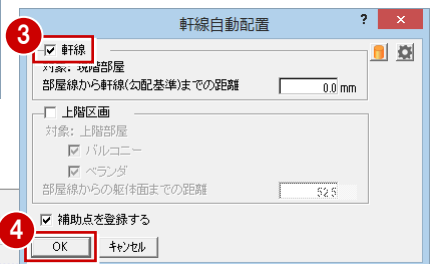
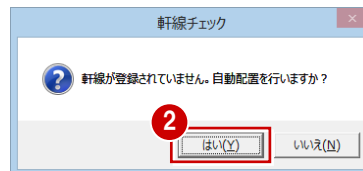
平面図から屋根伏図や天井伏図など関連する処理図面をダイレクトに開くコマンドが、ツールバーに用意されています。

これ以外の図面を開くときは、「ウィンドウ」メニューから「他の処理図面を開く」を選んで、「処理選択」ダイアログから図面を開きます。

### 2階の屋根を自動配置する

2階平面図の部屋データから、屋根の基準となる軒線と2階屋根を自動配置しましょう。

- 1 「自動」をクリックします。
- 2 確認画面で「はい」をクリックします。
- 3,4 「軒線」にチェックが付いていることを確認して、「OK」をクリックします。  
軒線が配置され、「形状設定」ダイアログが開きます。



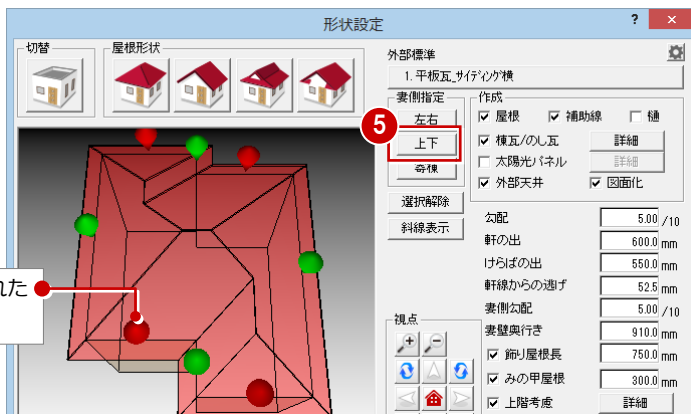
### 軒線について

軒線は、軒の位置を表す基準線です。  
屋根の自動配置では、軒線と上階区画（上階建物の躯体面）を考慮して作成されます。



5 「妻側指定」の「上下」をクリックします。

モニタ上で、上下に配置されたマーカーが選択されます。

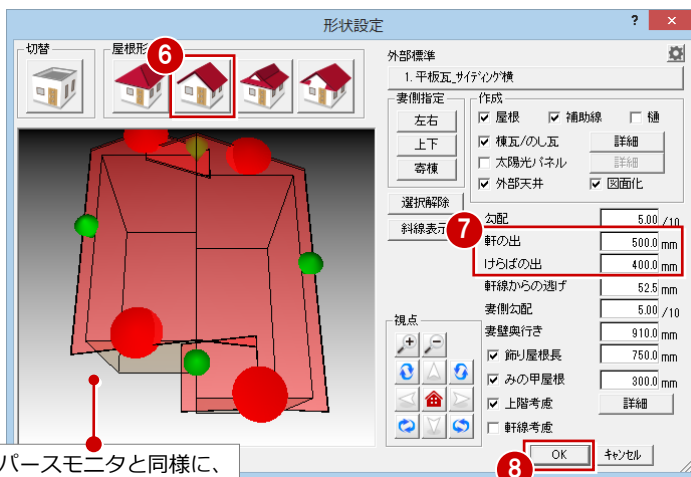


6 「屋根形状」の「切妻」をクリックします。マーカーで選択された屋根が切妻の表現に変更されます。

7 「軒の出」を「500」、「けらばの出」を「400」に変更します。

8 「OK」をクリックします。上下が切妻の屋根が作成されます。

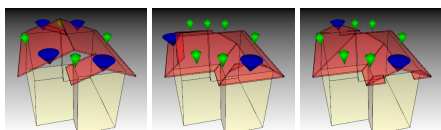
パースモニタと同様に、視点を調整できます。



モニタ上のマーカーについて

- 緑: 屋根形状が寄棟 (選択状態: 赤)
- 青: 切妻・入母屋・飾り切妻の妻側 (選択状態: 赤)

モニタ上のマーカーをクリックして「屋根形状」のボタンを押すと、切妻・入母屋などの形状に変えることができます。



屋根の形状を初期の状態に戻すには、「屋根形状」の「寄棟」をクリックします。

切替ボタンについて

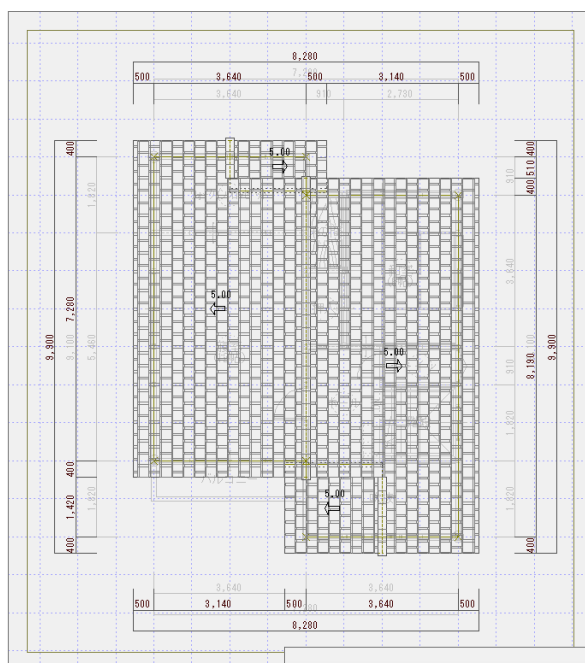
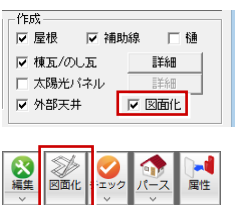
「陸屋根切替」をクリックすると、陸屋根の形状設定ダイアログに切り替わります。



図面として仕上げる (図面化)

「図面化」にチェックを付けておくと、データの重なりを包絡したり、勾配基準線などを表示して、図面として仕上げるすることができます。

※「図面化」コマンドを使用しても同様です。



## 1 階の軒線を自動配置する

1 階屋根伏図に軒線を自動配置しましょう。

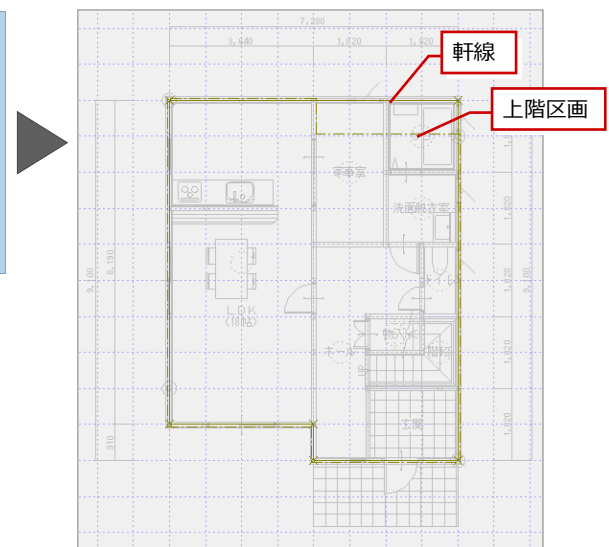
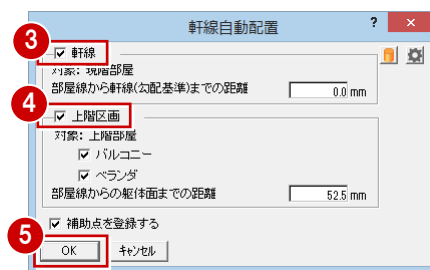
① 「下階を開く」をクリックして、1 階屋根伏図を開きます。



② 「屋根」メニューから「軒線・上階区画」の「軒線自動配置」を選びます。



③～⑤ 「軒線」と「上階区画」にチェックが付いていることを確認して、「OK」をクリックします。

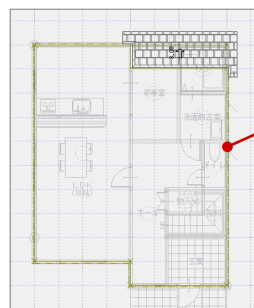
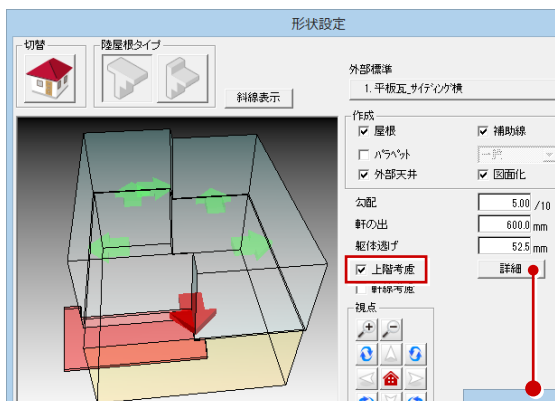
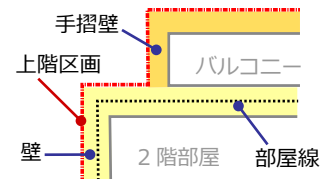


### 上階区画とは

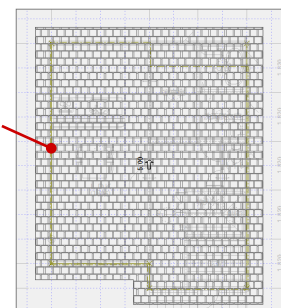
上階建物の躯体面のラインです。

上階区画を作成しておくことで、下階の屋根を配置する際に、上階建物がない部分にだけ屋根を作成させることができます。

上階区画（上階建物の躯体面）を考慮して屋根を作成する場合は、「上階考慮」のチェックを付けます。

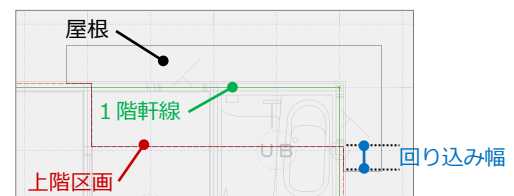
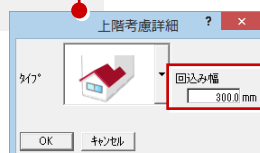


「上階考慮」ON



「上階考慮」OFF

「詳細」をクリックして表示される「上階考慮詳細」ダイアログでは、屋根が建物を回り込む形状と回り込む距離を設定します。



## 片流れ屋根を作成する

上階区画を考慮して、片流れ屋根を手入力してみましよう。

① 「屋根形」メニューから「片流れ」を選びます。

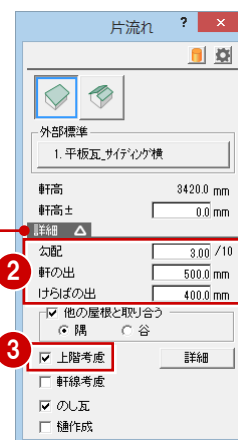


② 次のように設定します。

「勾配」: 3/10

「軒の出」: 500

「けらばの出」: 400



詳細画面を表示するには、「詳細 ▼」をクリックします。

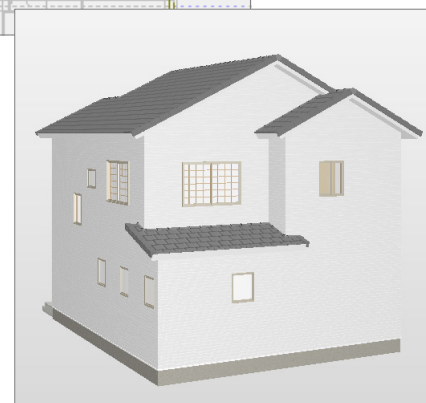
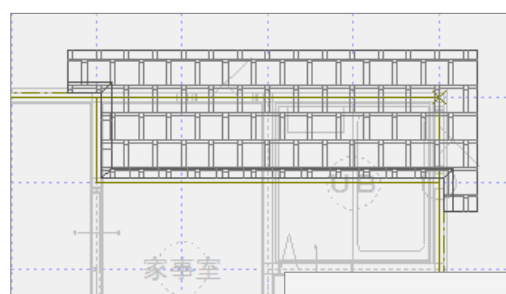
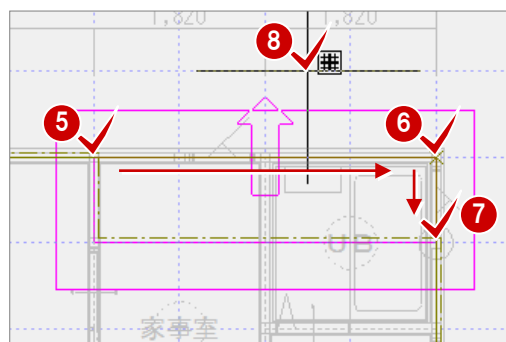
③ 「上階考慮」が ON であることを確認します。

④ 「グリッド」のみ ON の状態にします。



⑤～⑦ 3点をクリックして、屋根の範囲を指定します。

⑧ 流れの方向をクリックします。



## 1 プランの入力

### 玄関庇を入力する

1階屋根を配置できたら、玄関部分に庇を入力しましょう。

- 「屋根」メニューから「庇」の「庇自動配置」を選びます。



- 「庇タイプ」が「洋風1」であることを確認します。

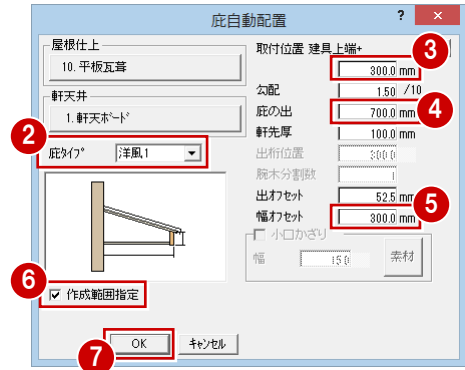
- 〜5 次のように設定します。

「取付位置」: 300

「庇の出」: 700

「幅オフセット」: 300

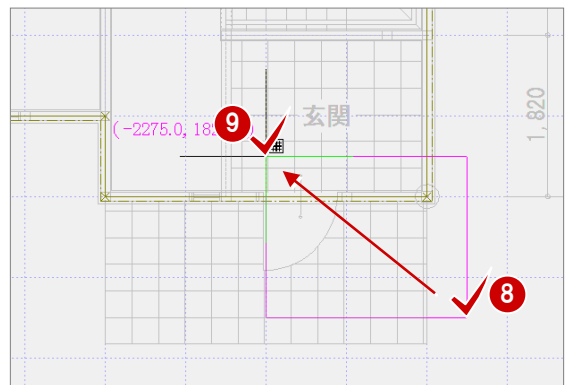
- 「作成範囲指定」にチェックを付けて、「OK」をクリックします。



- 庇を配置する範囲を指定します。

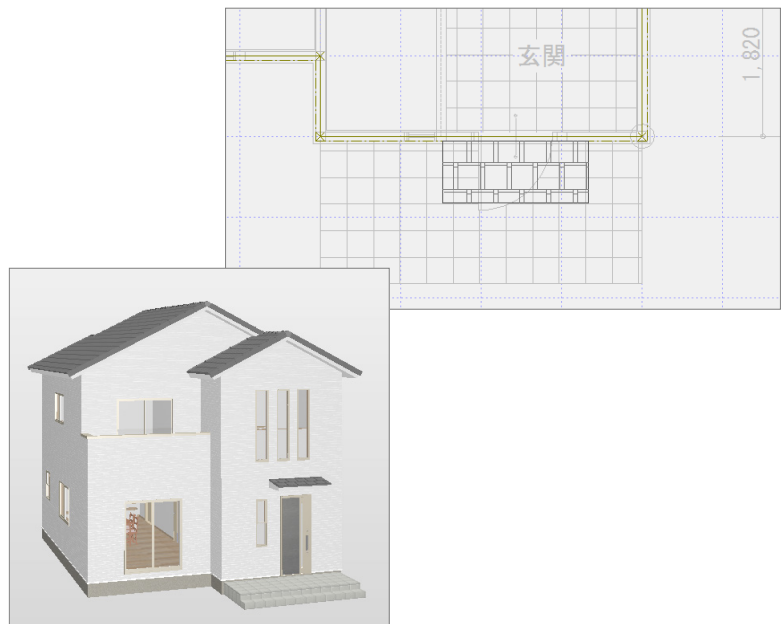
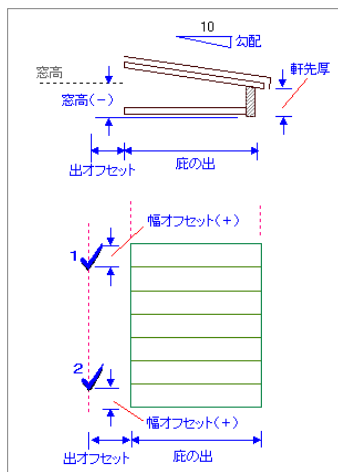
右図のように、玄関ドアを含む範囲で、玄関ドア横の上げ下げ窓にかからないように指定します。

(入力方法: 矩形)



#### 庇自動配置について

指定した範囲内にある平面図の建具データを参照して、庇を自動配置します。

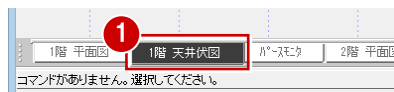


## 1 階の天井を再作成する

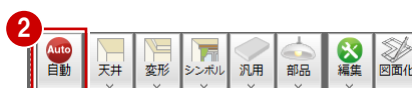
天井伏図では、平面図の一括作成によって部屋データをもとに内部天井仕上がりが作成され、屋根の自動配置によって軒天に外部天井仕上がりが作成されています。天井仕上を確認して、必要があれば再作成しましょう。

ここでは、1階玄関部分（上階は吹抜）に天井が配置されているため（右図）、天井仕上を再作成します。

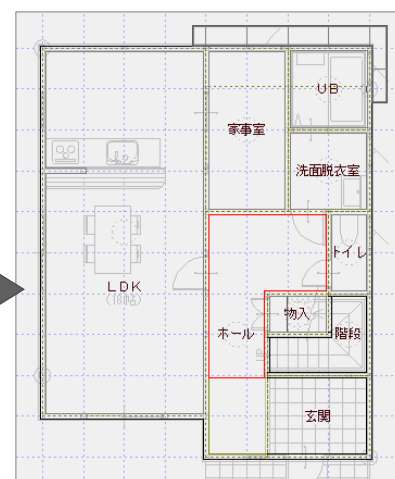
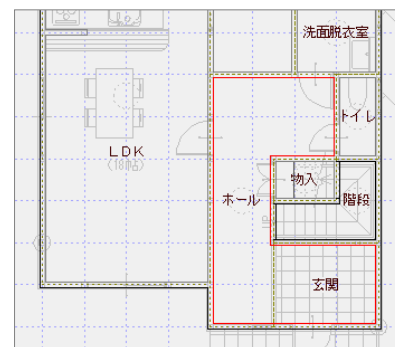
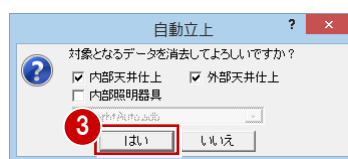
① 「1階 天井伏図」タブをクリックします。



② 「自動」をクリックします。

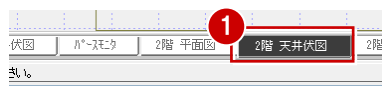


③ 「はい」をクリックします。

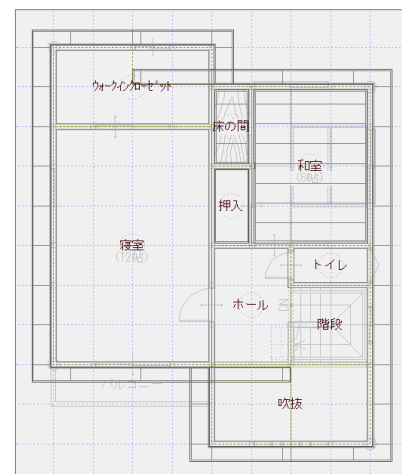


## 2 階の天井を確認する

① 「2階 天井伏図」タブをクリックして、天井仕上を確認します。

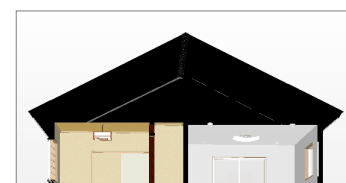


② 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。



### 天井伏図では

平面図で入力した部屋の天井高と天井仕上を参照して内部天井仕上が、屋根を参照して外部天井仕上がりが作成されます。勾配天井の入力や、室内の照明器具の配置も可能です。



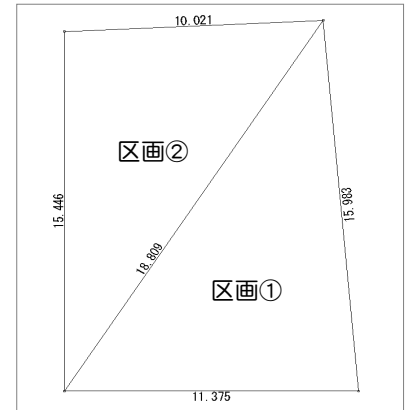
# 2 敷地・道路・外構の入力

敷地・建物区画を入力し、敷地境界線の条件を設定して、斜線制限のチェックを行いましょう。  
また、塀やアプローチ、樹木、部品を入力して外構を作成してみましょう。

## 2-1 敷地の入力

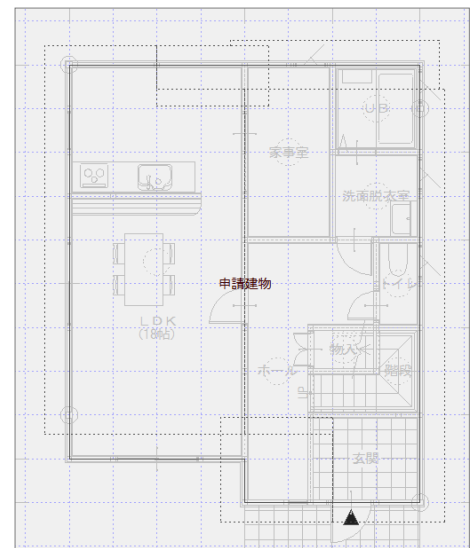
敷地の入力には、様々な方法があります。

ここでは、右図のような三斜図面（データ）がある場合の入力方法を解説します。



### 配置図 1面を開く

- 1 「配置図」 オープン」をクリックします。  
「配置図」ウィンドウが開き、建物区画が自動配置されます。



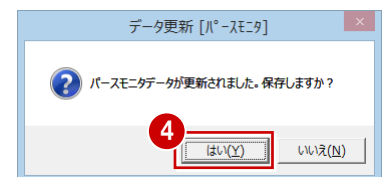
### 建物区画の自動配置

「配置図 専用初期設定（読込）」ダイアログの「新規オープン時の建物区画配置」で、「1面のみ配置」または「全面に配置」にチェックが付いていると、新規図面を開いたとき、部屋線を基準に建物区画が自動配置されます。

- ※ 建物区画の自動配置は、「建物」メニューの「建物区画」の「建物区画自動配置」でも行えます。

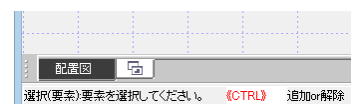


- 2 「他のウィンドウを閉じる」をクリックします。
- 3 保存の確認画面で「はい」をクリックします。
- 4 パースモニタ終了時の保存確認画面で「はい」をクリックします。



### ウィンドウタブで閉じる

ウィンドウタブの上にマウスポインタを置くと、「×」（閉じる）マークが表示されます。その「×」マーク上で左クリックすると、ウィンドウを閉じることができます。



## 区画を入力する

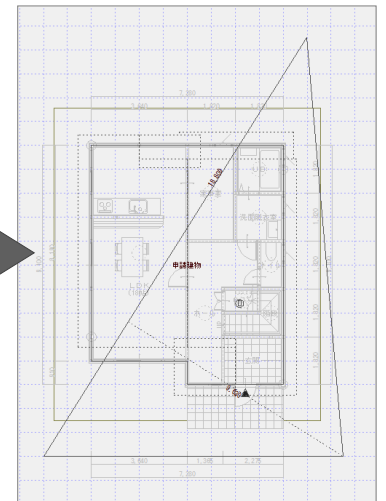
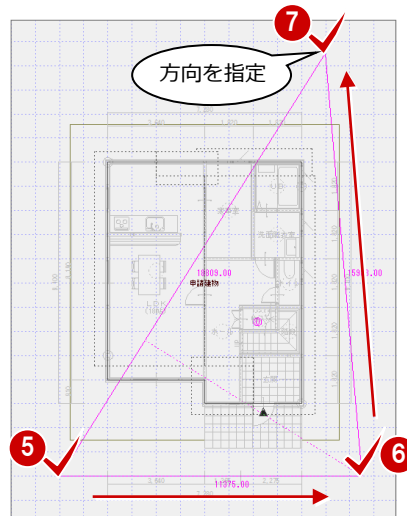
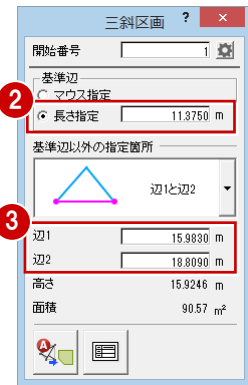
① 「敷地」メニューから「三斜」の「三斜区画」を選びます。

② 「長さ指定」にチェックを付け、「11.375」に変更します。

③ 次のように設定を変更します。  
「辺1」:「15.983」  
「辺2」:「18.809」

④ 「グリッド」のみ ON の状態にします。

⑤～⑦ 三斜区画の3辺を順に指定します。

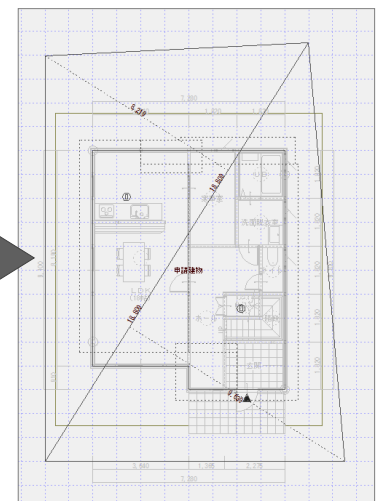
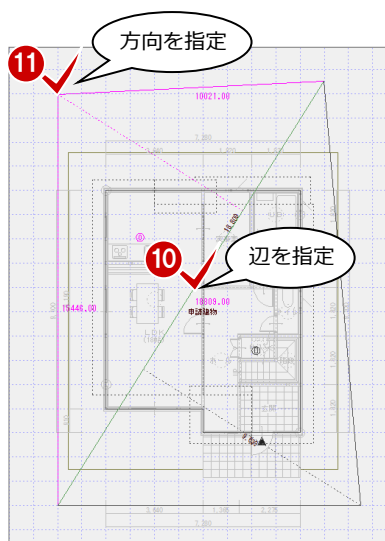
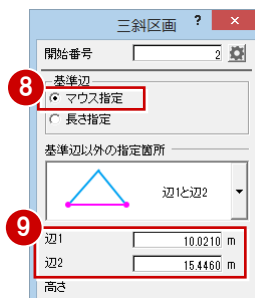


⑧ 「マウス指定」にチェックを付けます。

⑨ 次のように設定を変更します。  
「辺1」:「10.021」  
「辺2」:「15.446」

⑩ 先ほど入力した区画に接する辺をクリックします。

⑪ マウスを動かしてどちら側を辺1、辺2にするかを指定します。

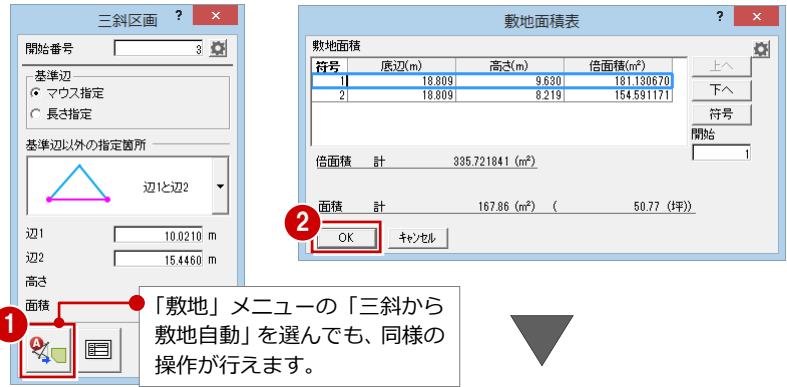


## 三斜区画の距離を訂正するには

三斜区画の辺の長さを訂正するには、「敷地」メニューの「三斜」の「距離の訂正」を使用します。

敷地と敷地面積表を配置する

- 「三斜から敷地自動」をクリックします。敷地が自動配置され、「敷地面積表」ダイアログが開きます。
- 各区画の面積を確認して、「OK」をクリックします。
- 表の配置位置をクリックします。



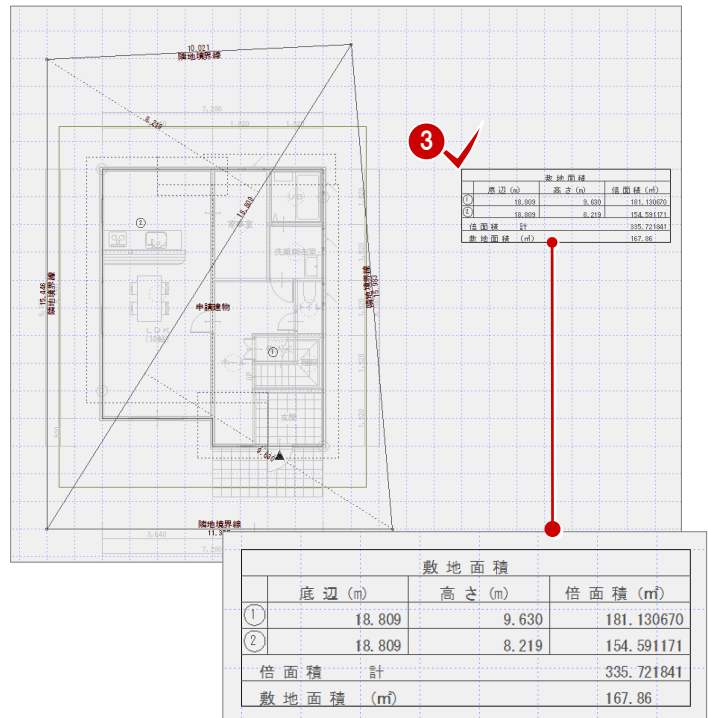
「敷地」メニューの「三斜から敷地自動」を選んで、同様の操作が行えます。

三斜区画と敷地について

三斜区画だけでは敷地として立体で認識されません。パースモニタで敷地を表現したり、斜線を設定するには、敷地の入力が必要です。

敷地面積表の入力について

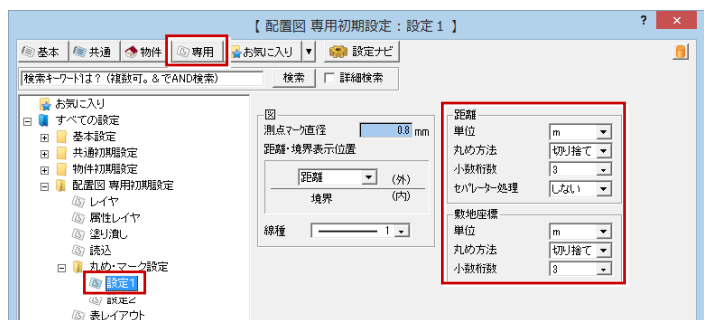
「表」メニューの「三斜敷地面積表」でも、三斜区画から敷地面積を算出して面積表を配置できます。また、三斜区画をクリックして、コマンドコレクションメニューから「三斜敷地面積表」を選んでも、同様な操作を行えます。



単位・丸め・小数桁数の設定

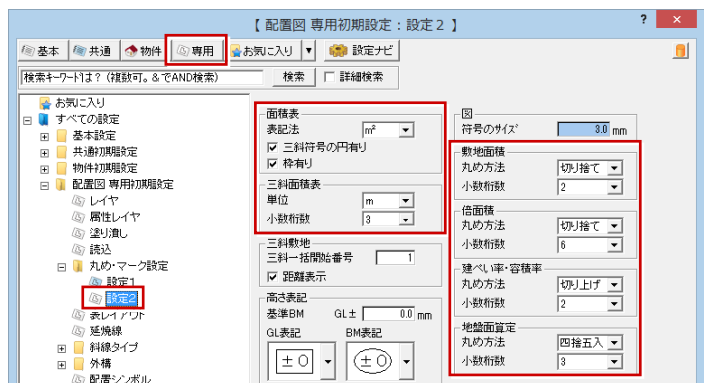
- 敷地入力時の距離
 

敷地入力時の距離の単位・丸め・小数桁数は、「配置図 専用初期設定 (丸め・マーク設定 - 設定 1)」ダイアログの「距離」で設定します。座標値を入力して敷地を入力する場合の単位・丸め・小数桁数は、「敷地座標」で設定します。



- 面積表
 

面積表の単位・小数桁数・面積丸めは、「配置図 専用初期設定 (丸め・マーク設定 - 設定 2)」ダイアログで設定します。





## 2-2 専用編集（敷地の移動）

建物から敷地までの距離が南側 4095 mm、西側 1365 mmとなるように移動してみましょう。

「敷地移動」を使用すると、敷地だけでなく、敷地に付随する道路・三斜区画なども同時に移動できます。

① 「編集」メニューから「敷地移動」を選びます。

② 建物区画をクリックします。

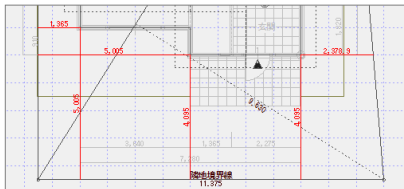
③ 「OK」をクリックします。

④ 南側の寸法をクリックします。

⑤⑥ 「敷地までの距離」を「4095」に変更して、「OK」をクリックします。

### 寸法線を描画するには

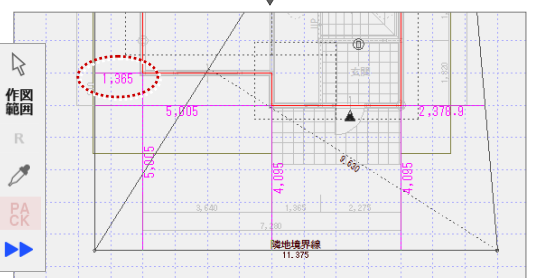
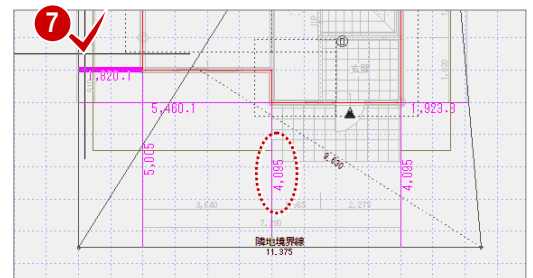
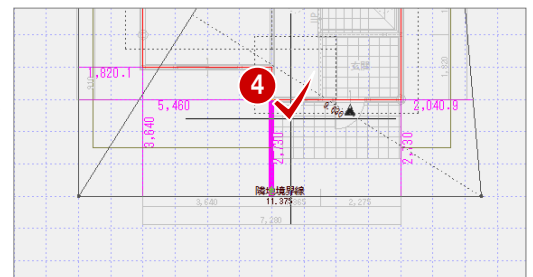
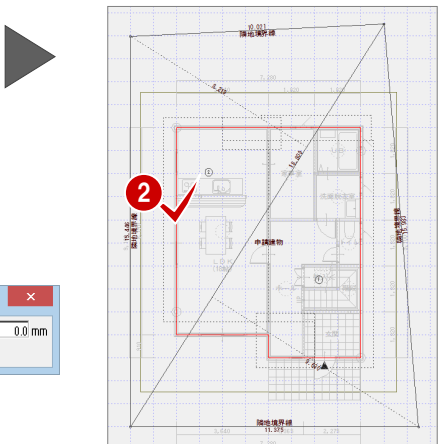
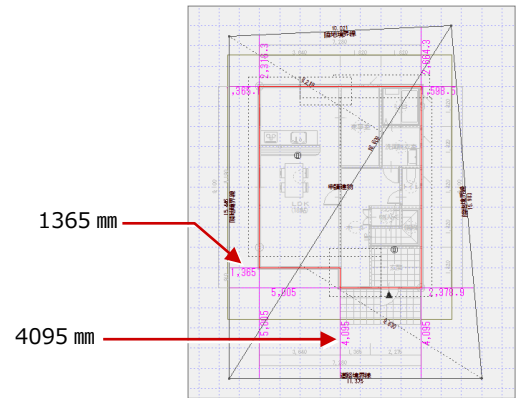
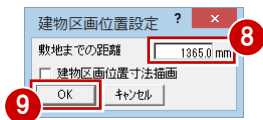
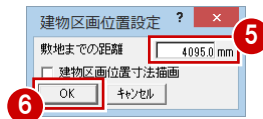
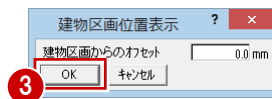
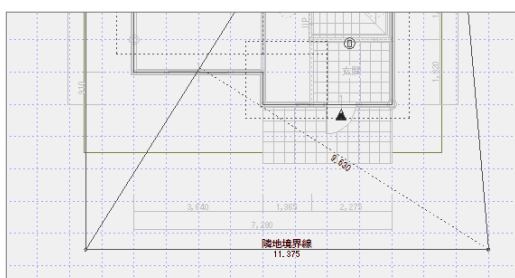
敷地から建物区画位置までの寸法を作成する場合は、「建物区画位置寸法描画」にチェックを付けます。



⑦ 西側の寸法をクリックします。

⑧⑨ 「敷地までの距離」を「1365」に変更して、「OK」をクリックします。

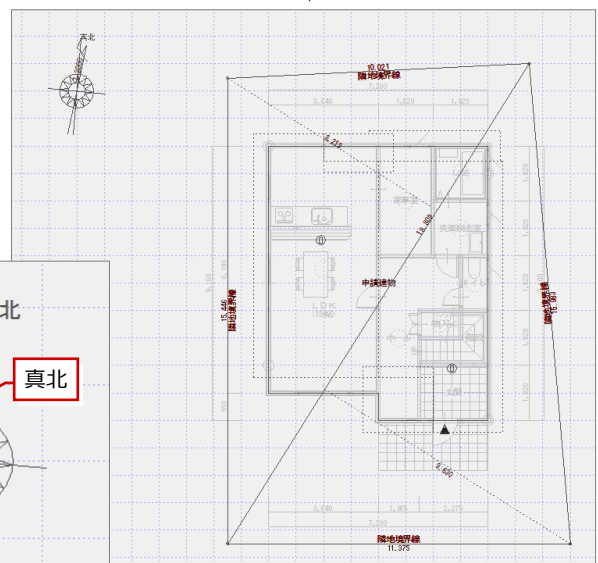
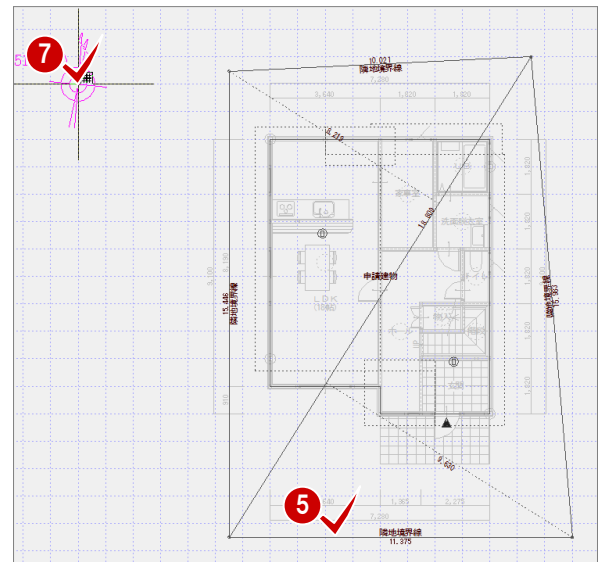
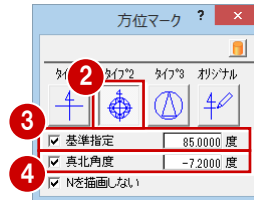
⑩ 右クリックして、「キャンセル」を選びます。



## 2-3 方位の入力

敷地の南側を基準にして、85度の向きに方位マークを入力しましょう。

- 1 「敷地」メニューから「方位マーク」を選びます。
- 2 方位マークのタイプ（ここでは「タイプ2」）を選びます。
- 3 「基準指定」のチェックを付けて「85」と入力します。
- 4 真北を表示するときは、「真北角度」をONにして、磁北に対する真北角度のずれ（偏角）をマイナス値で入力します。ここでは「-7.2」とします。
- 5 敷地の南側のラインをクリックします。
- 6 「グリッド」のみONの状態です。
- 7 「方位マーク」の配置位置をクリックします。



※ 磁北に「N」の文字を表示するときは、「Nを描画しない」をOFFにします。

### 方位マークについて

立面図4面の方角（東西南北）は、配置図に入力されている方位マークを参照しています。配置図に方位マークが入力されていない場合は、平面図に入力されている方位マークを参照し、平面図にも入力されていない場合は、画面の真上が北になります。

### 方位マークが影響する図面

方位マークは、立面図の東西南北、パースモニタの太陽光の方向、法規LVSなどにも影響します。

## 2-4 敷地境界線の設定

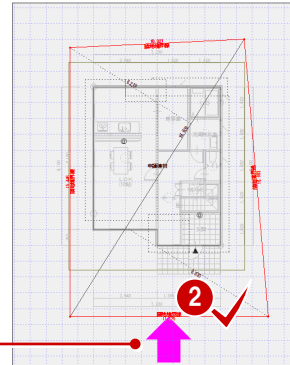
敷地境界線の斜線タイプを設定しましょう。ここでは南側に6m道路があり、その他は隣地と接している敷地とします。

- ① 「敷地」メニューから「敷地境界線」の「個別設定」を選びます。

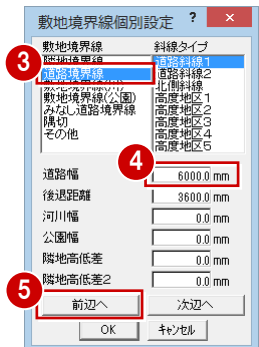


- ② 南側の境界線をクリックします。

- ③④ 「敷地境界線」で「道路境界線」を選び、「道路幅」が「6000」であることを確認します。

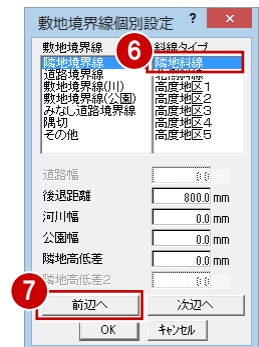
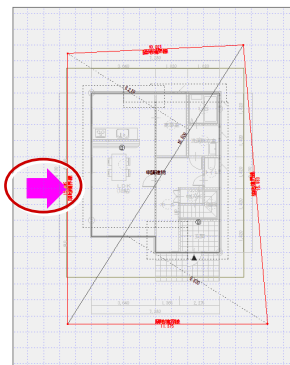


ダイアログの設定対象の辺に矢印が表示されます。

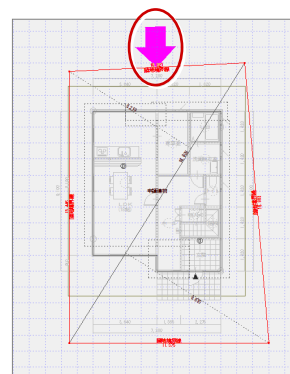


- ⑤ 「前辺へ」(または「次辺へ」)をクリックします。  
西側の境界線が選択されます。

- ⑥ 「斜線タイプ」が「隣地斜線」であることを確認します。

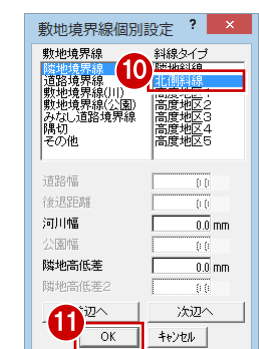
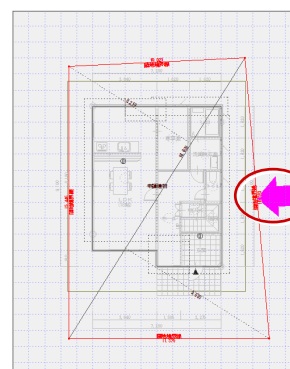


- ⑦ 「前辺へ」(または「次辺へ」)をクリックします。  
北側の境界線が選択されます。



- ⑧ 「斜線タイプ」が「北側斜線」に設定されていることを確認します。

- ⑨ 「前辺へ」(または「次辺へ」)をクリックします。  
東側の境界線が選択されます。



- ⑩⑪ 「斜線タイプ」が「東側斜線」に設定されていることを確認して、「OK」をクリックします。

## 2-5 道路の入力

前ページで設定した敷地境界線を利用して、道路を自動配置しましょう。

道路自動配置を行うと、道路境界線に設定された敷地境界線の位置に、設定されている道路幅で道路を自動配置できます。

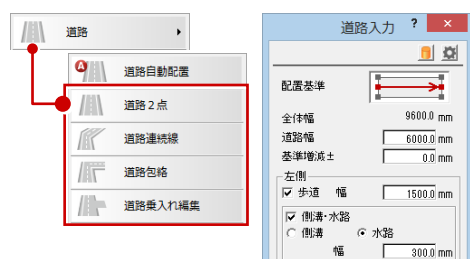
### 道路を自動配置する

- 「道路」メニューから「道路」の「道路自動配置」を選びます。  
敷地境界線の設定を参照して、道路が配置されます。

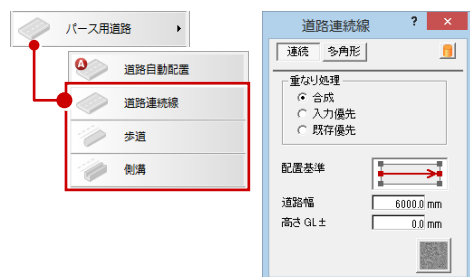


### 道路の入力について

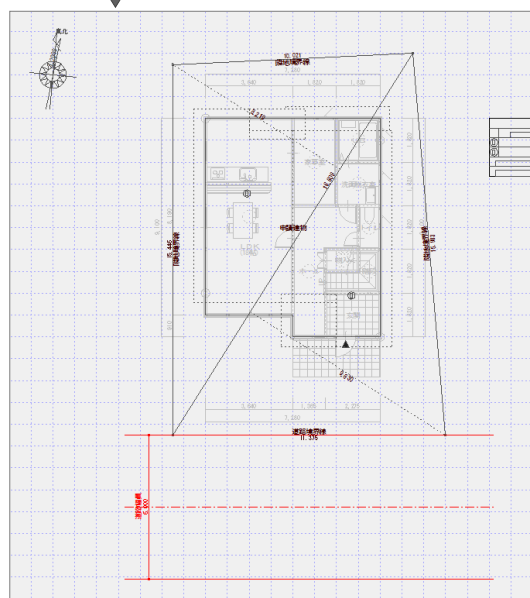
「道路」メニューのコマンドを使って、道路を手入力することもできます。



歩道・側溝を含めた線分データの道路の入力や、包絡処理などを行います。



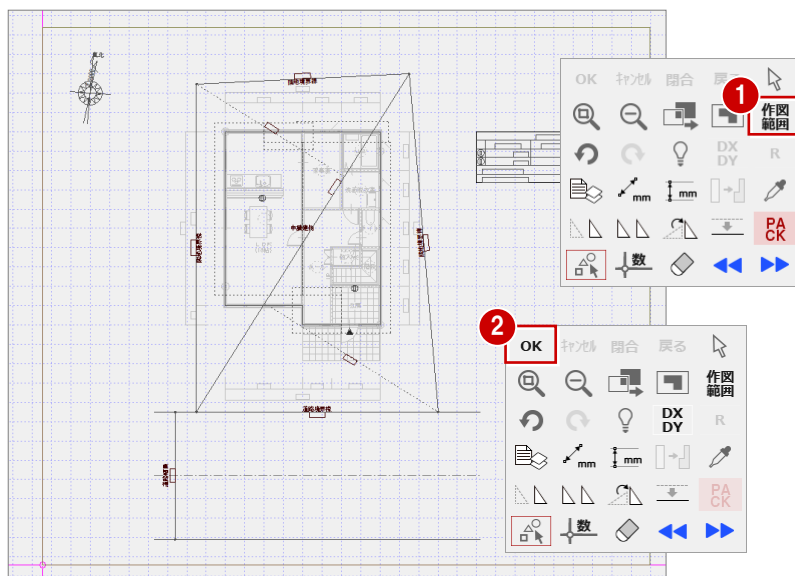
領域データとして、自由な形状の道路・歩道・側溝を入力します。同素材・同勾配の道路と重なったときは、「重なり処理」で選択した方法で自動処理されます。



### 作図範囲を設定する

データ全体が収まるように作図範囲を設定し直して、データを保存しましょう。

- 右クリックして「作図範囲」を選びます。
- 再度、右クリックして「OK」を選びます。



- 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。

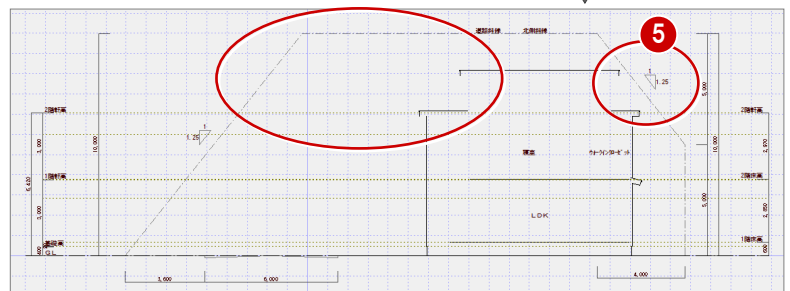
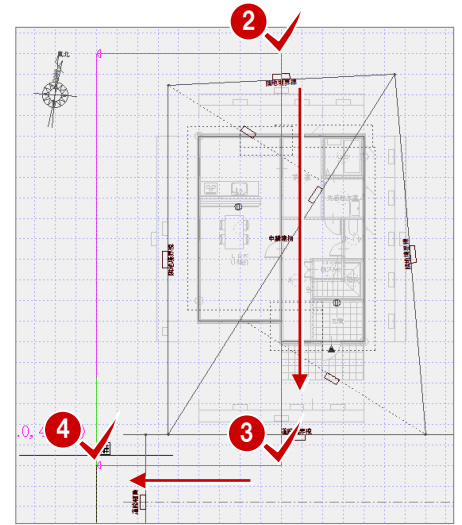


## 2-6 斜線制限のチェック

断面モニタやパースモニタを使って、斜線のチェックをしましょう。

### 断面モニタで斜線チェックする

- 1 「パース」メニューから「断面モニタ」を選びます。
- 2～4 切断位置の始点 ⇒ 終点 ⇒ 見る方向をクリックします。  
「1面 断面モニタ」ウィンドウが開きます。
- 5 断面モニタ上で、建物が斜線にかかっていないかを確認します。



- 6 確認を終えたら、断面モニタの「閉じる」をクリックして、モニタを閉じます。

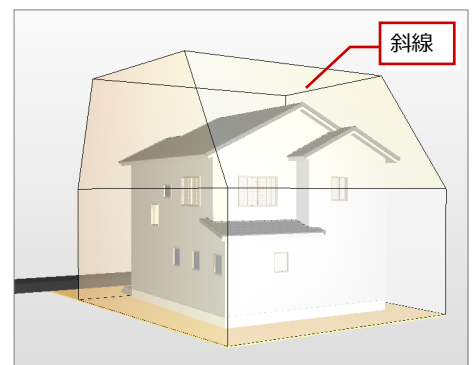
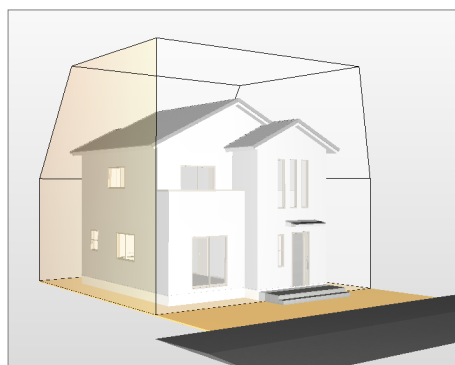


### パースモニタで斜線チェックする

- 1 「パース」をクリックします。
- 2 パースモニタで「斜線」をクリックすると、斜線が表示されます。



※ 確認を終えたら、再度「斜線」をクリックして、斜線の表示を消しておきましょう。

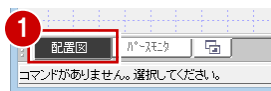


## 2-7 外構の入力

ここでは、外構パターンを利用して外構を入力してみましょう。  
また、塀や部品を追加入力してみましょう。

### 外構パターンを配置する

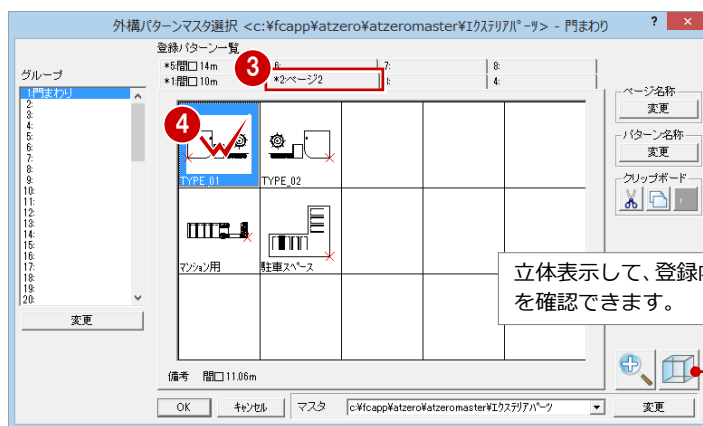
① 「配置図」タブをクリックします。



② 「外構」メニューから「外構パターン」の「外構パターン配置」を選びます。



③④ 「\*2: ページ 2」タブをクリックし、「TYPE\_01」をダブルクリックして選択します。



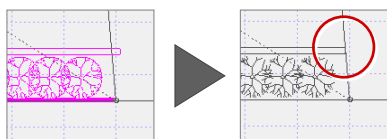
⑤⑥ 「敷地辺配置」のチェックが付いていることを確認して、「配置基準」を「中央下」に変更します。

⑦⑧ 「グリッド」のみ ON の状態で、外構パターンの配置位置をクリックします。

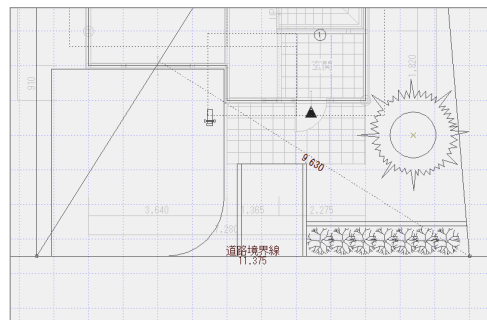
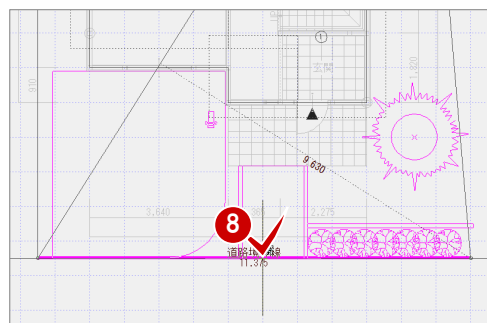
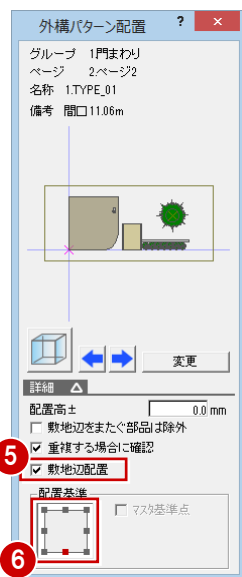


#### 外構パターンについて

あらかじめ 2D 登録された外構部品を、敷地に合わせて配置します。  
配置時に敷地からはみ出た部分は、自動的にカットされます。

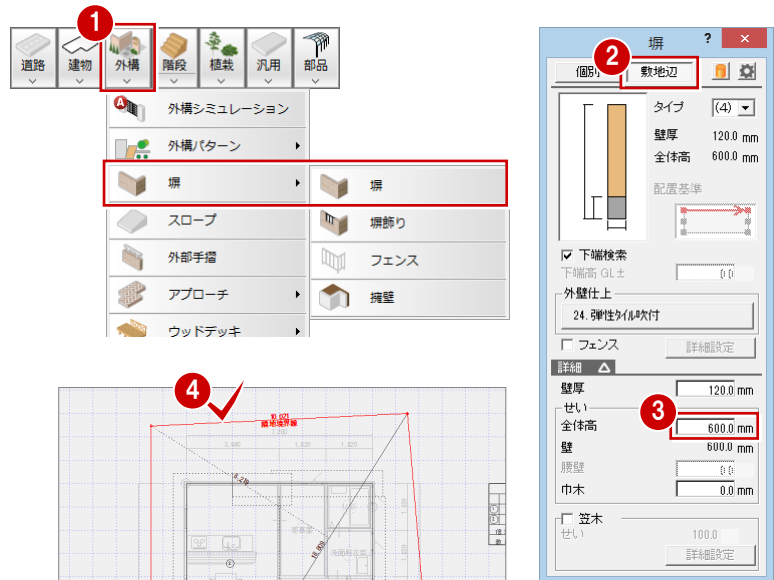


外構パターンの登録は、「外構」メニューの「外構パターン」の「外構パターン登録」で行えます。



## 塀を配置する

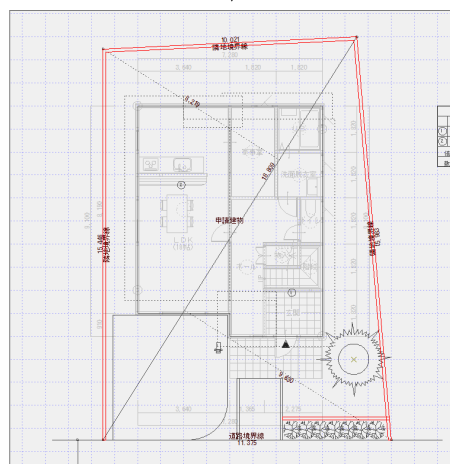
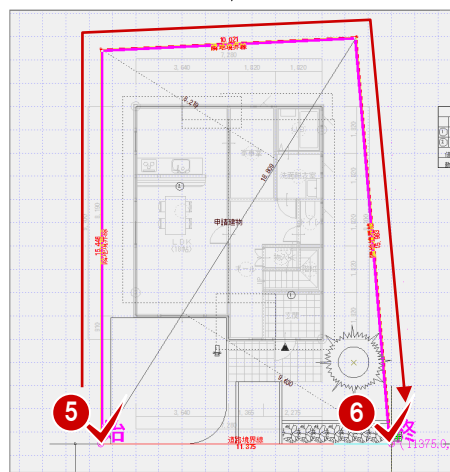
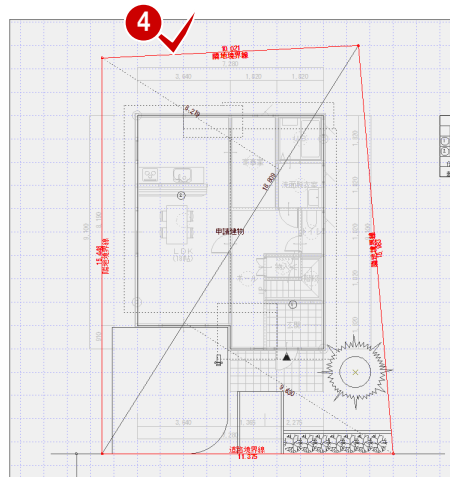
- 「外構」メニューから「塀」の「塀」を選びます。
- 「敷地辺」がON、「全体高」が「600」であることを確認します。
- 敷地をクリックします。



- 塀の開始位置 ⇒ 終了位置をクリックします。  
敷地辺に沿って、塀が入力されます。

### 塀の位置指定について

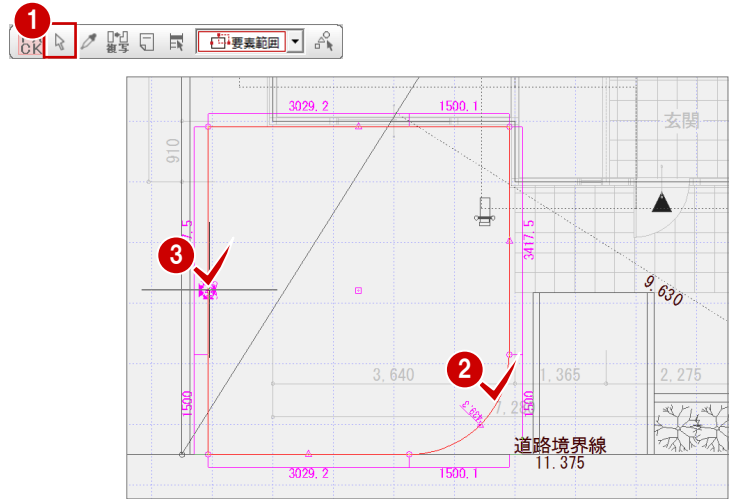
塀は始点から時計回りに入力します。  
ただし、始点をクリック後にマウスのホイールボタン（もしくは無変換キー）を押すと、回り方向を逆転できます。



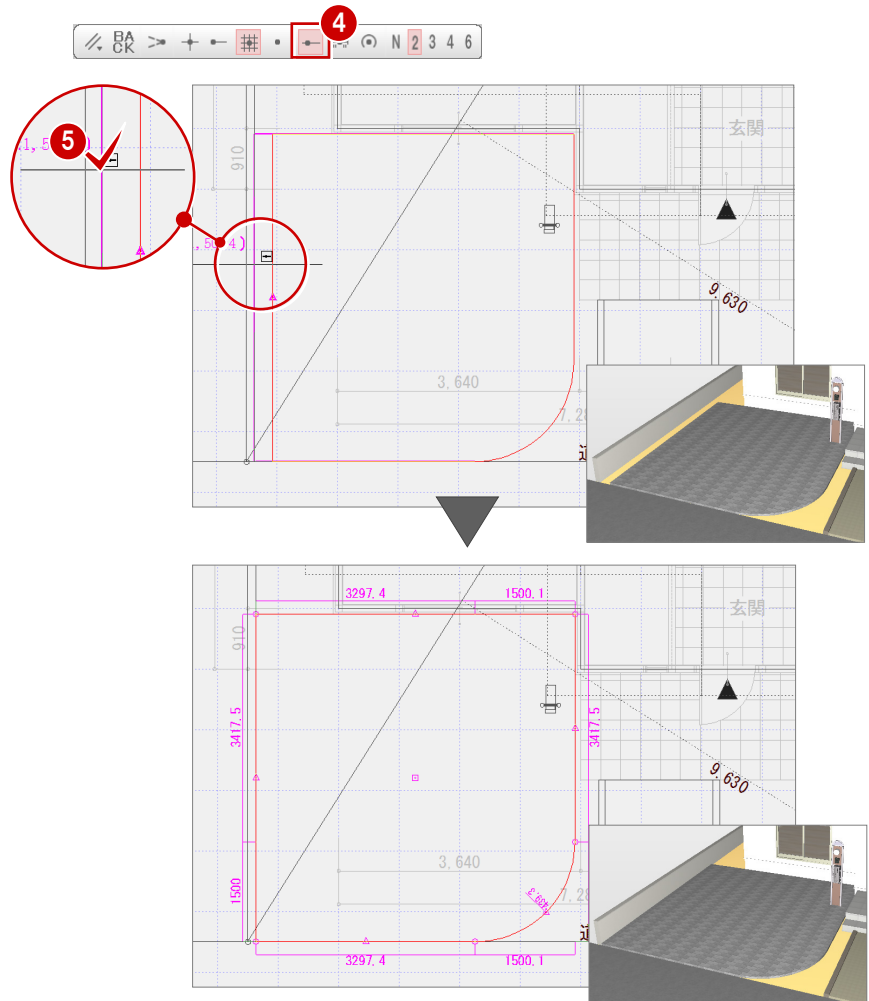
### 駐車場の領域を編集する

先ほど外構パターンで配置した外構に編集を加えてみましょう。ここでは、駐車場の領域を塀まで広げます。

- ❶ 「対象データ選択」をクリックします。
- ❷ 駐車場（水平面）をクリックします。  
(選択方法：要素範囲)
- ❸ トラック（△）をクリックします。

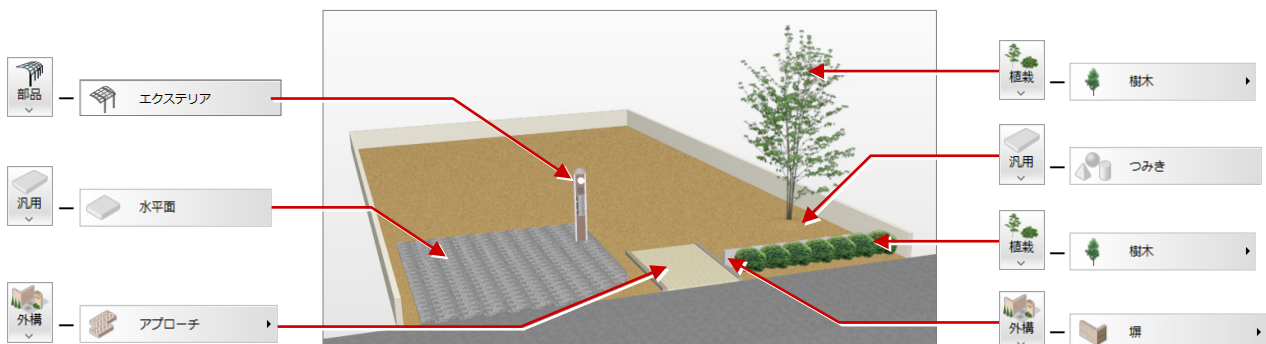


- ❹ 「線上」をONの状態にして、塀の内側のライン上をクリックします。



### 外構サンプル

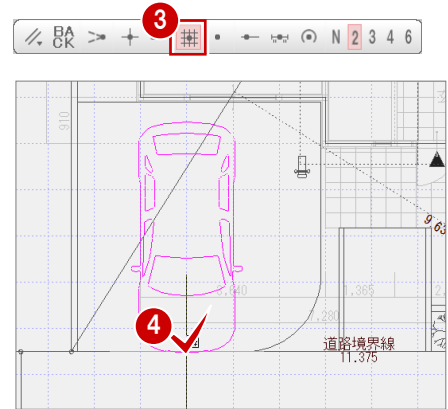
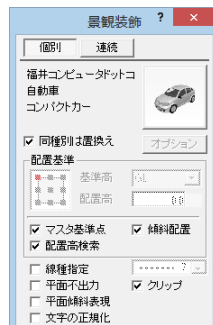
外構パターンで配置した使用サンプルは、以下のシンボルを使用しています。





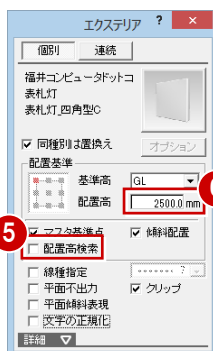
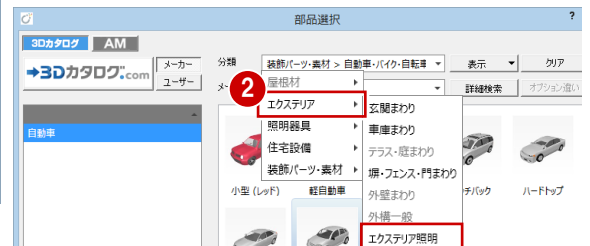
### 自動車を入力する

- 1 「部品」メニューから「装飾パーツ・素材」を選びます。
- 2 一覧から「自動車」の「コンパクトカー」をダブルクリックして選択します。
- 3 4 「グリッド」のみ ON の状態で、自動車の配置位置をクリックします。

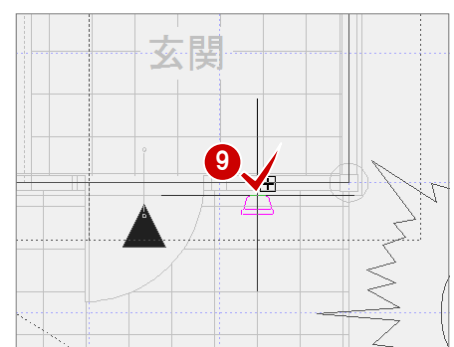


### 玄関灯を入力する

- 1 アイテムの画像をクリックします。
- 2 「部品選択」ダイアログの「分類」で「エクステリア」の「エクステリア照明」を選びます。
- 3 4 一覧から「表札灯」の「表札灯\_四角型C」をダブルクリックして選択します。
- 5 6 「エクステリア」ダイアログの「配置高検索」を OFF にして、「配置高」を「2500」に変更します。
- 7 8 「バックレイヤ」と「交点」を ON にします。
- 9 ポーチ目地と外壁仕上線の交点をクリックして、玄関灯を配置します。



バック図面、バックレイヤのデータもピックの対象とします。



# 3 外観パースの作成

パースモニタでは、平面図、屋根伏図、天井伏図、配置図の入力データから立体を作成し、いろいろな視点で立体を確認して、外観・内観・鳥瞰・断面のパース画像を作成できます。

ここでは、外壁仕上や配置図のシンボルの素材を変更して、外観パースの画像を作成してみましょう。

## 3-1 素材の変更

平面図で外壁仕上を部分的に張り替えてみましょう。また、パースモニタでバルコニー外壁や敷地、玄関ポーチ、塀の素材を変更しましょう。

### 1 階 平面図を開く

- 1 ツールバーの「[平面図] オープン」をクリックします。

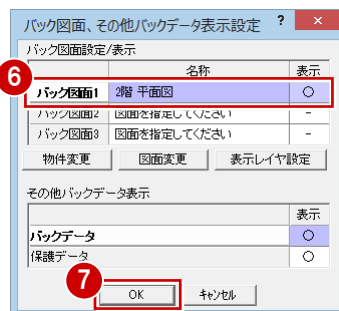
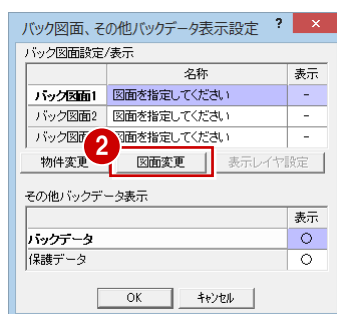
1 階平面図が開きます。



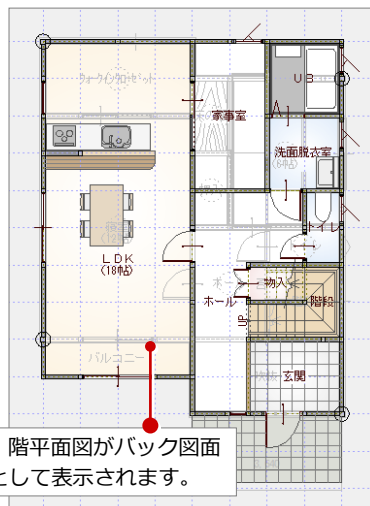
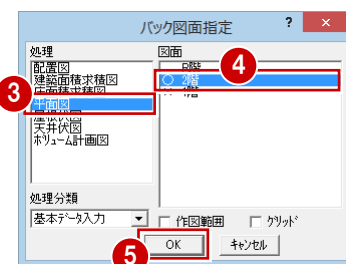
### 2 階 平面図をバック表示する

2 階平面図を参照して 1 階バルコニー部分の外壁素材を変更するため、2 階平面図をバック表示します。

- 1 「バック図面表示」をクリックします。
- 2 「図面変更」をクリックします。
- 3～5 次のように設定して、「OK」をクリックします。  
「処理」：平面図  
「図面」：○ 2 階



- 6, 7 「バック図面 1」が「2 階 平面図」になっていることを確認して、「OK」をクリックします。

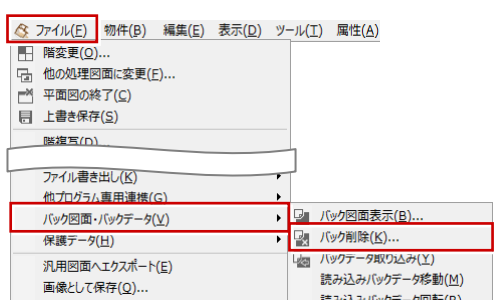


2 階平面図がバック図面として表示されます。

### バック図面を削除するには

バック図面を一時的な非表示ではなく削除するには、「ファイル」メニューの「バック図面・バックデータ」の「バック削除」を選びます。

※ この操作は、元に戻すことはできません。

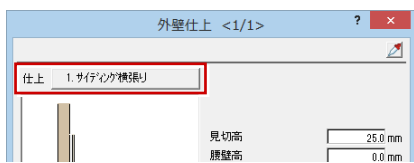


**バルコニー部分の素材を張り替える**

- ① 「仕上」メニューから「外壁」の「仕上張り替え」を選びます。  
外壁仕上線が表示されます。
- ② 「外壁仕上張り替え」ダイアログの「部分」をONにします。
- ③ 「2点」がONになっていることを確認します。
- ④ 外壁仕上マスタをクリックします。
- ⑤ 一覧から「1. サイディング横張り」を選びます。

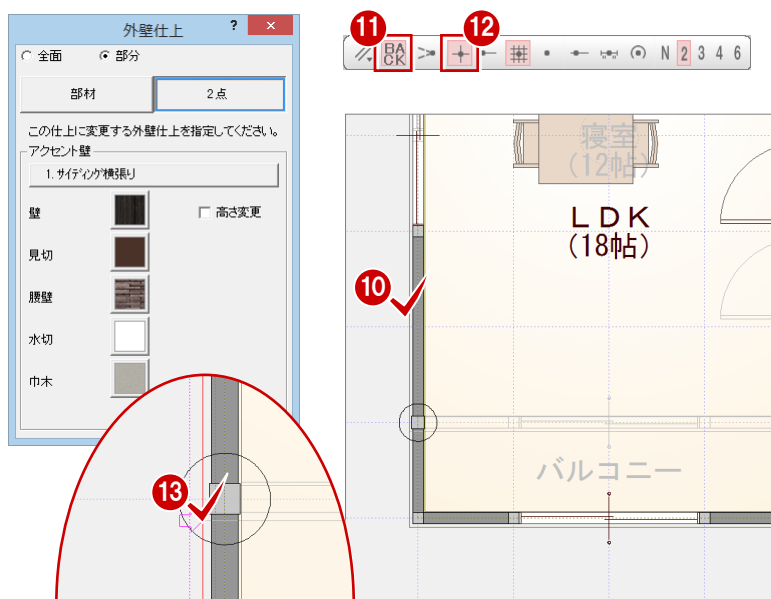
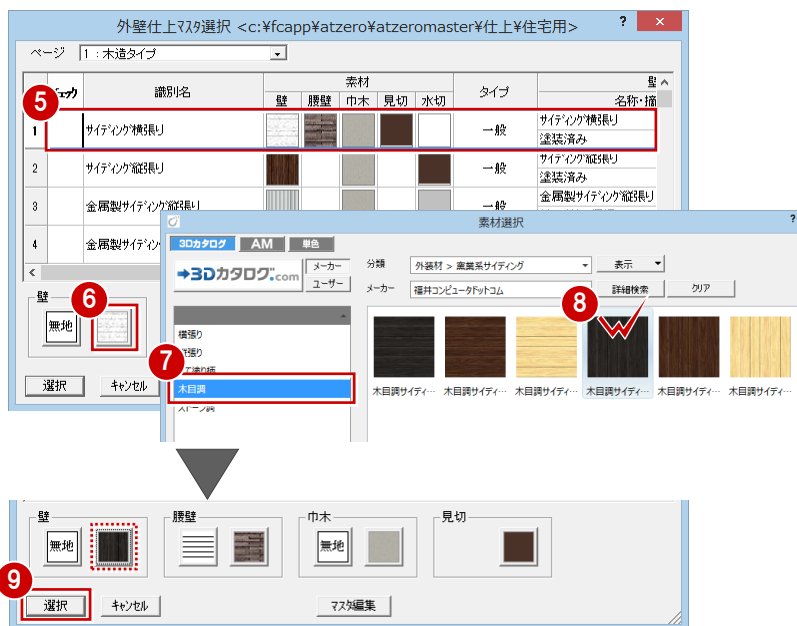
**選択する外壁仕上マスタ**

ここでは、外壁仕上の素材のみを変更するため、現在使用している外壁仕上マスタを選択します。使っている外壁仕上マスタは、外壁仕上の属性変更で確認できます。



- ⑥ 「壁」の素材ボタンをクリックします。
- ⑦～⑧ 張り替える素材を選びます。  
ここでは、「木目調」の「木目調サイディング縦 黒」をダブルクリックで選択します。
- ⑨ 素材が変更されたことを確認して、「選択」をクリックします。

- ⑩ 西側の外壁仕上をクリックします。
- ⑪⑫ 「バックレイヤ」と「交点」をONの状態にします。
- ⑬ 素材を変更する線の始点として、バック図面の2階南側の外壁仕上線と1階西側の外壁仕上線の交点をクリックします。
- ⑭ 終点は1階西側の外壁仕上線の角をクリックします。  
西側バルコニー下の外壁素材が変更されます。



**入力位置を拡大表示したいときは**  
入力位置を一時的に拡大表示したいときは、ズームビューが便利です。拡大表示したい位置にマウスポインタを移動して、Zキーを押すと表示されます。  
⇒ 「基本操作編」P.9 参照

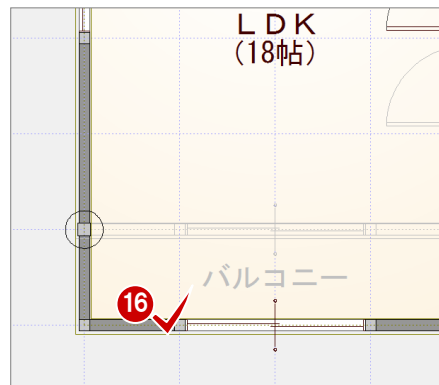
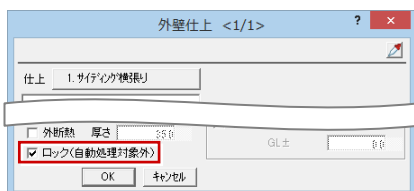
### 3 外観パースの作成

「部材」を ON にします。

- 15 16** 南側の外壁仕上をクリックします。  
南側バルコニー下の外壁素材が変更されます。

#### 仕上張り替えについて

「部分」を ON にして張り替えた外壁仕上は、属性の「ロック（自動処理対象外）」が ON になり、平面図の「一括作成」や「仕上」メニューの「仕上自動配置」で変更されなくなります。「全面」を ON にして張り替えた場合は、属性の「ロック（自動処理対象外）」は変更されません。



### パースモニタから素材を変更する

スポイト機能を使って、バルコニーの外壁素材を変更します。

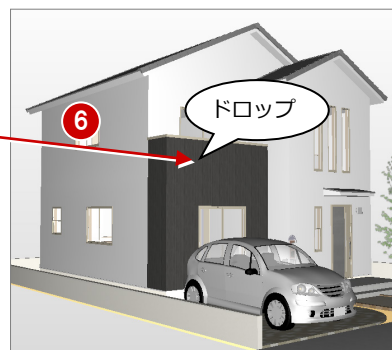
- 1 「パースモニタ」タブをクリックします。
- 2 3 「拡張」をクリックして、「素材」タブを選びます。
- 4 「スポイト」をクリックします。
- 5 張り替えた外壁素材をクリックします。  
張り替えた外壁素材と同じ素材が選ばれた状態になります。



- 6 素材をバルコニーヘドラッグ&ドロップします。

#### パースモニタのスポイト機能

スポイト機能は、モニタ上でクリックした素材のアイテムを呼び出すことができます。「素材」「部品」「建具」のいずれかのタブを開いている場合に有効です。



検索条件の「用途」「製品」を指定して、一覧から素材を選び、敷地、玄関ポーチ、塀の素材を変更しましょう。

【敷地】

芝生D

分類：装飾パーツ・素材-テクスチャ  
製品：地面

【塀】

打ち放しA

分類：装飾パーツ・素材-テクスチャ  
製品：コンクリート

【玄関ポーチ】

ストーン調タイル...

分類：外装材-タイル・石材  
製品：内外装材-ストーン調タイル・石材

外周の塀の素材は、外構パターンで配置した塀と同じ素材を割り当ててるため、建物前方の塀をスポイトします。

### 1 部材・部屋別・階別の違い

素材の変更単位によって変更される面が異なります。次図は、左側の内壁仕上にドラッグした場合の変更結果を示したものです。

#### ■ 1部材

指定した面（ドラッグ先）だけを変更します。



#### ■ 部屋別

同じ部屋内で、指定した面と同一部材すべてを変更します。  
部屋内で一部、内壁素材が異なっていた場合でも、すべて変更されます。



#### ■ 階別

同じ階で、指定した面と同一部材すべてを変更します。  
隣の部屋と内壁素材が異なっていた場合も、すべて変更されます。



※ 外壁や外構など部屋に属さない部材は、「部屋別」と「階別」の変更結果は同じになります。

### コピー・貼り付けによる素材の変更

素材は、属性変更ダイアログの素材ボタンから変更することもできます。

ある部材と同じ素材を割り当てたいときは、素材ボタン上で右クリックして、コピー・貼り付け機能を使用すると便利です。

ステップ <1/1> ?

下端高 GL± 0.0 mm  
ポーチ高 340.0 mm  
床仕上 1.300角タイル

床仕上及び選択 <:Yfcapp¥atzer0¥atzer0m

No.	チャク	識別名	素材	床タイプ	仕上
1	300角タイル			モルタル(土間工)	セリダマタイル 300×300

右クリック

元に戻す(U)  
コピー(C)  
貼り付け(P)...

アプローチ <1/1> ?

高さ一括  
上端高1 GL± 50.0 mm  
上端高2 GL± 50.0 mm  
上端高3 GL± 50.0 mm  
厚さ 100.0 mm 無地  
縁幅 100.0 mm 無地  
ちり 30.0 mm 無地

右クリック

元に戻す(U)  
コピー(C)  
貼り付け(P)...

素材貼り付け

ストーン調タイルページ

アプローチ <1/1> ?

高さ一括  
上端高1 GL± 50.0 mm  
上端高2 GL± 50.0 mm  
上端高3 GL± 50.0 mm  
厚さ 100.0 mm 無地  
縁幅 100.0 mm 無地  
ちり 30.0 mm 無地

## 3-2 視点の設定とカメラの登録

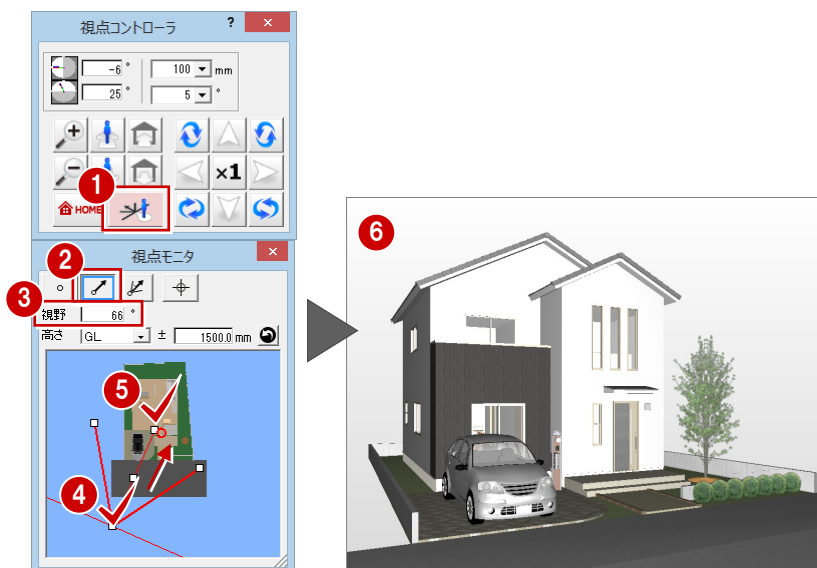
視点を設定して、カメラに登録しましょう。

登録した視点は、カメラから呼び出すことができ、カメラを指定するだけで視点を切り替えられます。

### 視点を設定する

- ① 視点コントローラの「視点モニタ表示切替」をクリックします。
- ②③ 視点モニタの「2点指定」が ON になっていることを確認して、「視野」を「66」に変更します。
- ④⑤ 視点位置 ⇒ 視点方向の順にクリックします。
- ⑥ マウス操作でアングルを微調整します。

⇒ 視点の設定の詳しい操作については、「基本操作編」P.17 参照



### カメラを登録する

- ① 「カメラ」タブをクリックします。
- ② 「追加」をクリックします。  
現在の視点位置のカメラが登録されます。
- ③ 登録されたカメラ上で右クリックして、「名前の変更」を選びます。
- ④ カメラの名称を入力します。  
ここでは、「外観」と入力し、Enter キーを押して確定します。



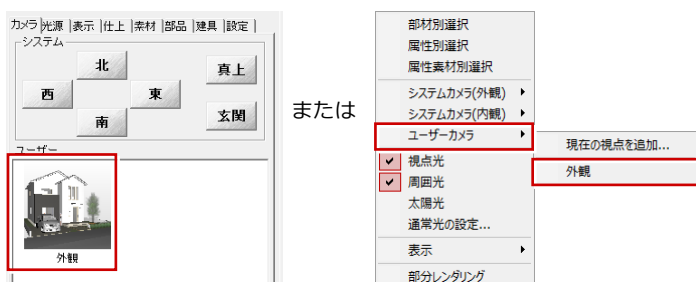
### ポップアップでカメラを登録する

パースモニタ上で右クリックして、「ユーザーカメラ」の「現在の視点を追加」を選んで、カメラを登録できます。この場合は、登録時にカメラの名称を入力します。



### カメラの視点を呼び出すには

カメラの視点を呼び出すには、登録したカメラをクリックします。パースモニタ上で右クリックして、「ユーザーカメラ」から目的のカメラをクリックしても、登録した視点を呼び出すことができます。



### 注意：カメラの保存

ここで登録したカメラを次回も継続して使用したいときは、パースモニタデータを保存しておき、次回パースモニタを開く際に、既存データを読み込む必要があります。パースモニタデータを保存しなかったときには、登録したカメラデータは破棄されます。



## 3-3 背景・光源の設定

背景を切り替えて、光源の設定を確認してみましょう。

### 背景を切り替える

- 「背景／光源変更」を「昼」に変更します。パースモニタの背景画像が「昼」に変更されます。

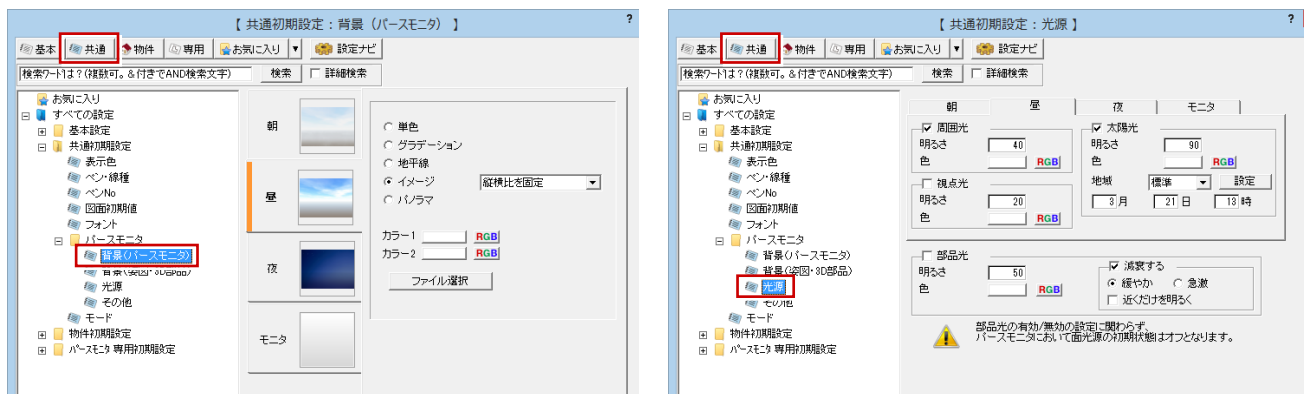


背景の変更と同時に、太陽光などの環境光も一緒に変更されます。



### 背景と光源の設定

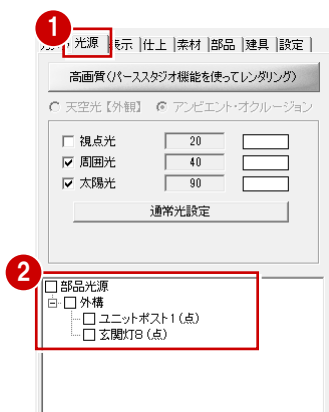
「モニタ」「昼」などの切り替えで変更される背景は、「共通初期設定（パースモニター-背景（パースモニタ）」ダイアログで設定します。また、各光源の初期値は、「共通初期設定（パースモニター-光源）」ダイアログで設定します。



### 光源を設定する

照明部品には光源が設定されています。昼の外観パースを作成するため、外構の照明が消灯しているか確認しましょう。

- 「光源」タブをクリックします。
- 「部品光源」のチェックがすべてはずれていることを確認します。



### 光源の設定

光源には「視点光」「周囲光」「太陽光」「部品光源」の4種類があり、各設定ダイアログで、光源の色や明るさを設定できます。各光源の明るさや色、また各光源の組合せで、作成される画像が異なります。

### 部品光源の設定

点灯している光源の数が多いとレンダリングの処理スピードに影響しますので、最低限の点灯にすることを勧めます。なお、部品光源の設定は、「パースモニタデータ再作成」による立体データの再作成や、図面での部品の属性変更、移動などにより元に戻ります。

## 3-4 作成イメージの確認

レンダリングの品質レベル、レンズフレアの有無などの条件を設定し、レンダリングを実行して画像作成イメージを確認してみましょう。

### 品質レベル・レンズフレアを設定する

- 1 「設定」タブをクリックします。
- 2 「品質レベル」の「フルレイトレ」にチェックを入れます。
- 3,4 「レンズフレア」にチェックを付けて、「大レンズ」を選びます。
- 5 「太陽光」の「右上」にチェックを入れます。



### レンダリングを実行する

- 1 「実行」をクリックします。

設定した光源の条件でイメージが作成され、画面右上にレンズフレアが表現されます。

※ モニタ上で、マウスの右ボタンをダブルクリックしても実行できます。



### レンダリングを中止するには

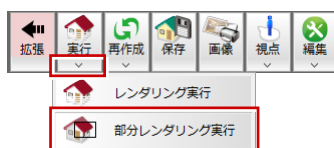
タイトルバーやウィンドウをクリックします。また、他コマンドを実行したり、キーボードの Esc キーを押しても同様です。

### レンダリングの進捗表示について

「基本設定 (3D 描画エンジン)」ダイアログの「進捗表示スタイル」で、レンダリング実行中の進捗表示を変更できます。

### 部分レンダリング実行

「実行」メニューの「部分レンダリング実行」を使用すると、範囲を指定して部分的に成果を確認できます。



### この結果をすぐに画像保存・印刷したい場合

レンダリング実行直後に「画像」をクリックすると、「モニタサイズ×1.0」の設定において、「画像印刷/保存」ダイアログの「保存」と「印刷」が有効になり、そのまま画像保存と印刷が可能です。

サイズなどを変更した場合は、再度レンダリングを実行する必要があります。



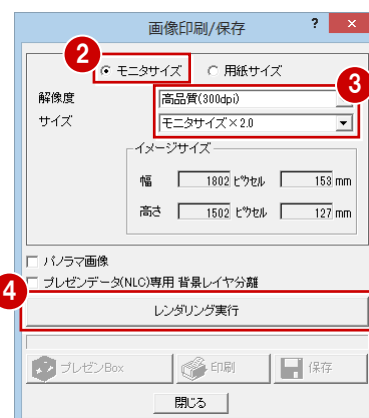


## 3-5 画像の保存・印刷

画像サイズと解像度を設定して画像イメージを作成し、その結果を画像ファイルに保存、または印刷してみましょう。

### 画像を作成する

- 「画像」をクリックします。
- 「モニタサイズ」にチェックを入れます。
- ここでは解像度、画像サイズを次のように設定します。  
「解像度」：高品質（300dpi）  
「サイズ」：モニタサイズ×2.0
- 「レンダリング実行」をクリックしてレンダリングを開始します。



#### モニタサイズと用紙サイズ

「モニタサイズ」は、基本的に現在のモニタサイズをベースにして画像を作成するため、モニタ表示そのまま画像を作成できます。  
「用紙サイズ」は、用紙サイズを決めて印刷する場合に使用しますが、用紙サイズとモニタサイズは異なるため、モニタの表示状態とは異なり、両サイドや上下が若干切れたりすることがあるので、注意が必要です。

#### 画像サイズ

サイズを「モニタサイズ×2」としていますが、ここでは、「イメージサイズ」の「幅」と「高さ」が印刷に必要なサイズ「1600×1200 ピクセル程度」となるように、モニタサイズを選んでいきます。

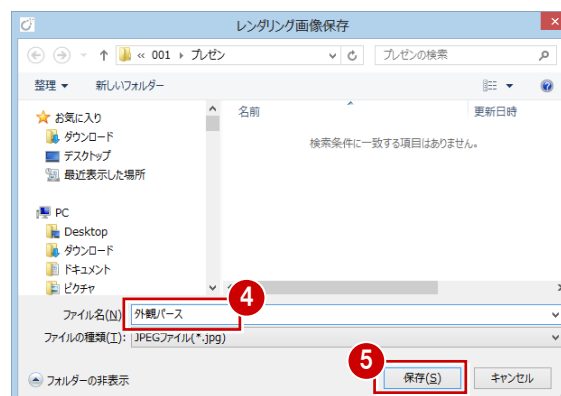
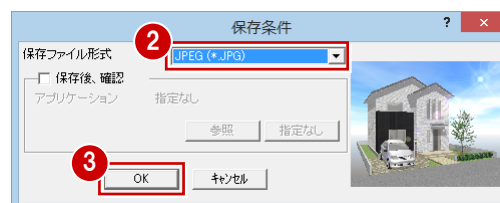
### 画像を保存する

レンダリングが終了すると「保存」が有効になるので、画像を保存しましょう。

- 「保存」をクリックします。
- 保存ファイル形式（ここでは「JPEG（\*.JPG）」を確認して、「OK」をクリックします。
- 作成した画像のファイル名（ここでは「外観パース」）を入力して、「保存」をクリックします。  
画像ファイルが保存されます。



プレゼン Box では、ARCHITREND プレゼンデザイナーや快適住まいシートなどで使用する図面やパースの画像を作成して登録できます。



#### 画像の保存先フォルダ

画像ファイルは、物件フォルダ（001, 002・・・）に作成される「プレゼン」フォルダに保存されず（初期値）。

### 3 外観パースの作成

#### 画像を印刷する

- 1 「画像印刷／保存」ダイアログの「印刷」をクリックします。
- 2 「プリンタの設定」をクリックします。
- 3,4 用紙サイズや向きを次のように設定して、「OK」をクリックします。  
「サイズ」: B5 (182×257 mm)  
「印刷の向き」: 横
- 5 「印刷実行」をクリックして、印刷を開始します。
- 6 印刷を終了したら、「閉じる」をクリックして、ダイアログを閉じます。



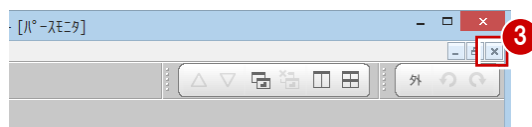
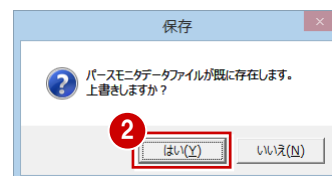
#### 保存されている画像を印刷するには

「ファイル」メニューの「印刷」の「画像ファイル」を指定して印刷を使います。印刷する画像を選んで、同様な操作で印刷できます。

#### パースモニタデータを保存する

次のパースモニタ起動時にも同じ状態で使用できるように、立体データを保存しておきましょう。

- 1 「保存」をクリックします。
- 2 確認画面で「はい」をクリックします。
- 3 「閉じる」をクリックして、パースモニタを閉じます。
- 4 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。



#### パースモニタデータの保存について

パースモニタデータを保存すると、次のパースモニタ起動時にも同じ状態（視点、カメラ、光源、素材）で読み込むことができます。

※ 保存されているパースモニタデータを読み込むには、「パース」メニューの「既存データ読み込み」を選びます。

パースモニタで保存できる立体データは1つだけです。立体データは常に上書きで保存されるため、前の立体データの状態を残すことができませんのでご注意ください。

また、パースモニタデータを保存すると、マネージャー、ZEROの「物件選択」ダイアログにサムネイル（縮小画像）が表示されます。



## 4

## 立面図の作成

平面図・屋根伏図・天井伏図で入力したデータをもとに立面図を作成しましょう。

## 4-1 立面図の自動作成

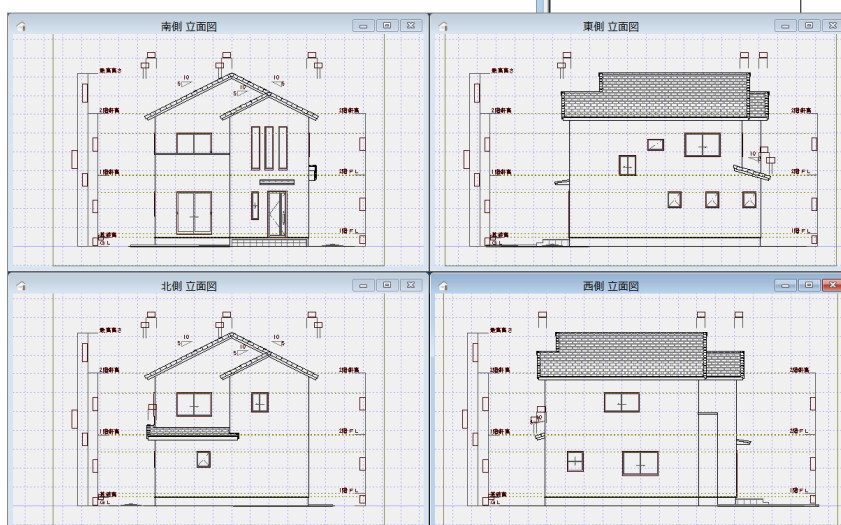
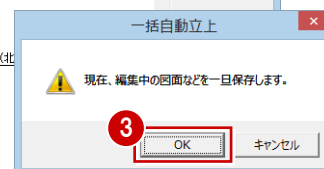
- 1 「立面図」 オープン」 をクリックします。



- 2 「4面自動立上」 をクリックします。

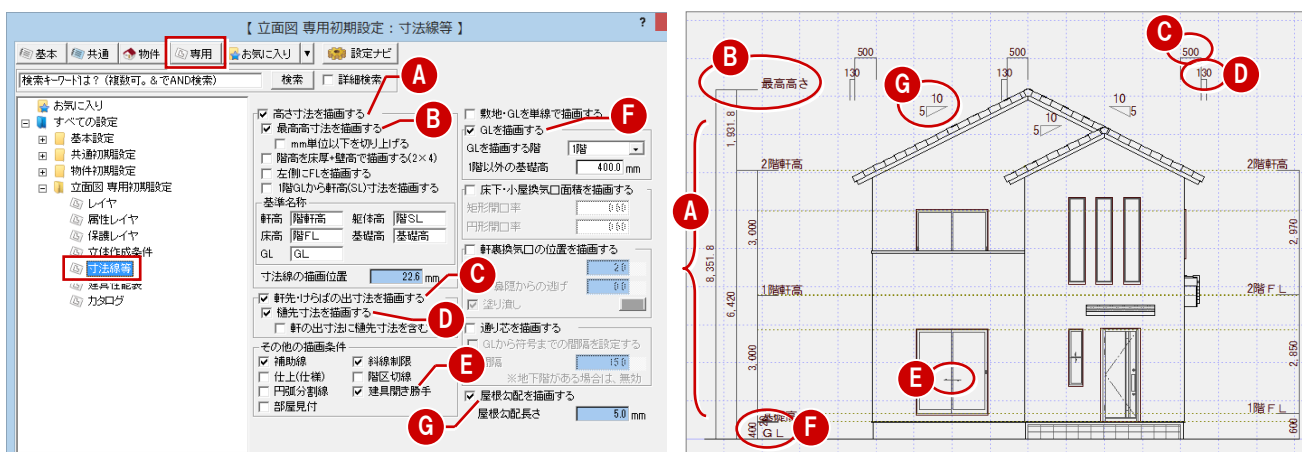


- 3 確認画面で「OK」 をクリックします。  
立面図 4面が開いて、自動立上が始まります。



## 立面図の自動作成条件

立面図の自動立上における寸法線などの描画条件は、「立面図 専用初期設定 (寸法線等)」ダイアログにて設定します。設定を変更した場合は、再度自動立上して図面を作成し直します。



## 4-2 作成条件の変更

自動立上時の立体作成条件は、「専用初期設定（立体作成条件）」ダイアログにて設定します。

ここでは、配置図で入力した外構データの水平面やつみきが表示されているため、設定を変更して立面図を再作成しましょう。

① 「設定」をクリックします。

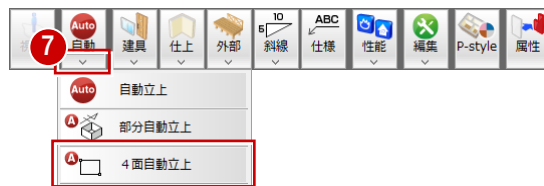


②③ 「専用初期設定」をクリックして、ツリーから「立体作成条件」を選びます。

④⑤ 「作成項目」で「水平面」と「つみき」を選択して、「作成条件」を「×」に変更し、「OK」をクリックします。



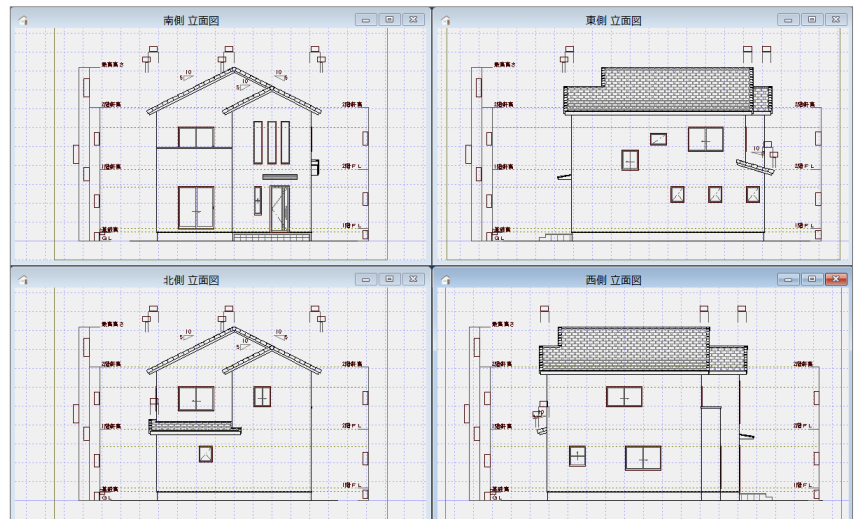
⑦ 「自動」メニューから「4面自動立上」を選び、立面図4面を再作成します。



### 立面図の作成コマンド

立面図を起動した後に、現在の面のみ自動立上したい場合は「自動」をクリックします。Shift キーを押しながら、「自動」をクリックすると、作成する面を Ctrl キーで複数選択して自動立上できます。

立面図を部分的に再作成したい場合は、「自動」メニューから「部分自動立上」を選んで、再作成する範囲を指定します。



⑧ 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。



### 図面を編集する際の注意点

「基本設定（システム1）」ダイアログでリアルタイム連動が有効になっている場合、立面図もしくは基本図面での変更が相互に反映されます。変更を連動させたくない場合は、連動先の図面を閉じた状態で操作しましょう。

## 5

## 平面図・立面図の印刷

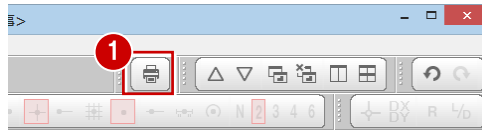
作成した図面をレイアウトして印刷してみましょう。

## 5-1 図面の配置

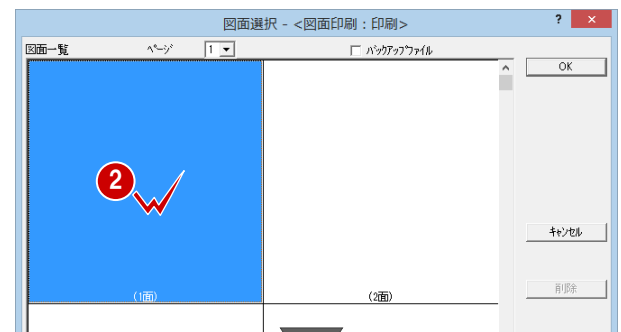
図面印刷を開き、図面枠を配置後、1 面に平面図、2 面に立面図 4 面を配置しましょう。

## 1 面 図面印刷を開く

① 「図面印刷」 オープン」をクリックします。



② 「1 面」をダブルクリックします。  
「1 面 図面印刷」ウィンドウが開きます。

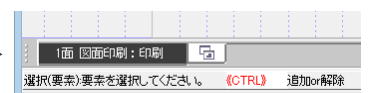
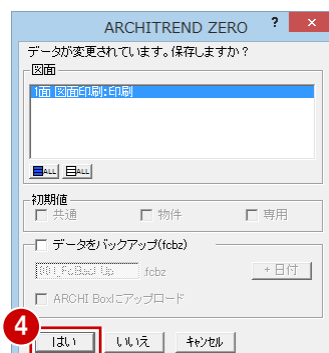


③ 「1 面 図面印刷」ウィンドウを開いた状態で、「他のウィンドウを閉じる」をクリックします。



プルダウンメニューの「ウィンドウ」の「他のウィンドウを閉じる」をクリックしても同様の操作が行えます。

④ 保存の確認画面で「はい」をクリックします。  
「1 面 図面印刷」ウィンドウ以外の図面がすべて閉じられます。



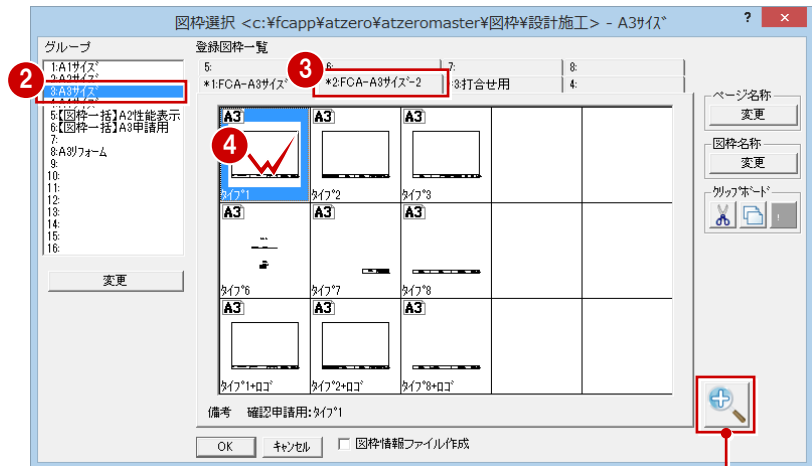
図面枠を配置する

① 「図枠」 をクリックします。



② 「A3 サイズ」 をクリックします。

③④ 「\*2:FCA-A3 サイズ-2」 をクリックして、変更したい図枠を選びます。  
ここでは、「タイプ 1」 をダブルクリックして選択します。



⑤ 確認画面で「はい」 をクリックします。  
図面枠が指定したものに変更されます。



選択した図面枠を拡大表示して、登録内容を確認できます。  
確認後、「配置」 をクリックして配置できます。

出力モードと図枠モード

図面印刷には、「出力」と「図枠」のモードがあり、使用できるコマンドも異なります。

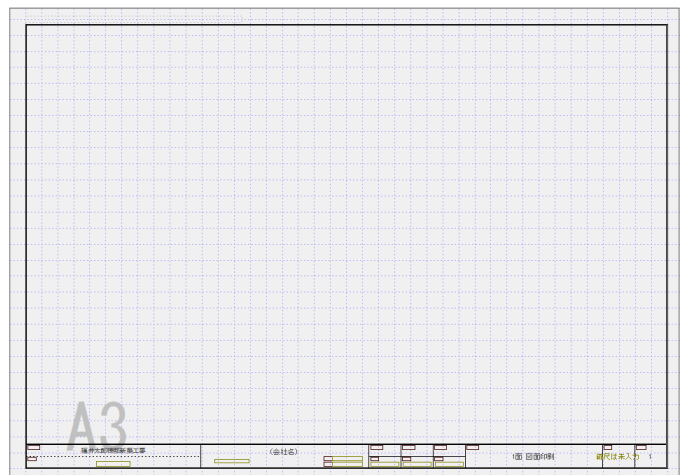
■ モード切替（出力）

図面のレイアウトや印刷を行います。  
配置した図面、図枠項目は「属性」で編集できます。



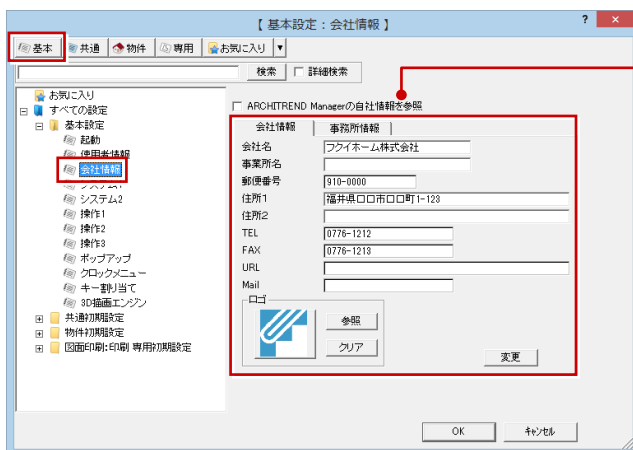
■ モード切替（図枠）

図面枠の作成や登録を行います。  
配置した図面データは編集できません。

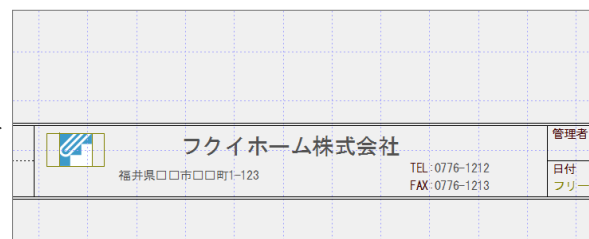


図面枠の会社名や住所の連動

「基本設定（会社情報）」ダイアログで会社名や住所を入力しておく、図面枠を配置したときに会社名、住所、電話番号などが連動します（図面枠にこれらの該当する項目が配置されている場合）。



● マネージャーの自社情報（「設定」メニューの「初期設定」の「自社情報」を設定している場合は、「ARCHITREND Manager の自社情報を参照」にチェックを付けます。

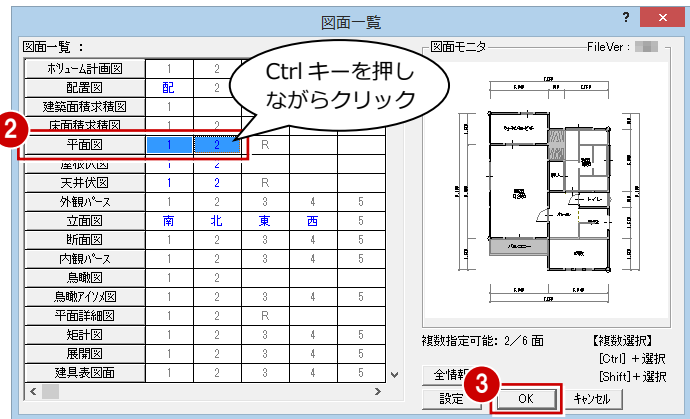


## 平面図を配置する

① 「図面」 をクリックします。

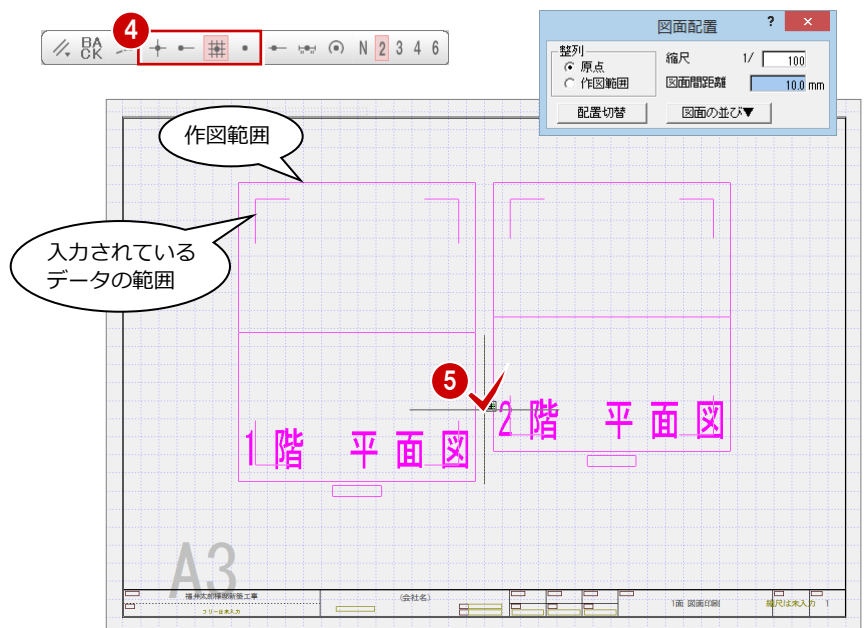


② Ctrl キーを押しながら、「2」をクリックして、平面図 1・2 階が選択された状態にします。

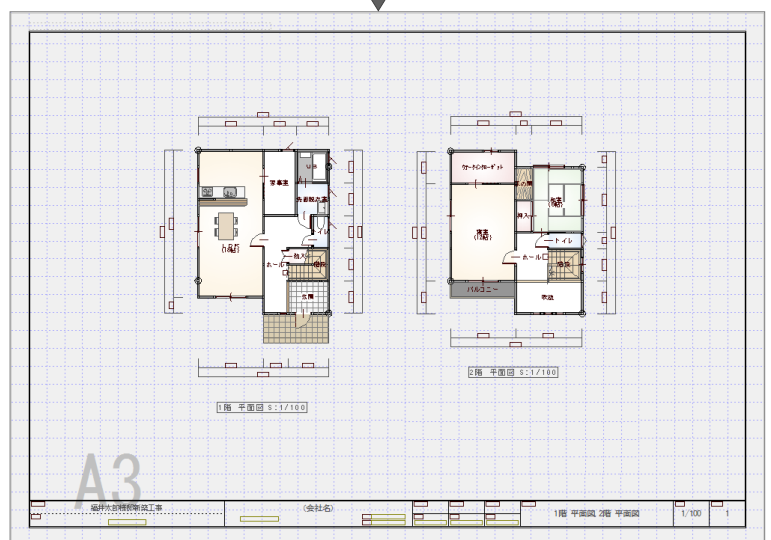
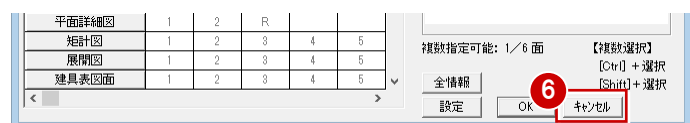


③ 「OK」 をクリックします。

④⑤ 「グリッド」のみ ON にして、図面の配置位置をクリックします。

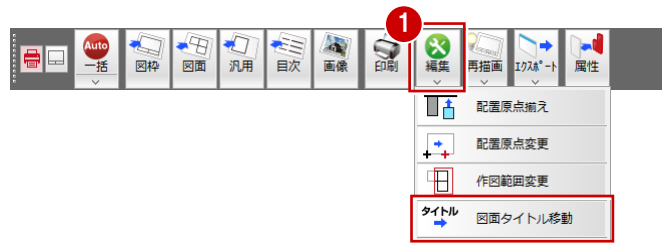


⑥ 再度、「図面一覧」ダイアログが開くので、「キャンセル」をクリックします。

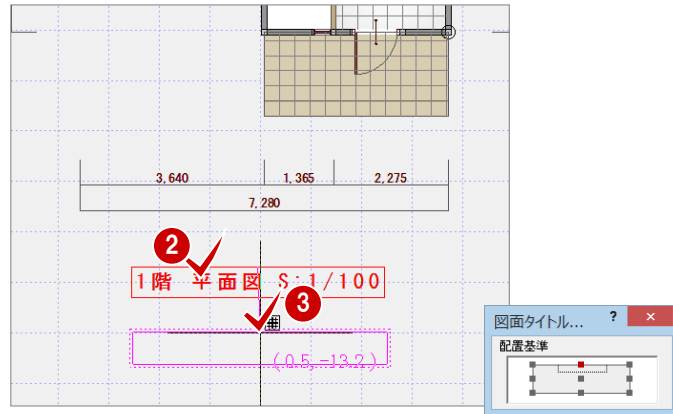


## 平面図のタイトルを移動する

- ① 「編集」メニューから「図面タイトル移動」を選びます。

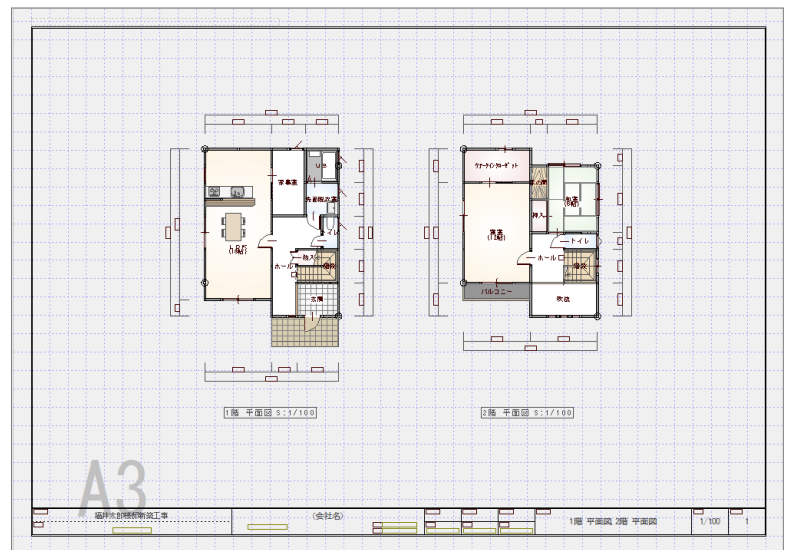
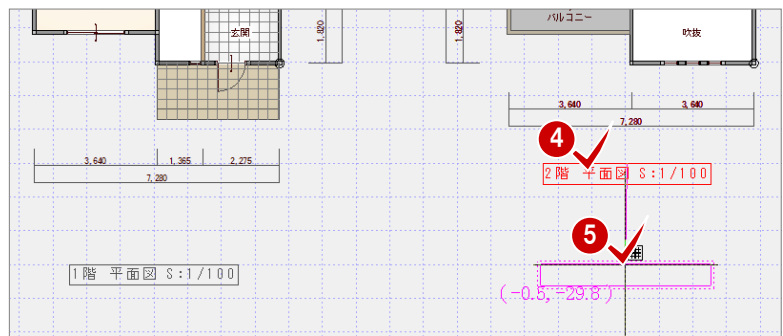


- ② 1階 平面図のタイトル部分をクリックします。



- ③ タイトルの移動先をクリックします。

- ④⑤ 同様な操作で、2階 平面図のタイトルを移動します。

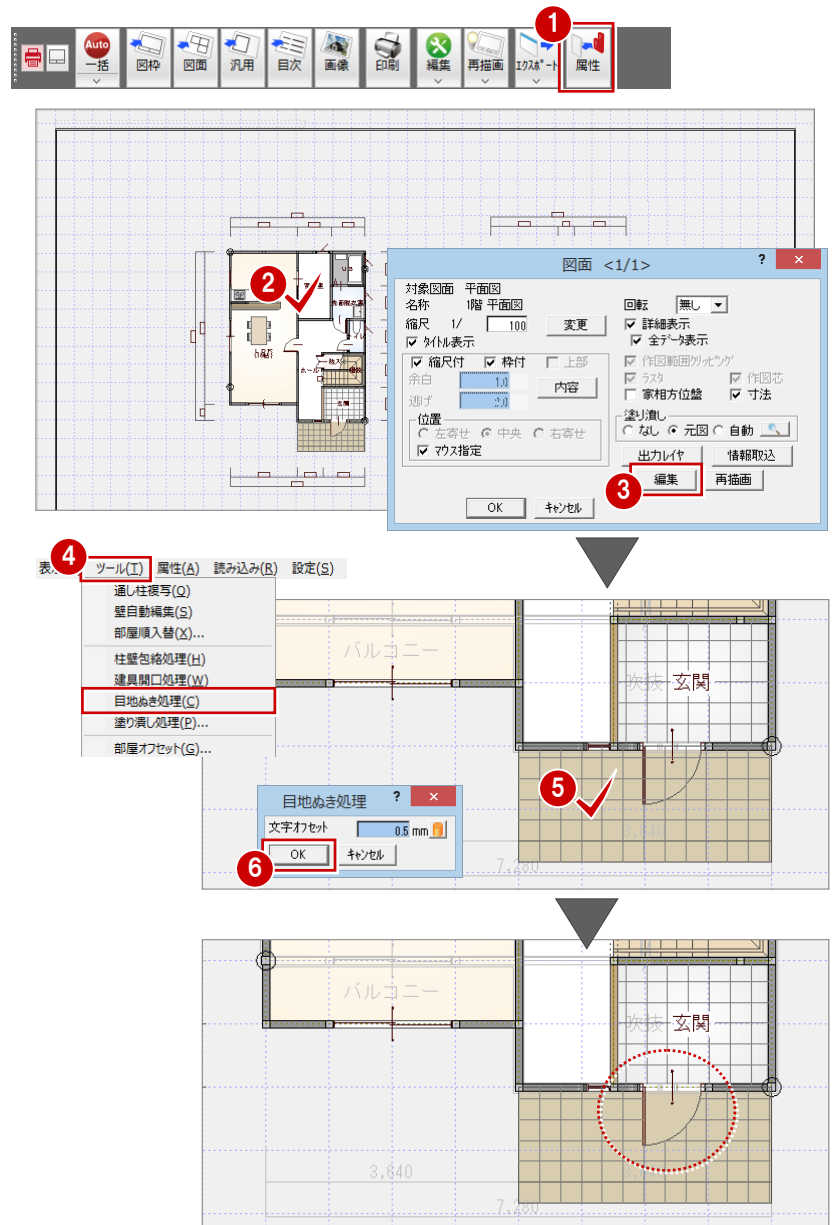




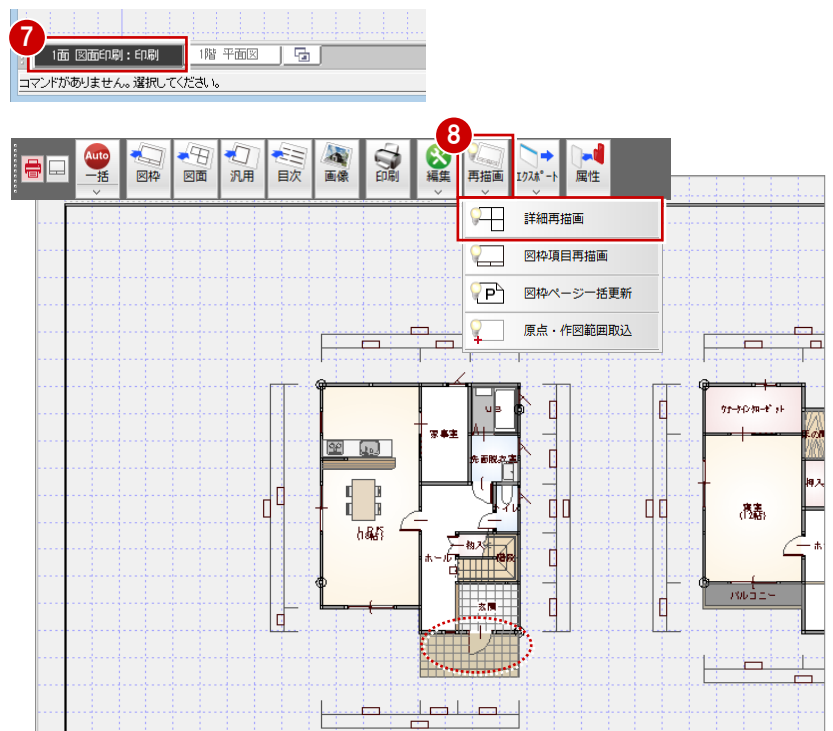
## 図面を編集する

パーソモニタでポーチの素材を変更したときに目地が復元してしまったため、平面図に戻り目地ぬき処理を行います。

- 1 「属性」をクリックします。
- 2 1階 平面図をクリックします。
- 3 「編集」をクリックします。  
「1階 平面図」が開きます。
- 4 「ツール」メニューから「目地ぬき処理」を選びます。
- 5 ポーチをクリックします。
- 6 「OK」をクリックします。  
玄関建具の開きの円弧部分の目地が削除されます。

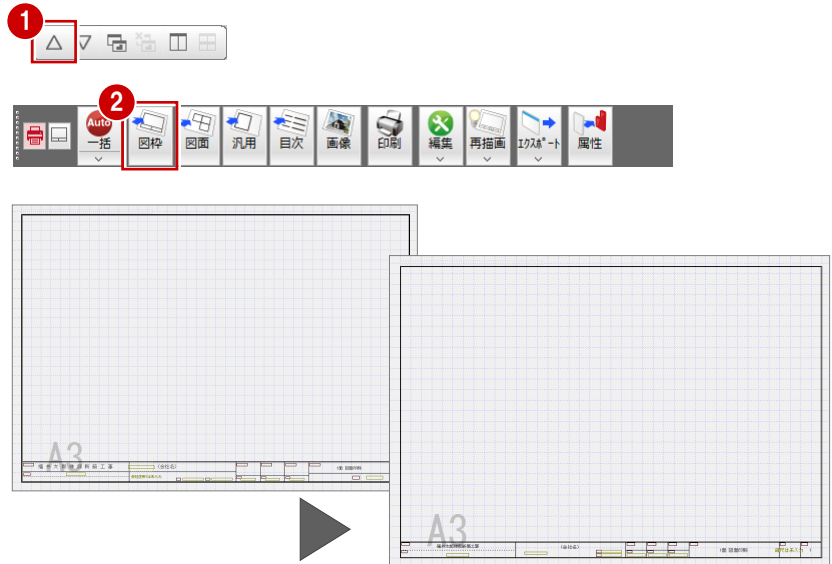


- 7 「1面 図面印刷：印刷」タブをクリックします。  
「図面印刷」ウィンドウに戻ります。
- 8 「再描画」メニューから「詳細再描画」を選びます。  
配置図面が最新データに更新され、修正後の図面が表示されます。



## 2面に図面枠を配置する

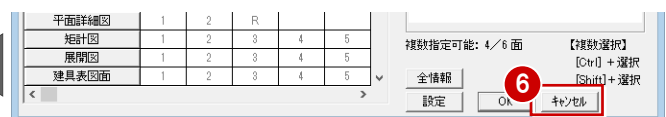
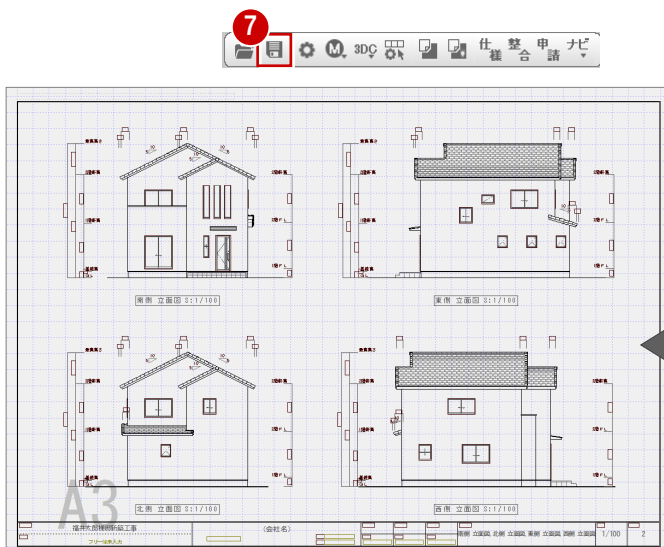
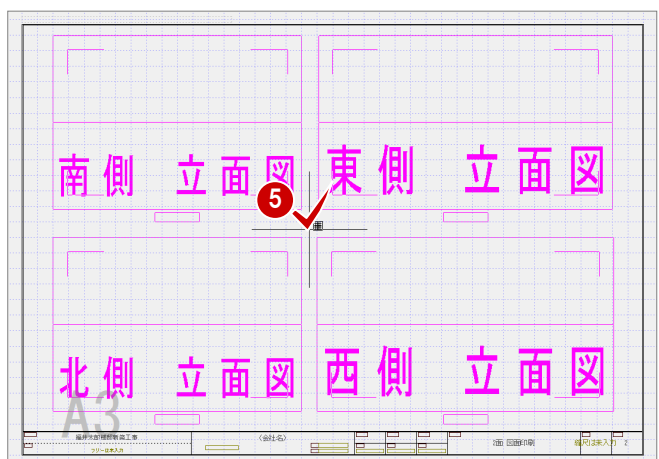
- 1 「上図面へ」をクリックして、2面を開きます。
- 2 「図枠」をクリックして、1面目と同様に、「\*2:FCA-A3サイズ-2」タブの「タイプ1」を配置します。



## 立面図4面を配置する

2面目に立面図4面を配置しましょう。

- 1 「図面」をクリックします。
- 2, 3 立面図の「南」をクリックし、Shiftキーを押しながら、立面図の「西」をクリックします。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 図面の配置位置をクリックします。
- 6 「図面一覧」ダイアログを「キャンセル」で閉じます。
- 7 「上書き保存」をクリックして、データを上書き保存します。



## 5-2 図面の印刷

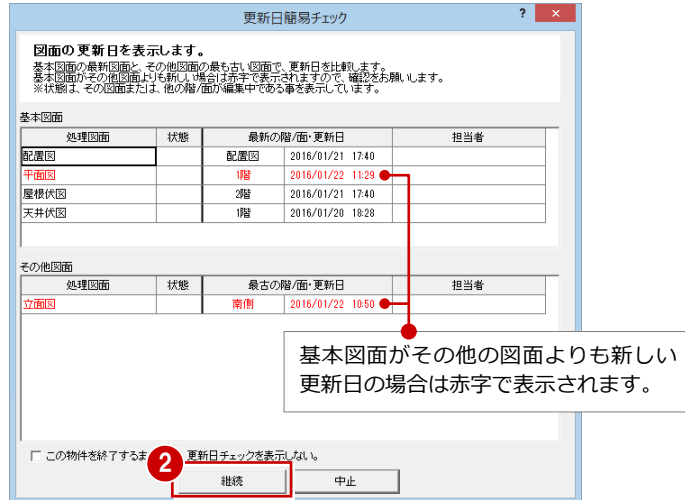
図面のレイアウトができれば、プリンタで印刷しましょう。

① 「印刷」 をクリックします。

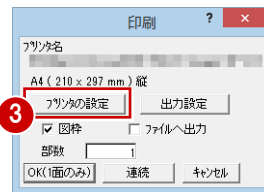


② 図面の更新日を確認して、「継続」 をクリックします。

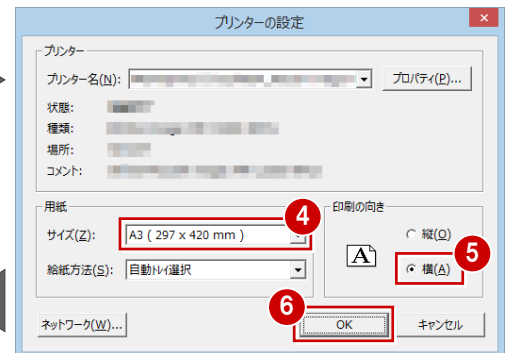
※ ここでは、平面図で目地ぬき処理を行ったため、平面図と立面図が赤字で表示されていますが、そのまま進みます。



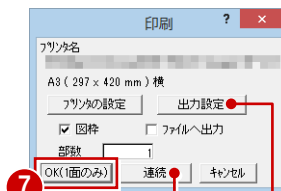
③～⑤ 「プリンタの設定」 をクリックして、使用するプリンタや用紙サイズ、用紙の向きを設定します。



⑥ 「プリンタの設定」 ダイアログの「OK」 をクリックします。



⑦ 「印刷」 ダイアログの「OK (1面のみ)」 をクリックして、印刷を開始します。



ペン No ごとの出力の有無、線幅や色、線種、文字のフォントなどを設定できます。

複数の図面をまとめて印刷します。

「図面一覧」 で印刷したい図面を複数選択します。

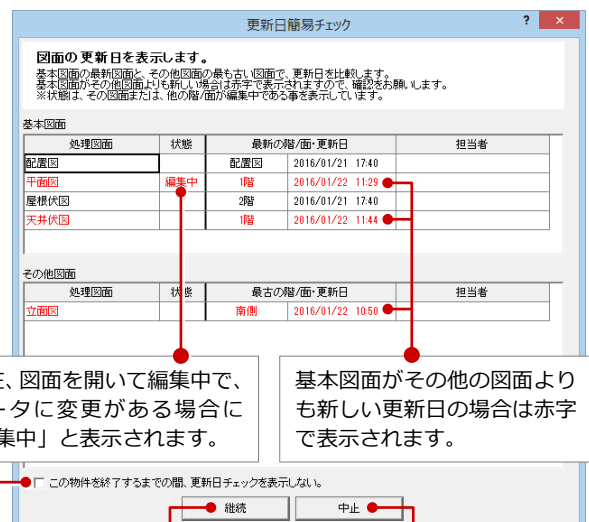
### 更新日簡易チェックについて

図面間の整合性をチェックするために、基本図面（配置図、ボリューム計画図、平面図、屋根伏図、天井伏図）とその他の図面（立面図や平面詳細図など）で、図面の更新日を比較しています。

あくまでも、更新日（日付と時間）だけで判断していますので、簡易チェック機能としてお使いください。

更新日チェックを表示しないするには、「基本設定（システム 1）」ダイアログの「印刷時に日付をチェック」を OFF にします。

また、「この物件を終了するまでの間、更新日チェックを表示しない」を ON にした場合は、物件を閉じて再度開くまで表示しません。



現在、図面を開いて編集中で、データに変更がある場合に「編集」と表示されます。

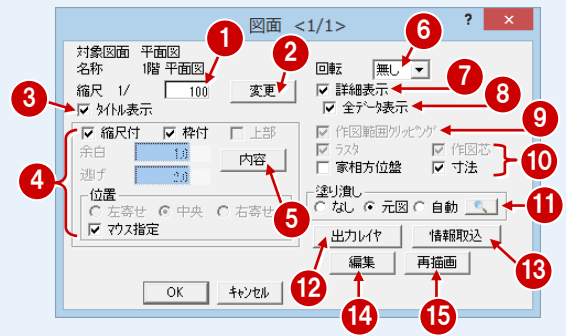
基本図面がその他の図面よりも新しい更新日の場合は赤字で表示されます。


内容を確認して、印刷を行います。

印刷を中止します。

### 【補足】図面の属性変更ダイアログの設定項目

「属性」をクリックして図面を選択すると、右の画面が表示されます。この画面で図面の縮尺、タイトル、塗り潰しなどを設定できます。



①	縮尺	図面は作成時の縮尺で配置されます。縮尺を変えたいときはここで値を変更します。
②	変更	対象図面を別の図面に入れ替えるときに使用します。
③	タイトル表示	図面にタイトルを表示するかしないかを設定します。
④	タイトルの設定	<p>タイトルに縮尺を付けるか、枠で囲むか、図面（作図範囲）に対してどの位置に配置するかを設定します。</p> <p>※「図面タイトル移動」でタイトル位置をマウスで指定したときは「マウス指定」が ON になり、タイトル位置に関する設定は非表示になります。現在のタイトル位置を無効にして、図面に対する位置で配置し直す場合は、「マウス指定」を OFF にして各設定を行います。</p>
⑤	内容	タイトルの内容や文字サイズ、フォントなどを変更できます。
⑥	回転	図面を回転させて配置したいときに使用します（タイトルの表示は回転しません）。図面の向きは 90 度ずつ回転可能です。
⑦	詳細表示	ON のとき、図面データを表示します。
⑧	全データ表示	ON のとき、全データを表示します。大きなデータなどで図面の表示時間を短縮したい場合は OFF にします。OFF のとき、線分データが 10,000 本を超えるデータの場合は、10,000 本までしか表示しません。なお、OFF の状態でも印刷時にはすべてのデータが出力されます。
⑨	作図範囲クリッピング	作図範囲の外側にデータが存在する場合に選択できる設定です。ON にすると、作図範囲の外側のデータは出力されません。OFF にすると、すべて出力されます。
⑩	ラスタ/作図芯/家相方位盤/寸法	ラスタ、作図芯、家相方位盤、寸法のデータが存在する場合に選択できる設定です。チェックを OFF にしたデータは出力されません。
⑪	塗り潰し	<p>塗り潰し領域や柱壁の塗り潰しに関する設定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし：塗り潰しは出力しません。塗り潰しがある図面でも線画のみになります。</li> <li>・元図：図面通りの出力です。塗り潰しがある図面は塗り潰しが出力され、塗り潰しがない図面は線画のみになります。</li> <li>・自動：柱壁のみ塗り潰して出力されます。 をクリックして塗り潰しの対象を種類ごとに指定できます。このときの塗り潰し色は「図面印刷 専用初期設定（ペン No と表示色）」ダイアログの「塗り潰し色」で選択されている色となります。</li> </ul>
⑫	出力レイヤ	図面に出力しないデータをレイヤ単位で指定できます。
⑬	情報取込	図面配置後に作図原点、作図範囲、縮尺を変更した場合は、ここをクリックしてその情報を取り込みます。
⑭	編集	<p>ここから図面ウィンドウを開いて編集できます。図面修正後は、「図面印刷」ウィンドウに戻り、「再描画」メニューの「詳細再描画」を実行します。図面印刷では、図面のレイアウト情報を保存しているだけで、個々の図面データは保持していないため、図面をレイアウト後に編集した場合は、「詳細再描画」を実行して図面データ表示を更新し、確認してから印刷してください。⇒ P.67 参照</p>
⑮	再描画	図面の最新データ（作図原点・作図範囲・縮尺を除く）を取り込みます。

